

名城大学FD活動報告書

Meijo Faculty Development activity report

令和元年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

目 次

1. はじめに

- 令和元年度のFD活動を振り返って…………… 1
大学教育開発センター委員会委員長 山田 宗男

2. 令和元年度大学教育開発センター委員会

- 委員構成…………… 3
- 活動記録…………… 6

3. 令和元年度FD活動一覧

(第21回FDフォーラム、第1回新任教員FD研修会、令和元年度授業改善アンケート、名城大学FD NEWS (Vol.12)、名城大学教育年報、FD活動報告書、教育功労賞表彰、学外セミナー・研究集会等への派遣) …………… 11

4. 令和元年度正課外教育活動一覧

(入学前教育、名城サプリメント教育、学習サポートルーム)…………… 17

5. 令和元年度 各学部・研究科等におけるFD取組を推進する組織の活動報告 …………… 23

- 法学部・法学研究科
- 経営学部・経営学研究科
- 経済学部・経済学研究科
- 理工学部・理工学研究科
- 農学部・農学研究科
- 薬学部・薬学研究科
- 都市情報学部・都市情報学研究科
- 人間学部・人間学研究科
- 外国語学部
- 総合学術研究科
- 教職センター

6. トピックス

- 第21回FDフォーラム実施報告
 - ・ 第21回FDフォーラム実施報告…………… 97
 - ・ 参加者アンケート集計結果…………… 98
 - ・ 当日配布資料…………… 111
- 第1回新任教員FD研修会実施報告…………… 127
- 教育功労賞表彰報告
 - ・ 表彰者一覧…………… 141
 - ・ 表彰内容…………… 142

7. 資料

- 大学教育開発センター委員会要項…………… 147
- 令和元年度所属別FD活動参加状況…………… 149

8. おわりに

- あ と が き …………… 151

1. はじめに

令和元年度の FD 活動を振り返って

大学教育開発センター委員会

委員長 山田 宗男

平成20年度に大学設置基準においてFDが義務化され、早12年目を迎えます。本学のFD活動はそれに先んじて平成12年度から始まっており、先陣の教職員の方々のご尽力によって、現在では、入学前教育、アセスメントテスト、シラバスの整備、授業改善アンケート、教員コメントフィードバック、学修成果の可視化に係る外部調査、在学生および卒業予定者対象アンケートの実施等々、入学から卒業まで一連の整備を終えたと言えます。しかし、本学が社会、学生および受験者のニーズ・期待に応えるためには、これら一連の取組の実質化や文部科学省等の最新動向を踏まえた施策の実施を今後も継続的に行う必要があります。FD・SDの取組は、トップダウン的に実施することは無意味であり、教職員各自の自己研鑽に基づき、FD・SD本来の趣旨を念頭に現場感覚に基づいた本学独自の取組をボトムアップ的に醸成することが必要であると考えます。現段階では残念ながら、全ての教職員がFD・SD活動に自発的かつ熱心に取り組んでいるとは言い難い状況ではありますが、組織全体としての取組は着実に積み上がっているものと確信しています。FD・SDの根幹をゆるぎないものとするためには、教育を通じた人材育成に関する内部質保証システムの確立が必須となります。そのためには、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の絶えざる見直しと、それを検証するための学修成果の可視化が不可欠となります。FD・SD活動は、教育の質改善と質の高い人材育成を行うための重要な取組であり、その手法および過程を可視化すると共に、成果を教職員全体で共有しながら実践的に活用していくサイクルこそが内部質保証を高度に維持するためには必要不可欠と考えます。

上述に基づき、大学教育開発センター委員会の任務は、学部・研究科主体のFD・SD活動の支援、それらの内容の全学的共有、全学規模での活動企画（授業改善アンケート、学修成果の可視化に係る外部調査、FDフォーラム、FD学習会、教育功労賞、教育年報、新任教員FD研修会、FDニュース等々）の実施、さらには、高等教育改革における諸課題への対応であり、以下に今年度の取組について省察します。

まず、授業改善アンケートについては、質問項目の継続的な見直しを図ると共に、学生自身の授業に対する姿勢についても振り返りができる質問を加える等、質問内容についても改善を重ねています。また、平成28年度の前期より紙ベースからWebベースの回答形式へ切り替えを始め、平成28年度後期には全面的にWeb形式に変更されましたが、変更当初よりアンケートの回答率の低下が問題となっていました。そのため今年度は、学生へのヒヤリングを実施して原因究明を行うと共に、回答マニュアルの整備、アンケートの回答を促すポスターの講義室への貼付、学生ホールおよび食堂での周知、授業改善アンケート集計結果閲覧コーナーの設置等、新たな改善対策に努めました。残念ながら、現状では微小な回答率向上は見られるものの劇的な改善には至っていませんが、引き続き、対策・改善に努力したいと思っています。これについては、小手先だけの方法論では解決を見ない問題であり、教職員の皆様のご理解とご協力を切に願います。

学修成果の可視化に係る外部調査については、昨年度までは希望学部のみの実施に留まっていますが、今年度から全学部全学科にて実施していただきました。本調査の目的は、学生個々の学修行動・学修成果について調査することで、教育の成果がどの程度上がっているかを把握するものであり、今後の教育プログラムの在り方やFD・SDの進め方、さらには学生指導方法の見直し等に役立つ情報を得ようとするものです。現段階ではJSAAP、PROG、GPS-Academic等の外部団体による調査を活用する試行段階であり、本来は学部独自でアセスメントポリシーに基づく適正な調査・評価方法を検討いただくことが望ましいと考えています。またこの調査は、単年度対象の調査ではなく、年次推移に関する検討が重要となります。そのため、来年度は複数年次を対象とした調査が行えるよう援助の準備を進めていますので、引き続きご協力の程、よろしくお願いします。

今年度のFDフォーラムは、本学が令和4年に第3期の認証評価を迎えるにあたり、メインテーマを「学生の成長につながる教育の質保証について考える―第三期認証評価を踏まえて―」としました。基調講演に国際教養大学の鈴木典比古 学長、また、事例報告には清泉女子大学の高野禎子 副学長および竹井菜奈子氏、玉川大学の稲葉興己 理事を講師としてお招きし、第3期認証評価で求められる具体的な内容および内部質保証の具体的な取組事例についてご講演いただきました。当日は225名の多くの参加があり、質疑応答も活発に行われ「FD・SD」への関心の高さが伺えました。お忙しい中、貴重な時間を割いて参加いただいた教職員の皆様には心よりお礼申し上げます。

また、今年度からの新たな取組として、「新任教員FD研修会」の実施および「FDニュース」の発刊を再開しました。

新任教員FD研修会については、4月に本学の専任教員に着任された先生方を対象に、授業運営や学生指導にあたり困っていることや苦心していること等を共有し意見交換することで、FD活動の動機づけおよび教員の交流を深める機会としたいと考えています。今年は、名古屋大学高等教育研究センターの中島英博 准教授を講師としてお招きして12月に開催しました。自身が初年度に作成したシラバスを持参していただき、その内容について振り返るワークショップ形式のご講演で、参加者全員の好評を博しました。

FDニュースについては平成23年度以降、発刊が中断していましたが、今年度より再開することとしました。FD・SDに関する学内外の最新の取組および高等教育改革の最新動向等を、スピーディーかつ端的に情報提供・共有するための媒体として有効に活用したく考えています。

冒頭でも触れましたが、本学におけるFD・SDの取組は、本来の趣旨を念頭に教職員の創発によって取組を深めていく体制とすることで、現場感覚に基づいた実践的なFD・SD活動が遂行可能である点が他大学にない特色であると思います。教職員の皆様におかれましては引き続き、より一層のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

2. 令和元年度

大学教育開発センター委員会

令和元年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職 名	氏 名	職 名	氏 名
大学教育開発センター長	委員長・教授	山田 宗男		
学務センター長	教授	山本 雄吾		
法学部	教授	柳澤 武	准教授	仁井田 崇
経営学部	教授	堀川 新吾	准教授	桑島 薫
経済学部	教授	伊藤 健司	准教授	新井 大輔
理工学部	教授	坂東 俊治	教授	中村 栄造
農学部	教授	山岸 健三	准教授	上船 雅義
薬学部	教授	大津 史子	教授	湯川 和典
都市情報学部	教授	酒井 順哉	教授	亀井 栄治
人間学部	教授	一ノ谷 清美	教授	谷口 義則
外国語学部	准教授	柳沢 秀郎	准教授	ウィキン・ポール
総合学術研究科	助教	神藤 定生		
教職センター	教授	竹内 英人		
学務センター	事務部長	青木 利信		
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹		

令和元年度 大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

【入学前教育専門委員会（10名）】

所属等	職 名	氏 名	備 考
大学教育開発センター	センター長・教授	山田 宗男	座長
法学部	教授	柳澤 武	
経営学部	准教授	桑島 薫	
経済学部	准教授	新井 大輔	
理工学部	教授	中村 栄造	
農学部	教授	山岸 健三	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	亀井 栄治	
人間学部	教授	谷口 義則	
外国語学部	准教授	柳沢 秀郎	

【正課外プロジェクト専門委員会（6名）】

所属等	職 名	氏 名	備 考
大学教育開発センター	センター長・教授	山田 宗男	
法学部	准教授	仁井田 崇	座長
農学部	教授	山岸 健三	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	亀井 栄治	
学務センター	事務部長	青木 利信	

【FD 専門委員会（13名）】

所属等	職 名	氏 名	備 考
大学教育開発センター	センター長・教授	山田 宗男	理工学部
学務センター	センター長・教授	山本 雄吾	経済学部
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	教授	堀川 新吾	
経済学部	教授	伊藤 健司	座長
理工学部	教授	坂東 俊治	
農学部	准教授	上船 雅義	
薬学部	教授	大津 史子	
都市情報学部	教授	酒井 順哉	
人間学部	教授	一ノ谷 清美	
外国語学部	准教授	ウィキン・ポール	
総合学術研究科	助教	神藤 定生	
教職センター	教授	竹内 英人	

令和元年度 大学教育開発センター委員会活動記録

- ・ [第1回 平成31年4月4日(木)]

【審議事項】

1. 副委員長の選出について
2. 平成30年度の委員会活動について
 - (1) 平成30年度大学教育開発センター委員会活動実績について
 - (2) 専門委員会の設置について
3. 平成31年度院高度化費(充実施策)の使途について
 - (1) 院高度化費(充実施策)の使途及び予算配分額
 - (2) 平成31年度大学院生研究助成(A)の募集
 - (3) 平成31年度大学院生研究助成(B)の募集
 - (4) 指導教員による申請学生リストの提出
 - (5) 審査方法・審査項目
 - (6) 審査スケジュール
4. 2019年度学内助成制度の審査分担について
5. 第21回FDフォーラムの開催について

【報告事項】

1. 2019年度学習サポートルーム相談員の募集(2次募集)について
2. 第8回FD学習会の実施報告について

- ・ [第2回 令和元年5月9日(木)]

【審議事項】

1. 令和元年度前期授業改善アンケートについて
 - (1) 実施概要・スケジュール
 - (2) 設問項目の検討
 - (3) フィードバック
 - (4) 回答率向上方策
2. 学修成果の把握にむけた外部調査の実施について
3. 学部・研究科・センターにおけるFD推進組織の活動について
 - (1) 各学部・研究科等におけるFD取組を推進する組織の更新について
 - (2) 共通課題について
4. 令和元年度FD刊行物(名城大学教育年報、FD活動報告書)の発刊について
 - (1) 発刊形態について
 - (2) 投稿原稿の募集について
 - (3) 編集作業について
5. 学生及び学外者のFD参画制度の設計について

6. 令和元年度英語プレゼンテーション講座の実施について

【報告事項】

1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について
2. 2019年度学内助成制度の審査分担について
3. 令和元年度学習サポートルームの実施について

【その他】

1. 令和元年度大学院生研究助成（A）・（B）の募集状況について

・ [第3回 令和元年6月6日（木）]

【審議事項】

1. 令和元年度院高度化費の使途について
 - （1）配布予算額の確定について
 - （2）大学院生研究助成（A）・（B）に係る審査結果について
 - （3）スケジュールについて

【報告事項】

1. 令和元年度学修成果の可視化に係る外部調査の実施について

・ [第4回 令和元年7月4日（木）]

【審議事項】

1. 授業改善アンケートに係る学生意見聴取の実施について
2. 令和2年度入学前教育の実施について
3. 名城大学教育年報（第14号）の構成について
4. 授業改善アンケート結果の公表について

【報告事項】

1. 令和元年度前期授業改善アンケート回答状況（中間報告）について

・ [第5回 令和元年9月5日（木）]

【審議事項】

1. 授業改善アンケートについて
 - （1）令和元年度前期授業改善アンケート集計結果報告
 - （2）学生ヒアリング実施報告
 - （3）授業改善アンケートにおける一考察
 - （4）改善方策の検討
2. 新任教員研修の実施について
3. 第21回 FD フォーラムの開催について
4. 令和元年度後期名城サプリメント教育、学習サポートルームの実施について
5. 令和2年度 入学前学習プログラム（MEC プログラム）教材への要望等について

6. 令和2年度入学前学習プログラム（MEC プログラム）案内書類「学部長からのメッセージ」作成依頼について
7. 令和2年度 推薦合格者入学前オリエンテーションチラシの作成について

【報告事項】

1. 令和元年度前期名城サプリメント教育、学習サポートルームの実績報告について
2. 令和2年度 名城サプリメント教育 数学・物理（薬学部開講分）講師について
3. 令和元年度前期授業改善アンケート教員コメント入力状況の報告について
4. 令和2年度 各学部入学前教育参画状況について
5. 令和元年度一般補助「教育の質に係る客観的指標」について
6. 令和元年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ1）について

• [第6回 令和元年10月3日（木）]

【審議事項】

1. 令和元年度後期授業改善アンケートの実施について
 - （1）実施概要・スケジュール
 - （2）学生への趣旨説明文の一部修正
 - （3）回答率向上の具体策
 - （4）前期授業改善アンケート教員コメント入力率の報告
2. 令和2年度学修成果の可視化に係る外部調査実施の希望聴取について
3. 令和元年度教育功労賞の募集について
4. 各学部・研究科等におけるFD取組を推進する組織の活動報告（中間）の依頼について

【報告事項】

1. 令和元年度英語プレゼンテーション講座実施結果について
2. 令和2年度文部科学省概算要求について

【その他】

1. 諸種調査に係る個人情報の取り扱いについて
2. 第21回FDフォーラム
(令和元年10月30日（水）13:30-16:00、天白キャンパス共通講義棟東 H304教室)

• [第7回 令和元年11月7日（木）]

【審議事項】

1. 令和2年度「学びのコミュニティ創出支援事業」テーマ6の審査について
2. 2019年度「学びのコミュニティ創出支援事業」テーマ6の中間評価について

【報告事項】

1. 令和2年度学修成果の可視化に係る外部調査実施の希望聴取結果について
2. 第21回FDフォーラムの実施報告について
3. 第1回新任教員FD研修会の開催について

• [第8回 令和元年12月5日(木)]

【審議事項】

1. 令和元年度後期授業改善アンケートについて
 - (1) 科目数等の確定について
 - (2) 授業科目別報告書閲覧状況について
 - (3) 集計結果の学生へのフィードバックについて
2. プレFDの努力義務化への対応について
3. SD(スタッフ・ディベロップメント)実施の検討について

【報告事項】

1. 名城大学教育年報(第14号)投稿状況及び原稿確認依頼・スケジュールについて
2. FD推進組織の中間報告について

• [第9回 令和2年1月9日(木)]

【審議事項】

1. 令和元年度教育功労賞審査について
2. 授業改善アンケート集計結果の学生へのフィードバックについて(継続)
3. 名城大学FD NEWS(Vol.12)の発刊について
4. 第9回FD学習会の開催について

【報告事項】

1. 令和元年度後期授業改善アンケートの実施報告(中間)について
2. 令和元年度FD活動報告書の作成依頼について
3. 第1回新任教員FD研修会実施報告について
4. 令和2年度推薦合格者入学前オリエンテーションタイムテーブルについて
5. 大学コンソーシアム京都「第25回FDフォーラム(2/29(土)、3/1(日))」の開催案内について
6. 大学教育改革フォーラムin東海2020の開催案内について

【その他】

1. 令和2年度「学びのコミュニティ創出支援事業」テーマ6の審査について

• [第10回 令和2年2月27日(木)] ※メール審議

【審議事項】

1. 令和2年度学習サポートルーム相談員募集について

- [第11回 令和2年3月12日(木)]

【審議事項】

1. 令和2年度院高度化費について
 - (1) 院高度化費の使途及び予算配分額について
 - (2) 大学院生研究助成(A)(B)、英語プレゼンテーション講座の募集に係る意見聴取について
 - (3) 本学大学院生を対象としたプレFDの助成について
2. 令和2年度名城サプリメント教育の開講について
3. 正課外教育に係る学生及び教員への周知について
4. 令和2年度 学習サポートルーム相談員の採用に係る研修について

【報告事項】

1. 学修成果の可視化に係る外部調査の予算配布について
2. 令和元年度後期名城サプリメント教育の実績報告について
3. 令和元年度後期学習サポートルームの実績報告について
4. 令和2年度 推薦合格者入学前オリエンテーション及び入学前学習プログラム(MECプログラム)結果について
5. 令和元年度後期授業改善アンケートの実施報告について
6. FD刊行物の編集状況について
 - (1) 名城大学教育年報
 - (2) FD活動報告書
7. 教学マネジメント指針について
8. 令和元年度大学教育開発センター委員会の活動報告について
9. FD参加率の向上について

3. 令和元年度 FD 活動一覽

令和元年度 FD活動スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大学教育開発センター委員会	★ 第1回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第2回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第3回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第4回 大学教育 開発センター 委員会		★ 第5回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第6回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第7回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第8回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第9回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第10回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第11回 大学教育 開発センター 委員会
授業改善アンケート				↑ 授業改善 アンケート 実施	↑ アンケート結果 フィードバック					↑ 授業改善 アンケート 実施	↑ アンケート結果 フィードバック	↑ アンケート調査 結果報告書発刊
教育年報		↑	↑	↑	↑ 教育年報投稿募集			↑	↑	↑ 教育年報刊行作業		↑ 教育年報発刊
FDフォーラム							★ 第21回FDフォーラム		★ 第1回新任教員 FD研修会	★ 第9回FD学習会 (開催延期)		
教育功労賞										↑ 教育功労賞候補者募集	★ 審査	★ 教育功労賞表彰

令和元年度 FD 活動一覧

1. 第21回 FD フォーラム

日 時：令和元年10月30日（水） 13：30～16：00

テ ー マ：学生の成長につながる教育の質保証について考える―第三期認証評価を踏まえて―

参加者数：225名

プログラム：

基調講演 「認証評価の第3サイクルの概要と大学に求められること」

鈴木 典比古 氏（国際教養大学・学長）

事例報告① 「内部質保証の実質化に向けて」

高野 禎子 氏（清泉女子大学 副学長）

竹井 菜奈子 氏（清泉女子大学 理事長室兼総務課）

事例報告② 「玉川大学における教育改革」

稲葉 興己 氏（学校法人 玉川学園 理事（高等教育担当））

2. 第1回新任教員 FD 研修会

日 時：令和元年12月6日（金） 16：30～18：00

テ ー マ：大学の授業を設計する

参加者数：22名

講 師：名古屋大学高等教育研究センター 中島 英博 准教授

3. 令和元年度前・後期授業改善アンケート

・実施期間：前期…令和元年6月27日～令和元年7月20日

後期…令和元年12月14日～令和2年1月11日

・対象科目：

学部の授業を担当する専任教員及び非常勤講師を対象とし、昨年度（平成30年度）前・後期にアンケートを実施した授業科目において実施した。昨年度の対象科目がない場合は、担当授業科目のうち、最も履修者数が多い授業科目において実施した。（ただし、体育科目、オムニバス形式の科目、実験・実習・演習科目、履修者数が10名未満の科目は除く）

実施科目数は前期775科目（学生回答数：延べ 21,184件）

後期771科目（学生回答数：延べ 17,741件）

・概 要：

学生の授業に対する意見を把握し、改善点・要望事項を把握するとともに、調査結果を今後の授業改善の一助とするために実施した。

全対象科目のアンケートを Web 上で実施しており、集計結果は教員個人にフィードバック

クし、授業改善に必要な情報として活用されている。また、学部単位におけるFD活動を推進する際に活用する材料として、強みと弱みを明確にした分析結果を報告書として取り纏め、全教員に配布し、授業改善の素材として活用している。

4. 名城大学 FD NEWS (Vol.12)

- 発 刊 日：令和2年1月
- 内 容：～内部質保証について考える～
 1. 内部質保証のポイント
 2. FD フォーラム「学生の成長につながる教育の質保証」の概要
 3. その他の名城大学のFD活動
 4. 刊行物の紹介

5. 名城大学教育年報第14号発刊

- 発 刊 日：令和2年3月
- 概 要：

本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告の募集、教育功労賞受賞者及びFDフォーラム講師による特別寄稿を依頼した。

電子媒体によりウェブ公開する（本学ホームページ上に掲載）。

教育年報の種別・内容等は次のとおりである。

	定義
教育実践報告	教育実践を対象とした取り組みで、本学及び他の大学の学部・研究科・センター・部署の参考になるような報告
特別寄稿 ※	(1) 教育功労賞受賞者による特別寄稿 (2) FD フォーラム講師による特別寄稿
教育実践報告の投稿資格	名城大学の教職員（教員・事務職員）。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員（非常勤講師）の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

※これらの定義は現時点で想定している事例であり、必要に応じて追加する。

第14号では、教育実践報告については内容の確認を経て、5報告を掲載。教育功労賞受賞者による特別寄稿2件及びFDフォーラム講師による特別寄稿1件を掲載した。

6. 令和元年度FD活動報告書発刊

- 発 刊 日：令和2年3月
- 概 要：

令和元年度の本学におけるFD活動をまとめたもので、大学教育開発センター委員会の活動報告や第21回FDフォーラムの報告を掲載した。

電子媒体によりウェブ公開する（本学ホームページ上に掲載）。

7. 教育功労賞表彰

・概 要：

大学教育開発センター委員会では、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ（事務職員を含む）に教育功労賞を授与することとしている。今年度は、1件の申請があり、大学教育開発センター委員会による審査の結果、相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとした。

令和元年度教育功労賞取組一覧

氏 名	所属学部等	単独／グループ	表彰対象となった活動・テーマ
海外プログラム 実施・運営 コアメンバーズ	外国語学部	グループ	学部ベースの海外プログラムの実施・ 運営と国際共修経験による教育効果

9. 令和元年度学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センターの予算執行分のみ掲載】

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
1	平成31年4月16日、24日	大学評価実務説明会	公益財団法人 大学基準協会	2名
2	令和元年5月11日	“社会に触れる喜び”とこれからの高等教育 －ハンズオン・ラーニングの現在地－	関西学院大学	1名
3	6月1日	大学教育学会第41回大会（2019年） 高大接続改革と大学教育	一般社団法人 大学教育学会	1名
4	6月21日	「教育の質保証」実践セミナー ～「学修成果の可視化」と「教学マネジメント の確立」に向けて～	株式会社学びと成長しくみデザ イン研究所	1名
5	6月29日	2019年度全国私立大学FD連携フォーラム 総会・シンポジウム	全国私立大学FD連携フォーラム	1名
6	7月19日	カリキュラム設計担当者養成プログラム（基礎編） 学修成果に基づく教学マネジメントに向けて	九州大学基幹教育院 次世代型大学教育開発センター	1名
7	9月24日～26日	令和元年度（通算第57回） 「大学教務部課長相当者研修会」	日本私立大学協会	1名
8	9月26日	第27回 教育改革シンポジウムおよび第17回 FD研究会	大阪市立大学 大学教育研究センター AP事業プロジェクト推進委員会	1名
9	9月27日	第2回 大学評価研究所「公開研究会」	公益財団法人 大学基準協会	1名
10	10月31日	2019年度教育改革事務部門管理者会議	公益財団法人 私立大学情報教育協会	1名
11	11月2日	「アセスメント活用研究会」 ～学生成長に寄与する学修成果の可視化をめざ して～	株式会社ベネッセi-キャリア 教育事業本部	3名
12	令和2年2月10日	AP総括シンポジウム 「アクティブ・ラーニング、学修成果の可視化 のこれまでとこれから」	大阪府立大学 高等教育開発センター	1名
13	2月19日	令和2年度「卓越大学院プログラム」公募説明 会	文部科学省	1名

4. 令和元年度 正課外教育活動一覽

令和元年度正課外教育活動一覧

1. 入学前教育

(1) 概要

本学の推薦入試等合格後、学習習慣を維持するとともに、入学後に大学での学習を円滑に開始するための一助とすることを目的とした教育プログラム。

主な内容として、①推薦合格者入学前オリエンテーション（入学する学部の教員等との交流の機会を持ち、今後の学習の厳しさを伝えとともに、入学後の姿をイメージさせることで高校生から大学生への転換を図る）、② MEC プログラム（自宅学習）で構成される。

≪ MEC プログラム開講科目 ≫ 【表の見方】 ◎ … 学部推奨 ○ … 開講 — … 未開講

MEC 開講科目		経営学部	外国語学部	人間学部	都市情報学部	理工学部	農学部	薬学部
科目名	主な学習内容							
Reading I (初級)	平易な中文・長文読解 英検準2級～2級レベル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—
Reading II (中級)	中文・長文読解など 英検2級レベル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—
英語の基礎	高校で学ぶ英文法基礎 英検3級～準2級レベル	◎	—	◎	◎	◎	◎	—
日本語表現	大学で必要となる 「読む・書く」の基本	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
数学(文系)	数Ⅰ・A、数Ⅱ・Bまで 四則計算、統計など	◎	—	◎	◎	—	—	—
数学(理系) ＜基礎＞	三角関数、微積など 数Ⅰ・Ⅱが不得意な人	—	—	—	—	◎	○	—
数学(理系) ＜応用＞	三角関数、微積など 基礎力を高めたい人	—	—	—	—	◎	○	—
数学(薬)	数Ⅱ、数Ⅲ 関数の極限、微積など	—	—	—	—	—	—	◎ 未履修者中心
物理(理系) ＜基礎＞	力学・運動方程式など 物理基礎が未履修・不得意な人	—	—	—	—	◎	○	—
物理(理系) ＜応用＞	力学・運動方程式など 基礎力を高めたい人	—	—	—	—	◎	○	—
物理(薬)	力学・運動方程式など	—	—	—	—	—	—	◎
化学	電子配置、化学結合など	—	—	—	—	◎	◎	—
生物	細胞、遺伝子、呼吸など	—	—	—	—	—	◎	◎ 未履修者中心

※1 上記から2科目選択。

※2 法学部・経済学部は、MEC プログラムは未開講（オリエンテーションのみの実施）。

(2) 参加者数及び実施日程

①推薦合格者入学前オリエンテーション：1,122名（平成31年1月13日実施）

② MEC プログラム：555名

(3) 参加者アンケート結果（一部抜粋）

① 推薦合格者入学前オリエンテーション

【オリエンテーションの満足度】

法学部：92.6%	経営学部：94.5%	経済学部：97.0%	理工学部：93.2%
農学部：96.6%	薬学部：100%	都市情報学部：100%	
人間学部：97.6%	外国語学部：98.0%		

【自由記述】

- 入学してからの学習内容や目的などを理解することができたから。
- 丁寧な説明があり、グループワークで大学での講義がイメージできたから。
- 大学と高校の違いがよく分かり、大学生活の視野が広がった。
- 大学への期待や不安もあったが、期待感の方が大きくなるような内容だったから。

② MEC プログラム（自宅学習）

【自宅学習への満足度】 70.2%

【採点・コメント対応】 65.7%

【学力（理解度）の向上】 61.6%

【自由記述】

- 間違っているところのコメントがしっかり分かり易く書かれていて、とてもよかった。
- レポートの書き方について知れたので、とても良い学習になった。
- 入学までに勉強する習慣をつけられたのでよかった。
- 一つ一つ丁寧な採点により、答えと合わせることで力がつく点で手厚いと考えました。

2. 名城サプリメント教育

(1) 概要

高等学校段階において未履修、もしくは受験科目の関係で学習が不十分な教科・科目のうち、本学の専門教育の履修の上で特に重要な諸单元について補習を行うことによって、正課における学修の充実を図る教育プログラム。

《開講科目》

科目名称	開講期・曜日・時間（キャンパス）		実施回数
日本語表現	前期	木曜日 16：30～18：00（天白キャンパス）	13回
		水曜日 16：30～18：00（ナゴヤドーム前キャンパス）	13回
	後期	木曜日 16：30～18：00（天白キャンパス）	10回
		水曜日 16：30～18：00（ナゴヤドーム前キャンパス）	10回
化学	前期	月曜日 16：30～18：00（天白キャンパス）	11回
	後期	月曜日 16：30～18：00（天白キャンパス）	8回
生物	前期	火曜日 16：30～18：00（天白キャンパス）	13回
	後期	火曜日 16：30～18：00（天白キャンパス）	12回
数学・物理	前期	月・水曜日 18：30～20：00（天白キャンパス）	24回
	後期	月・水曜日 16：30～18：00（天白キャンパス）	22回
薬学部向け数学・物理	前期	月・水曜日 16：30～18：00（八事キャンパス）	20回

《実施期間》

前期：平成31年4月15日～令和元年7月18日

後期：令和元年9月24日～12月20日

(2) 利用者延べ数（実数）

502名（141名）

(3) 受講者の感想

【日本語表現】

- ・すごく丁寧な解説でわかりやすかったです。ここなら、やっと国語の力がつきそうだと思います。私だけのために丁寧に教えて下さり感謝しています。
- ・話題ごとにまとめ、書く順番に注意することは難しかったが楽しく学べたので良かった。
- ・文章を書くときは、読者の気持ちになり、読みやすい文章になるよう心がけようと思った。

【化学】

- ・高校では理解しきれなかった部分が大学の授業で出てきて困っていたのですごく助かった。

- いつも分かりやすく教えてくださるので「分からない」ままで終わることがなく助かっています。
- 90分でたくさんの事が復習できるのが良いと思った。

【生物】

- 生物を習っていなくてもわかりやすく一つ一つ丁寧に教えてくれたので良かったです。要点がまとめられており、わかりやすかったです。
- 生物を高校でやっていなかったなので、ここで分かりやすく教えてもらえて良かったです。生物の誕生とか、楽しい内容だったので良かったです。パワーポイントで図や映像で説明してもらえて分かりやすかったです。
- 分かりやすいプリントがもらえてすごく良かったです。
- 今までの復習ができて、自分の分かってない所も把握できてとても良かった。
- 授業をゆっくりやってくれるので、とてもやりやすいです。
- 演習問題までしっかり教えてくれて良かったです。

【数学・物理】

- 物理を履修していなかったので、教えてもらえて良かったです。
- 一つ一つ丁寧に説明してくれたので分かりやすかったです。

3. 学習サポートルーム

(1) 概要

学習の意欲や方法に関して特に問題を抱え、積極的かつ効果的な形で正課の学習に参加できていない学生を対象に、直面する諸問題の解決をアシストすることを通して、学生自身が自立した学習の意欲・方法を身につけ、充実した学生生活が送れるようにサポートする相談窓口。

《開室時間帯》

天白キャンパス	前期	月曜日 10:50～16:20、火曜日 10:50～16:20、 水曜日 10:50～16:20、木曜日 10:50～13:00、 金曜日 10:50～16:20
	後期	月曜日 10:50～14:40、火曜日 10:50～16:20、 水曜日 10:50～16:20、木曜日 10:50～14:40、 金曜日 10:50～16:20
ナゴヤドーム前 キャンパス	前期	火曜日 10:50～13:00、水曜日 13:10～16:20、 木曜日 10:50～16:20、金曜日 10:50～16:20
	後期	月曜日 10:50～12:20、火曜日 10:50～13:00、 水曜日 12:30～16:20、木曜日 10:50～13:00、 金曜日 10:50～13:00、14:50～16:20

(2) 利用者数延べ数（実数）

天白キャンパス	前期（平成31年4月15日～令和元年7月19日）	39名（16名）
	後期（令和元年9月24日～12月20日）	17名（10名）
ナゴヤドーム前 キャンパス	前期（平成31年4月15日～令和元年7月19日）	2名（2名）
	後期（令和元年9月24日～12月20日）	12名（8名）

(3) 相談内容

- レポート・卒業論文に関する相談
- 計算問題に関する相談
- 授業に関する質問
- MEC プログラム自己学習テキスト内容の質問対応

5. 令和元年度
各学部・研究科等における
FD 取組を推進する組織の活動報告

各学部・研究科等における FD 取組を推進する組織一覧

学部	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員（教務委員、学生委員の兼任を含む）、FD 委員
法学研究科	FD 部会	修士課程部会構成員全員
経営学部	GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、キャリア委員、教務委員、FD 委員、担当委員
経営学研究科	教育制度改革委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、主任教授、FD 委員、教務委員
経済学部	経済学部 FD 委員会	経済学部長、経済学科長、教務委員、経済学科委員、産業社会学科長、教務委員、産業社会学科委員、FD 委員
経済学研究科	経済学研究科 FD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員
理工学部	教育改善委員会	委員長（学部長指名）、学科委員（11名）、教養教育委員（1名）、物理教室委員（1名）、理工学部教務委員長、学部評価委員長、大学教育開発センター委員会委員（理工学部2名）、理工学部事務職員（2名）、必要に応じて委員長が指名する委員（若干名）
理工学研究科	教育改善委員会 （大学院教育 WG）	委員長（研究科長指名）、専攻委員（11名）、教養教育委員（1名）、物理教室委員（1名）、理工学研究科教務委員長、学部評価委員長、大学教育開発センター委員会委員（理工学部2名）、理工学研究科事務職員（2名）、必要に応じて委員長が指名する委員（若干名）
農学部	農学部 FD 委員会	農学部 FD 委員を中心とする農学部関係教職員（生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づける）
農学研究科	農学研究科 FD 委員会	農学部戦略委員会の大学院担当委員を中心とした農学研究科関係教職員
薬学部	薬学部 FD 委員会	FD 委員長、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長、教務係事務職員 1 名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD 委員会	薬学研究科主任教授、FD 委員 2 名、大学院担当事務職員 1 名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD 委員会	FD 委員長、FD 委員、担当事務職員 1 名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	大学院主任教授、大学院学務委員、担当事務職員 1 名
人間学部	人間学部 FD 委員会	FD 委員長、学務委員長 2 名、FD 委員 3 名、教務事務職員 1 名
人間学研究科	人間学研究科 FD 委員会	FD 委員長（主任教授）、FD 委員 2 名、教務事務職員 1 名
外国語学部	外国語学部 FD 委員会	FD 委員会委員長、FD 委員会委員
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎田中義人 教授、○伊藤康児 教授、原田健一 教授、志村ゆず 准教授、景山伯春 准教授
教職センター	教職センターFD 推進委員会	曾山 和彦（教授・教職センター長） 竹内 英人（教授・大学教育開発センター委員会委員） 谷口 正明（准教授・教職センター）

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 法学部 ）
推進組織名（ FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

令和元年度においては、「学生の現況にかかる情報、ならびに授業運営の知識と経験の共有化を図ることで、教育の改善と充実を目指す」という活動目標のもと、前年度に引き続き、初年次教育に関連する活動に重点的に取り組んだ。以下、今年度の活動の概略を示しておきたい。

1) 初年次教育研究会の開催（FD・SD）

法学部では、質の高い初年次教育のあり方を集中的に議論するための研究会（初年次教育研究会）を4年前から定期的で開催しており、成果を挙げつつある。今年度は、a) 初年次生の文章作成能力の現状分析とその結果の共有、b) 得られた知見を授業へフィードバックする方法の検討、という従来からのテーマに加えて、c) GPS-Academic を用いた学生の能力把握とそれに基づく初年次教育の手法の構築、というテーマについても議論を重ねた。【←①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善、②その他学部独自の取組】

2) 小論文講評会の開催（FD）

「学びのコミュニティ創出支援事業」と連動させる形で、初年次生を対象にした小論文課題を実施しているが、その講評会を7/19と1/10に開催した。なお、これまでの初年次教育研究会での検討から、この活動によって学生の文章作成能力が実際に向上するということがわかっている。【←②その他学部独自の取組】

3) 文章作成講習会の開催（FD）

6/20に文章作成講習会を実施し、40名ほどの学生が参加した。良い文章とは何かというテーマをめぐって、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れつつ学生の議論を促し、そこに教員も加わった。【←②その他学部独自の取組】

4) 外部機関を用いた学生意識調査の実施（FD・SD）

大学教育開発センターの協力を得て、株式会社ベネッセ i-キャリアが提供する GPS-Academic (GPS-A) を6～9月にかけて実施した。その結果、初年次における専門科目の成績と GPS-A のスコアは連動していること等が判明した。これらをふまえ、今後の教育改善のあり方について学部内で広く議論を行った。また後期には、他大学との比較を行うことにより、より精緻な分析を施した。【←①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善】

5) 学部独自の初年次生アンケートの実施 (FD・SD)

初年次生が学生生活の何に困難を覚えているのかを調査すべく、学部独自の初年次生アンケートを5月末に実施した。その結果、交友関係の悩みと学修上の悩みが必ずしも関連していないこと、この時期の初年次生の悩みは大きく4パターン（より精緻には5パターン）に分類可能であること、また、深夜アルバイトの割合が大きいことが判明した。今後も継続して本アンケートを実施することにより、初年次生の実態を把握していくことも確認された。【←②その他学部独自の取組】

6) 新任教員アンケートの実施 (FD・SD)

新任教員を対象としたアンケートを、昨年度に引き続き、8月～9月に実施した。本アンケートは授業や職務の運営において新任教員が抱えている困難を早期に発見、共有するとともに、さまざまなノウハウを新任教員へ伝達することを目的としている。その結果、学生の評価に関して悩みを抱える新任教員が多いことが判明した。これをもとに、今後の望ましいあり方を検討する取り組みを進めているところである。【←②その他学部独自の取組】

7) フィールドワーク実習の実施 (FD)

フィールドワーク実習として、前期と後期に海外研修（中国、台湾）や裁判傍聴（名古屋地裁・高裁）、県庁や警察署の見学を事前・事後学習も含む形で実施した。【←②その他学部独自の取組】

8) 各種セミナー、シンポジウムの取り組み (FD)

前年度と同様、法文化セミナー（前期と後期に実施）や各種シンポジウムを実施した。【←②その他学部独自の取組】

2. 今後の課題、方向性

今年度の活動は、前年度に構築された手法を間違いなく実施するということに重点を置いた。外部機関による学修成果の調査や、学部独自の初年次生アンケートは、今後、FD活動の効果を測るためのベンチマークとして活用されることになる予定である。

本学部においては、FD活動、とりわけ初年次教育研究会を中心とした活動が定着しつつあり、教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。したがって今後は、基本的には大きく体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年 5 月31日	初年次生アンケートの実施	FD・SD	【実施主体】FD 委員会（仁井田、足立、二本柳）、情報分析委員会（松本、前田、久米）
2	令和元年 6 月20日～ 9 月30日	GPS-Academic の実施	FD・SD	【実施主体】FD 委員会（仁井田、足立、二本柳）、情報分析委員会（松本、前田、久米）
3	令和元年 6 月20日	第 1 回文章作成講習会の実施	FD	【出席者】仁井田、松田（真）、長谷川、山口、滝谷、松本、伊川、代田、二本柳
4	令和元年 7 月19日	第 1 回小論文講評会の実施	FD	【出席者】仁井田、山口、滝谷
5	令和元年 8 月6日～ 9 月10日	新任教員アンケートの実施	FD・SD	【実施主体】FD 委員会（仁井田、足立、二本柳） 【対象者】河北、庄村、二本柳、伊藤（博）、菊池、仮屋、松田（真）
6	令和元年10月 3 日	第 1 回初年次教育研究会の実施	FD・SD	【出席者】仁井田、前田、柳沢（雄）、野口、野上、庄村、近藤、山田、伊藤、伊川、山口、川元、久米、笹岡、足立、矢嶋、代田、河北、仮谷、長谷川、滝谷、二本柳、植木、萩野、松本、柳澤（武）、好田、舘
7	令和 2 年 1 月10日	第 2 回小論文講評会の実施	FD	【出席者】仁井田、松本、高松
8	令和 2 年 3 月 5 日	第 2 回初年次教育研究会の実施	FD・SD	【出席者】近藤、伊川、佐藤、植木、前田、野口、野上、久米、山口、仁井田、杉浦、川原、足立、長谷川、萩野、矢嶋、代田、山田、松本、柳沢（雄）、滝谷、仮屋、河北、松田（真）、角田

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 法学研究科 ）
推進組織名（ FD 部会 ）

1. 令和元年度の活動報告

学修成果の可視化に向けて、修了時アンケートを実施するにあたり、ディプロマ・ポリシーとの関係に照らして調査項目を検討した。

また、学部等評価委員会において、外部委員からの指摘を踏まえ、研究科における各ポリシーの妥当性や教育課程との関係、今後の教育課程のあり方等について検討した。

さらに、修士論文の審査結果を踏まえ、修士課程における指導のあり方や教育手法についても意見交換を行った。

2. 今後の課題、方向性

修士課程・博士後期課程ともに定員を充足しない年度が続いているため、大学院生の確保に向けた方策を検討する必要がある。社会に向けた広報のあり方、入試制度、コース制の導入等、社会のニーズを把握したうえで早急に検討する必要があると考えている。

また、大学院生の研究成果の把握について、修了時アンケートがどのように機能するのかについても、今年度の実施結果を踏まえて引き続き検討する。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年 7月11日（木）	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における 大学院修了時アンケート項目の検討	FD	近藤、植木、河北、伊川、渡邊、 庄村、北見、笹岡、佐藤、伊藤（亮）、 伊藤（博）、二本柳、萩野、野口、 菊池、飯屋、川元、杉浦、山口、 吉行、長谷川、松田（真）、柳沢、 柳澤、川原、野上、松田（恵）、 代田、松本、仁井田、高松、矢嶋
2	令和元年 7月11日（木）	大学院法学研究科委員会【博士後期 課程部会】における 大学院修了時アンケート項目の検討	FD	近藤、植木、伊川、渡邊、佐藤、 伊藤（亮）、伊藤（博）、野口、菊池、 吉行、柳澤、野上、松田（恵）
3	令和元年 7月23日（火）	学部等評価委員会における 大学院修了時アンケート項目の検討	FD	伊川、松本、仁井田、前田
4	令和元年 7月25日（木）	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における 大学院修了時アンケート項目の検討	FD	近藤、植木、河北、伊川、渡邊、 庄村、笹岡、佐藤、伊藤（亮）、 伊藤（博）、二本柳、萩野、野口、 菊池、飯屋、川元、杉浦、山口、 長谷川、松田（真）、前田、柳沢、 柳澤、川原、平井、野上、松田（恵）、 代田、松本、仁井田、高松、矢嶋
5	令和元年 7月25日（木）	大学院法学研究科委員会【博士後期 課程部会】における 大学院修了時アンケート項目の検討	FD	近藤、植木、伊川、渡邊、佐藤、 伊藤（亮）、伊藤（博）、野口、菊池、 前田、柳澤、平井、野上、松田（恵）
6	令和2年 1月27日（月）	学部等評価委員会における 大学院（修士課程・博士後期課程） の各ポリシーと教育課程のあり方の 検討	FD・SD	伊川、松本、仁井田、前田
7	令和2年 2月22日（土）	大学院法学研究科委員会【修士課程 部会】における 修士論文審査結果及び修了判定の検 討	FD	近藤、植木、河北、伊川、庄村、 北見、笹岡、佐藤、伊藤（亮）、 伊藤（博）、二本柳、萩野、野口、柳、 飯屋、杉浦、山口、長谷川、吉行、 松田（真）、前田、柳沢、柳澤、 川原、野上、松田（恵）、代田、 松本、仁井田、高松、矢嶋

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（経営学部）
推進組織名（ GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

①学修成果を可視化する取組

- ・2019年度第1回経営学部FD研修会において、本年度も「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施を決定した。
- ・2019年度第2・3・4回経営学部FD研修会において、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施日程、実施体制と役割分担、受験対象、周知方法について協議した。
- ・2019年度第5回経営学部FD研修会において、経営学部3年生を対象に、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」を9月24日（火）14：50－16：20、9月27日（金）14：50－16：20に実施することを報告した。
- ・「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」を下記の3回にわたって実施、計79名が受験したが、昨年度の受験者（104名）より減少したことから、受験者数を確保する手段についてFD研修会で議論し、次年度の課題とした。

【学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）】

第一回：2019年9月24日（火）4限37名

第二回：2019年9月27日（金）4限34名

第三回：2019年10月1日（火）4限8名

計：79名

②学部独自の取組

(i) 学生の主体的な学びに関する取組、かつ、(ii) 多様な学修経験に関する取組

- ・FSP 講座を6社の協力により「基礎ゼミナール」(1年配当)で実施した。
- ・地元企業と協働で学生16名の参加により「(特I) キャリア特論」(前期金曜2限)を開講した。
- ・移動ワゴンによる被災地復興（熊本県、岩手県）のチャリティー販売を実施した。
- ・夏休み期間中にシカゴで学生23名の参加により「国際フィールドワーク」を実施した。
- ・学部主催のプレゼンテーションコンテストを、外部審査員を迎えて12月に実施した。

(iii) その他学部独自の取組

- ・新入生歓迎会を4月13～14日に1泊2日で実施、2年生を主とする実行委員が企画・運営した。
- ・特定非営利活動法人 MILLIANCE との連携事業として中小企業経営者との就職相談会を6月20日に実施した。
- ・輝く女性講演会を2019年7月・10月・12月（2回）・2020年1月に計5回実施した。
- ・各種講演会実施に係るシラバス上の対応について、教務委員会と連携の本年度シラバスから

学部として記載を統一した。

2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ため、継続的な産学連携を可能とする（特定の個人に依存しない）制度的な受け皿の形成が課題となっている。そして、学部の取組については、今後も PDCA サイクルを推進する組織として、学部 FD 委員会と GP 等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、実学としての経営学部の教育について FD 活動を進めていく。

同委員会は、学部長・協議員・教務委員長・キャリア委員・FD 委員をメンバー（オブザーバーとして事務長）として、毎月 1 回の開催を目安に招集し、その都度、学部の GP/FD 活動の年度計画の PDCA 活動を行うとともに、教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	2019年度第1回 平成31年4月25日	検討事項：2019年度学部 GP 行事および予算計画、社会連携事業、2019年度輝く女性講演会について（基本方針）、2019年度 PROG テストについて、日本郵便東海支社からの講演開催希望打診	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本
2	2019年度第2回 令和元年5月30日	検討事項：2019年度輝く女性講演会について、2019年度 PROG テストについて、社会連携事業「中小企業経営者と学生の就職相談会」（2019年6月20日〔木〕13:00～17:00開催予定）について	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本
3	2019年度第3回 令和元年6月27日	検討事項：2019年度輝く女性講演会について、2019年度 PROG テスト実施時期について	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、中川、山本
4	2019年度第4回 令和元年7月25日	検討事項：2019年度第1回輝く女性講演会当日の役割分担について、輝く女性講演会アンケートの一部変更について、2019年度第2回輝く女性講演会について、2019年度 PROG テスト実施について	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	2019年度第5回 令和元年9月21日	検討事項：2019年度 PROG テスト実施要領、2019年度第2回輝く女性講演会について、2019年度第3回輝く女性講演会準備状況について、次年度 FSP 講座について	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本
6	2019年度第6回 令和元年11月21日	検討事項：2019年度第3回輝く女性講演会について、次年度 FSP 講座について、次年度キャリア特論について、次年度「学びのコミュニティ創出支援事業」について	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本
7	2019年度第7回 令和元年11月21日	検討事項：次年度 PROG テスト実施に係るキャリアセンターとの連携について、女子学生のキャリア形成支援事業の残部予算執行について、次年度「学びのコミュニティ創出支援事業」申請について	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本
8 9	2019年度第8-9回 令和2年1月9日	検討事項：次年度「学びのコミュニティ創出支援事業」について、Woomax マナー講座の役割分担について、次年度 FSP 講座について、イオンリテール（株）東海カンパニーからのお申し出について	FD	伊藤、今井、岸川、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、宮崎、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東、東田、堀川、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学研究科 ）
推進組織名（ 教育制度改革委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

①研究科独自の取組

- ・前期および後期に修士論文事前報告会を実施。
- ・企業（日本ガイシ、トヨタファイナンスサービス、豊田自動織機等）からの外部講師による集中講義の実施。

2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けて、学生確保における日本語運用力問題解決の試みを含め、海外協定校との連携強化および愛知県社会保険労務士会等との連携強化の他、学内の他研究科との連携についても協議する。

また、学生の学修成果を可視化する取組として、学部における「学修成果可視化の外部調査（PROG テスト）」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討（予算措置含む）を行う。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	平成31年4月11日	修士課程 指導教員について、修士 学位論文提出要領について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、 今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、 澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、 高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、 田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、 西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、 東田 明、宮崎信二、山本いづみ
2	令和元年5月30日	2019（令和元）年度 大学院学業優 秀奨学生候補者の選考について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、 今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、 澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、 高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、 田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、 西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、 東田 明、宮崎信二、山本いづみ

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
3	令和元年 6 月13日	2019（令和元）年度 大学院学業優秀奨学生候補者の選考について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、東田 明、宮崎信二、山本いづみ
4	令和元年 6 月27日	2019年度 大学院奨学生（特別奨学生）対象者について、後期追加（変更）履修登録について、令和元年度（9月修了）修士学位論文審査委員及び審査日程について、2019年度秋季入学生オリエンテーションについて	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、東田 明、宮崎信二、山本いづみ
5	令和元年 7 月25日	令和元年度（9月修了）修士学位論文審査及び修了判定について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、東田 明、宮崎信二、山本いづみ
6	令和元年 9 月 5 日	令和元年度修士学位論文審査日程について、令和元年度（秋季）経営学研究科 新入生指導教員一覧について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、東田 明、宮崎信二、山本いづみ
7	令和元年 9 月21日	2019年度 修士学位論文提出要領について、2019年度 経営学研究科（修士課程）時間割表（案）について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、東田 明、宮崎信二、山本いづみ
8	令和元年10月10日	2020年度 経営学研究科（修士課程）時間割編成について、修士学位論文事前報告会について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、今井 齊、大西幹弘、岸川典昭、澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、東田 明、宮崎信二、山本いづみ

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
9	令和元年10月24日	2020年度 経営学研究科（修士課程） 時間割編成について、修士論文事前 報告会（案）について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、 今井 斉、大西幹弘、岸川典昭、 澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、 高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、 田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、 西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、 東田 明、宮崎信二、山本いづみ
10	令和元年11月21日	2020年度 経営学研究科（修士課程） 時間割編成について、シラバスの作 成について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、 今井 斉、大西幹弘、岸川典昭、 澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、 高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、 田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、 西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、 東田 明、宮崎信二、山本いづみ
11	令和元年12月12日	令和元年度 経営学研究科修士課程 学位論文一覧について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、 今井 斉、大西幹弘、岸川典昭、 澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、 高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、 田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、 西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、 東田 明、宮崎信二、山本いづみ
12	令和2年1月9日	2020年度 経営学研究科（修士課程） 時間割編成について、シラバスの校 正について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、 今井 斉、大西幹弘、岸川典昭、 澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、 高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、 田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、 西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、 東田 明、宮崎信二、山本いづみ
13	令和2年1月25日	2019年度 修士学位論文審査委員及 び審査日程案について	FD	相川奈美、五十畑浩平、伊藤秀俊、 今井 斉、大西幹弘、岸川典昭、 澤田慎治、澤田貴之、瀬川新一、 高山晃郎、田澤宗裕、田代樹彦、 田中武憲、鳥居弘志、長尾晃宏、 西垣鳴人、橋場俊展、堀川新吾、 東田 明、宮崎信二、山本いづみ

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学部 ）
推進組織名（ 経済学部 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

（1）今年度の活動方針・目標

各教員が個人的に培ってきた教育に関するノウハウや経験を、学部内の教員全体で共有し、学部教育の改善・充実を図る。

（2）活動内容

①従来から行っている活動のFDとしての捉え直し

毎年、経済学部独自の取り組みとして、新入生セミナー、デイハイク、レポート・フェスティバル等の企画を行っている。従来から進めているこうした取り組みをFDとして捉え直し、その活動記録を作成し、企画の改善につなげることが、経済学部のFD活動の中心であり、そのためFD委員会だけでなく、学部全体としての取り組みとなっている。具体的には、各企画の実施担当教員が、『新入生セミナー』冊子（後述）や、懇談会報、学部HP等に活動記録を掲載している他、それぞれの企画の後、学生や教員にアンケートを取り、企画の改善のために活かしている。以下、企画の概要について説明する。

新入生セミナーは、新入生が円滑にスタートを切れるよう、学部全体でサポートすることを目的にしている（今年は4月2日（火）に実施）。第1部では、教員の講演、上級生のスピーチ、所属ゼミ（1年次の演習科目である基礎ゼミナール）の決定等を行っている。また第2部では、全新生を5つの教室に分け、教室ごとに4名程度の教員を配置し、部門ごとに決められている必要単位数等について説明した後、履修計画を一緒に作成している。また、この時新生全員に配布しているのが、学部独自の『新入生セミナー』冊子であり、「この一冊さえあれば大きな躓きなしに学生生活を送ることができる」ことを目指して、毎年発行している。新入生セミナーは、学生のモチベーション向上や履修ミス防止に大きく貢献していると考えられる。

また、新生全員および教職員等が参加するデイハイク（今年度は4月13日（土）に実施）は、妻籠・馬籠間のおよそ8キロのコースを散策しながら新生間の親睦を図るとともに、地域の歴史や経済について学ぶという企画である。デイハイクは、経済学部のカリキュラムの中で特に力を入れているフィールドワークの入口と位置付けられており、この点でも高い教育効果をもたらしている。

後期には、12月14日（土）にレポート・フェスティバルを実施した。今年で18回目を迎え、学生による35本の研究発表が行われた。レポート・フェスティバルは、例年、学生のモチベーション向上等大きな教育効果を上げている。

経済学部の正規のカリキュラムについて一つだけ述べると、社会フィールドワークや国際フィールドワーク等を通して学生を日本の経済社会の様々な現実や、他国の社会、歴史・文化に

直接触れさせることを重視していることが大きな特徴である。フィールドワークは学生の知的好奇心の刺激、研究課題の発見等、キャンパス内での教育との相乗効果を生んでいる。

最後に、昨今重視されている、学修成果を測る、ということについて、そのひとつの指標である GPA については、修学指導の対象者の選定等に利用している。また後に述べるように授業改善アンケートや外部調査についても議論を重ねている。

②学部 FD 懇談会の開催

経済学部では、学部教育に関する諸問題を教員同士で話し合う場として、毎年 FD 懇談会を開催している。全教員の参加が原則である。今年度（前期）は 2 回開催した。第 1 回は、9 月 26 日（木）の教授会終了後、授業改善アンケートのより良い実施方法について話し合った。第 2 回は 10 月 24 日（木）の教授会開始前、学修成果の可視化に関わる外部調査を行っている業者（1 社）の担当者を招いて学習会を実施した。

これらの議論は、どちらも学修成果の可視化という課題にとって重要なものであるが、外部調査については、昨年度に引き続きジェイサープによる学生調査を実施した。また、授業改善アンケートについては、回収率や教員のフィードバック（コメント）率の改善に向け議論を重ねている（どちらの比率も今年度は若干改善した）。

2020 年 2 月 13 日（木）には、第 2 回 FD 委員会を開催し、推薦入学者に向けた入学前オリエンテーション（1 月 12 日（日）に開催）で回収したアンケート結果を共有するとともに、ジェイサープの結果について検討した。またジェイサープの結果については、同日の第 3 回 FD 懇談会で FD 委員会での検討結果を踏まえた議論を行った。

2. 今後の課題、方向性

今後も、長年に渡る取り組みの蓄積を活かし、より高いレベルで取り組みを続けていくことを目指す。FD 委員会の基本的な役割は、これらの取り組みを捉え直す機会をシステムティックに提供していくことである。また、そうした捉え直しは、教育を受ける側の視点に立って行われなければならないが、その際、学生がどのような学部教育を望んでいるのか、および学生が実際に何を獲得して卒業しているのかを、表面的にではなく、長期的な視野で深く理解することが前提となる。そのためには、これまで学部を運営し、多くの OB/OG を送り出してきた教員同士の懇談の場が基本となることはもちろんであるが、毎年のアンケートや外部調査についても、いっそう有益な情報となるよう改善し、活用していくことが重要である。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年 9月26日（木）	第1回FD委員会（授業改善アンケートについて）	FD	洪井、杉本、新井、蓑輪、浅岡
2	令和元年 9月26日（木）	第1回FD懇談会（授業改善アンケートについて）	FD	洪井、杉本、折原、勝浦、川森、鈴木、松尾、新井、大瀧、斎藤、谷村、名和、蓑輪、岸野、神野、伊藤（健）、井内、西山（賢）、山本、小泉、山田、太田、澤田、浅岡
3	令和元年 10月24日（木）	第2回FD懇談会（学修成果の可視化について）	FD・SD	洪井、杉本、折原、川森、鈴木、松尾、新井、野口、大瀧、斎藤、谷村、名和、蓑輪、岸野、神野、伊藤（健）、井内、西山（賢）、山本、小泉、山田、澤田、伊藤（志）、西山（徹）、岸川、李、浅岡
4	令和元年 10月30日（水）	FD フォーラム	FD・SD	洪井、杉本、鈴木、折原、勝浦、川森、斎藤、谷村、名和、蓑輪、伊藤（健）、澤田、山本、小泉、山田、野口、岸川、伊藤（志）、西山（徹）、太田
5	令和2年 2月13日（木）	第2回FD委員会（ジェイサープの結果について、他）	FD・SD	洪井、西山（賢）、新井、蓑輪、浅岡
6	令和2年 2月13日（木）	第3回FD懇談会（ジェイサープの結果について）	FD・SD	折原、勝浦、川森、鈴木、西山（徹）、野口、松尾、新井、大瀧、谷村、名和、蓑輪、岸野、伊藤（健）、井内、岸川、洪井、杉本、西山（賢）、山本、李、小泉、山田、太田、澤田、浅岡

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学研究科 ）
推進組織名（ 経済学研究科 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

（1）今年度の FD 活動目標

①全体的な目標

各教員が個人的に培ってきた教育に関するノウハウや経験を、大学院内の教員全員で共有し、大学院教育の改善・充実をはかる。特に今年度は、学生の主体的学びの育成について重点的に取り組む（2018年度からの継続）。

②具体的な目標

i) 従来から行っている活動の FD としての捉え直し

従来から進めている、オリエンテーション、大学院研究発表会、教員と大学院生交流会、大学院教育改善プロジェクト等の取り組みを FD として捉え直し、その活動記録を作成する。

4 月 1 日入学時オリエンテーションを実施。6 月 20 日大学院生研究科発表会を実施。併せて発表後、教員と大学院生の交流会を実施。

※その他、研究科内には、授業評価アンケートについての制度設計を行う、大学院生のフィールド・ワーク研究に際して、指導教授以外の他の教員のアドバイスも受けられるようにする（リサーチ・デザイン）等の意見もあり、これらについても検討していく。

現在経済学研究科の所属する院生は修士課程 1 年次 2 名、2 年次 1 名、博士課程 3 名であり、FD 活動の組織的な取り組みは難しい状況にある。このため、授業評価アンケートの制度設計という目標は今年度は未達である。一方、新入生に対するヒアリング調査を毎年実施し、大学に対する要望や支援してもらいたいこと等を聴取している。

ii) 研究科 FD 懇談会の開催

大学院教育に関する諸問題を FD 委員会で検討し当面の課題を抽出した後、所属教員全員が参加する FD 懇談会で話し合う。

新入生へのヒアリング調査の結果に基づき FD 懇談会を実施し、経済学研究科の当面の問題点を教員と共有した。具体的には、今年度修士課程に入学した 2 名の学生（いずれも中国からの留学生）からの要望として、就職に関する情報をより多く提供してもらいたい

とのことであった。院生の就職支援活動は、必ずしも FD 委員会の守備範囲ではないが学生の要望を受け、このことをキャリアセンターに報告した。経済学研究科に入学してくる多くの留学生が、修了後日本の企業への就職を望んでいることから、今後キャリアセンターとも緊密に連携し、院生への情報提供を密にする必要があるように思われる。

2. 今後の課題、方向性

令和2年度は、上記の目標に沿って、FD 委員会および FD 懇談会を開催する。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和2年1月9日	修士1年2名のヒアリング調査の結果を報告。大学院教員全員との情報共有を図った。	FD・SD	洪井、折原、袁輪、李、伊藤（健）、井内、川森、岸川、杉本、鈴木、西山（賢）、松尾、山本、大瀧、斎藤、谷村、山田

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学部 ）
推進組織名（ 教育改善委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

昨年度に引き続き、学部教育に必要な学生の基礎学力向上と教育改善の推進を目的とした、具体的な取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設等を行い、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを引き続き進める。さらに、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラムへの参加を促した。また、各学科で立ち上げたFD会議の活動を強化し、推進組織である本教育改善委員会で各学科のFD会議議事録を集約し、それぞれの活動内容の検討に入った。これにより、各学科FD会議の連携を行う体制の構築を目指す。

大学の第三期認証評価で重要課題となる「学生の学修成果を可視化する取組」として、外部機関による調査を開始した。理工学部には11の学科があり、統一的な外部調査を実施するのではなく、3つの外部調査機関が実施する調査方法の有効性判断を含め、各学科が独自に外部調査方法を選択した。選択した外部調査方法はJSAAP（数学科，材料機能工学科，応用化学科，機械工学科：以上3年次実施），GPS-Academic（情報工学科：1年次実施），PROGテスト（電気電子工学科，交通機械工学科，メカトロニクス工学科，社会基盤デザイン工学科，建築学科：以上3年次実施，環境創造学科：1年次実施）である。

理工学部では基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関しては更に発展的な内容を勉強できるよう基礎演習（アドバンスコース）科目も開講している。入学時オリエンテーションで、数学習熟度診断テストを実施し、学生が自ら習熟度の判断を行い、これらの科目の活用を促すように指導した。また、各学科で実施した数学習熟度診断テストの結果を本委員会で集約し、今後の教育改善・学生指導に役立てるための分析を進めている。

数学相談室・物理相談室の運営状況は本委員会で報告され、今後の検討課題としている。その一例として、例年物理相談室は授業後に相談を受ける体制をとってきたが、昨年度は後期定期試験前にも数日間集中的に質問を受ける体制を取り、効果を上げた。このことを踏まえ、今年度前期定期試験前に数日間の相談室開設を検討したが、人的・日程的に困難であった。

各学科がそれぞれ選定した学修行動調査（JSAAP，PROG，GPS-Academicの中から選定）を実施した。しかし、どの調査が学生指導に対して有効であるのかが判断がつかない状況である。将来的には理工学部の各学科の特徴等を同じ尺度で評価し、学生指導方針を策定する必要があることが提案され、分析が進められている。

また、いままでのFD活動に対して、さらに細かな分類（SD活動）が必要であることが示され、各学科の会議名称をFD・SD会議と改称し、それぞれの学科でFDおよびSDにかかわる活動を強化し、分類して議事録を作成することとした。

2. 今後の課題、方向性

第三期認証評価では学修成果の追跡調査が求められており、今後、複数年次にわたり個々の学生の調査を実施することが必要となる。現在、各学科が独自に外部調査を実施し、その有効性を判断しているが、学部全体としての方向性を決める必要が生じるものと思われる。本委員会で議論していく問題としてとらえ、課題としたい。

各学科のFD会議は順調に立ち上がり、個々の課題解決に向けた検討がなされている。そのような個別の会議と本委員会との具体的な連携も重要であり、今後の課題となる。引き続き本委員会で検討を進め、共通課題の設定等と通じて、教育改善に反映していきたい。

今後、理工学部全体として統一した学修行動調査を実施する必要性を議論し、その方向性を含めどのように調査結果を活用していくかを検討していきたい。また現在各学科のFD・SD会議の活動内容はその報告を行っているのみであり、活動内容についての意見交換を行っているわけではない。今後、学科間の意見交換を通じて、FD・SD活動の充実させていきたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	平成31年4月18日	大学教育開発センター委員会報告、前年度後期統一試験（数学、物理）の最終結果報告、数学相談室・物理相談室の利用状況報告、新年度委員への申し送り事項、今年度の物理相談室開設について、第三期認証評価の対応、東海工学教育協会入会案内	FD・SD	各学科新旧教育改善委員等（原田、齊藤、来海、山中、山田、内村、植松、渡邊、吉川、増山、田中、坂東、大槻、仙場、西村、大原、溝口、新井、日比、吉永、松田、中村：22名）、理工学部事務職員（堀口、鈴木：2名）（計24名）
2	令和元年6月13日	大学教育開発センター委員会報告、数学相談室開設案内、学修行動調査実施について、FD推進組織一覧表確認、各学科FD会議議事録作成について、FDフォーラムの検討、TOEIC-IPテストについて	FD・SD	教育改善委員等（原田、山中、内村、水沼、増山、田中、坂東、仙場、市川、日比、吉永、中村、土屋：13名）、理工学部事務職員（鈴木：1名）（計14名）
3	令和元年9月26日	大学教育開発センター委員会報告、前期数学相談室利用状況報告、附属高校特別推薦候補者入学前指導について、MECプログラムの学部企画について、令和2年度予算要求、ATR-CALL利用推進について	FD・SD	教育改善委員等（原田、山中、内村、渡邊、田中、坂東、仙場、大原、日比、吉永、中村、土屋：12名）、理工学部事務職員（西村、鈴木：2名）（計14名）
4	令和元年12月26日	大学教育開発センター委員会報告、2019年度習熟度テスト集計結果報告について、各学科への審議依頼事項について（授業改善アンケート集計結果の学生へのWEB公開について・各学科におけるSD（スタッフ・デベロップメント）の実施について）、学外FDフォーラムにかかる出張について	FD・SD	教育改善委員等（原田、内村、渡邊、増山、田中、坂東、大槻、仙場、大原、日比、松田、中村、土屋：13名）、理工学部事務職員（鈴木：1名）（計14名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
各学科 FD・SD 会議				
数学科 FD・SD 会議				
1	平成31年 4 月26日	大学院生研究助成について、数学相談室について、東海工学教育協会への入会案内について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，鈴木，土田，富田，長郷，橋本，日比野，前野，三町，村瀬（計17名）
2	令和元年 6 月27日	授業改善アンケートについて、2019年度前期数学相談室の開設について、学修行動調査について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，齊藤，鈴木，土田，富田，長郷，橋本，日比野，前野，三町，村瀬（計18名）
3	令和元年10月10日	第21回 FD フォーラムについて、前期数学相談室実施報告，学修行動調査（JSAAP）実施報告，附属高校特別推薦候補者（合格者）入学前指導について，ATR-CALL のチラシ配布について	FD・SD	植松，内村，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，鈴木，土田，富田，長郷，橋本，日比野，前野，三町，村瀬（計16名）
4	令和元年11月 7 日	学修成果可視化のための外部調査計画検討について，附属高校特別推薦候補者（合格者）入学前指導について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤，加藤，許斐，鈴木，土田，富田，長郷，橋本，日比野，三町，村瀬（計15名）
5	令和元年12月 5 日	ジェイサーブ調査結果について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，齊藤，鈴木，土田，富田，長郷，橋本，日比野，前野，三町，村瀬（計18名）
6	令和元年12月19日	後期数学相談室の実施について，授業改善アンケート集計結果の学生への WEB 公開について，各学科における SD（スタッフ・デベロップメント）の実施について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，鈴木，土田，富田，橋本，日比野，前野，三町，村瀬（計16名）
情報工学科 FD・SD 会議				
1	平成31年 4 月11日	情報系学部について，障がい学生支援について，IT エンジニア育成プロジェクトについて，外部評価について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，亀谷，川澄，小中，佐川，鈴木，高橋，田中，中野，坂野，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，水沼（計19名）
2	平成31年 4 月25日	情報系学部について，教育費負担軽減について，全学禁煙について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，川澄，小中，佐川，鈴木，高橋，田中，中野，坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，亀谷（計19名）
3	令和元年 6 月 6 日	産業医の職場巡視について，女子学生支援について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，川澄，小中，佐川，高橋，田中，中野，水沼，向井，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，鈴木（計16名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
4	令和元年6月20日	GPS-Academic について、施設整備について、新学部検討 WG について	FD・SD	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、高橋、田中、中野、坂野、水沼、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、鈴木（計18名）
5	令和元年7月11日	将来問題検討小委員会について、外部評価準備委員会について、ハッカソンについて、障がい学生支援について、施設整備について、新学部検討 WG について	FD・SD	山本、旭、宇佐見、亀谷、川澄、小中、佐川、高橋、田中、中野、坂野、水沼、向井、山田啓一、山田宗男、渡邊、鈴木（計17名）
6	令和元年7月25日	情報工学科・専攻協議会総会について、施設整備について、将来問題検討小委員会・情報系学部について	FD・SD	山本、旭、宇佐見、川澄、小中、佐川、高橋、田中、中野、坂野、水沼、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、鈴木（計17名）
7	令和元年8月5日	新学部 WG 検討案について	FD	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、田中、中野、坂野、水沼、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、鈴木（計15名）
8	令和元年9月5日	GPS-Academic 学修行動調査について、情報工学部（仮称）について	FD・SD	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、高橋、田中、水沼、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、鈴木（計15名）
9	令和元年9月19日	成績不振者面談について、国際委員会について、HACK U 名城大学について、PC 必携化について、新学部について	FD・SD	山本、旭、宇佐見、川澄、小中、鈴木、高橋、田中、中野、坂野、水沼、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、亀谷（計18名）
10	令和元年10月10日	外部評価委員会について、将来問題検討小委員会について、大学案内について、PC 必携化について、新学部について	FD・SD	山本、旭、宇佐見、川澄、小中、佐川、鈴木、高橋、田中、中野、坂野、水沼、向井、柳田、山田啓一、渡邊、亀谷（計17名）
11	令和元年10月24日	新学部 PBL 科目について、PC 必携化について	FD・SD	山本、旭、宇佐見、亀谷、川澄、小中、佐川、鈴木、田中、中野、坂野、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、水沼（計18名）
12	令和元年10月31日	障がい学生の別室受験について、学生委員会について、PC 必携化および VMwere について、新学部のカリキュラムについて	FD・SD	山本、旭、宇佐見、亀谷、川澄、小中、佐川、鈴木、高橋、田中、坂野、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、渡邊、水沼（計17名）
13	令和元年11月7日	新学部関連について	FD	山本、旭、宇佐見、亀谷、川澄、小中、佐川、鈴木、田中、坂野、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、水沼（計17名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
14	令和元年11月14日	新学部について	FD	山本, 旭, 宇佐見, 小中, 佐川, 鈴木, 田中, 中野, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田啓一, 山田宗男, 吉川, 亀谷 (計16名)
15	令和元年12月5日	情報工学部アセスメントポリシーについて, 専攻ごとの3つのポリシーについて, 学生委員会について	FD・SD	旭, 宇佐見, 亀谷, 佐川, 鈴木, 高橋, 田中, 中野, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田啓一, 山本, 渡邊, 小中 (計16名)
16	令和元年12月19日	プログラミングセミナーについて, 学生委員会について, 教育改善委員会について	FD・SD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 佐川, 鈴木, 高橋, 田中, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田啓一, 山田宗男, 山本, 吉川, 渡邊, 小中 (計18名)
17	令和2年1月9日	学生委員会について, 企業への長期インターンシップ・企業連携PBLについて, TOEIC-IPテストについて	FD・SD	山本, 旭, 宇佐見, 川澄, 小中, 佐川, 高橋, 田中, 中野, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田啓一, 山田宗男, 吉川, 渡邊, 亀谷 (計18名)
電気電子工学科 FD・SD 会議				
1	令和元年5月23日	学修成果の把握について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村本, 山崎, 山中, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
2	令和元年6月20日	成績不振学生への個別指導について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 村田, 村本, 山崎, 山中, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
3	令和元年7月11日	三者面談の実施について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 堀田, 村田, 村本, 山崎, 山中, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
4	令和元年10月10日	附属高校特別推薦候補者の入学前指導の人選について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山崎, 山中, 竹田, 田崎, 増山, 村上 (計18名)
5	令和元年10月24日	学修成果の把握について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村本, 山崎, 山中, 竹田, 田崎, 益田, 増山 (計18名)
6	令和元年11月21日	「学生の成長につながる教育の質保証について考える」について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 堀田, 村本, 山崎, 山中, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計16名)
7	令和元年12月19日	授業改善アンケートの結果のWebClassによる公開について, スタッフ・デベロップメントの実施について	FD・SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山崎, 山中, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和2年1月23日	学修成果の把握について、三者面談の実施について	FD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（計18名）
材料機能工学科 FD・SD 会議				
1	平成31年4月11日	特別講義の担当者変更について	FD	六田、成塚、上山、竹内、宇佐美、宮嶋、田中、今井、岩谷、服部、榎本（計11名）
2	令和元年6月20日	院生と学部学生との交流促進について	FD	六田、榎本、服部、宮嶋、今井、田中、宇佐美、上山、岩谷、成塚（計10名）
3	令和元年7月11日	大学院特別講義について	FD	六田、宇佐美、榎本、成塚、田中、服部（計6名）
4	令和元年10月10日	大学院特別講義講師の検討について	FD	六田、服部、宇佐美、竹内、宮嶋、田中、岩谷、今井、上山（計9名）
5	令和元年10月24日	大学院博士課程科目の英語表記について	FD	六田、成塚、竹内、上山、田中、服部、宇佐美、宮嶋、今井（計9名）
6	令和元年11月17日	M1中間発表の実施方法について、専攻の将来構想について	FD・SD	榎本、成塚、服部、宮嶋、竹内、岩谷、田中（計7名）
7	令和元年11月21日	M1中間発表について、専攻の将来構想について	FD・SD	六田、服部、今井、宮嶋、田中、岩谷、成塚、竹内（計8名）
8	令和元年12月5日	M1中間発表について、専攻改組構想について	FD・SD	六田、成塚、上山、宇佐美、宮嶋、田中、今井、岩谷、服部、榎本（計10名）
9	令和元年12月19日	博士のシラバスの作成について、M1中間発表総括について	FD	六田、榎本、服部、今井、宮嶋、田中、上山、岩谷、竹内、成塚（計10名）
10	令和2年1月9日	特別講義講師日程調整について	FD	六田、上山、竹内、成塚、宮嶋、岩谷、榎本、今井、宇佐美（計9名）
11	令和2年1月23日	大学院修士論文の公聴会プログラムについて、大学院修士課程及び博士課程のDP/CPについて	FD	六田、竹内、上山、成塚、宇佐美、今井、服部、榎本、田中、岩谷、宮嶋（計11名）
応用化学科 FD・SD 会議				
1	平成31年4月11日	学生啓蒙活動、同窓会との連携について	FD・SD	永田、大脇、坂、坂東、丸山、池邊、小澤、田中、藤田、才田（計10名）
2	令和元年5月23日	成績不振者等への個人面談実施、学生の学修行動把握方法について	FD	永田、大脇、坂東、小澤、田中、藤田、池邊、才田、坂（計9名）
3	令和元年6月6日	卒研活動安全管理・安全確保、秋卒業学生指導について	FD	永田、大脇、坂東、小澤、田中、藤田、池邊、坂、丸山（計9名）
4	令和元年7月11日	秋卒業学生指導、応化実験Ⅰ欠席学生指導について	FD	永田、大脇、坂、坂東、丸山、池邊、小澤、田中、藤田、才田（計10名）
5	令和元年7月25日	科目履修系統図の検討・修正について	FD	永田、坂東、坂、大脇、池邊、小澤、才田、藤田、田中（計9名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和元年9月5日	共同開講科目の検討・変更，応化チャレンジプログラム，再履修クラス設定の検討，実験科目におけるインターンシップ学生への対応について	FD	永田，田中，池邊，坂，丸山，大脇，小澤（計7名）
7	令和元年11月21日	卒業生による学科改善意見，海外学生との科学交流プランについて	FD・SD	永田，坂，坂東，丸山，藤田，池邊，田中，小澤，才田，大脇（計10名）
8	令和元年12月19日	教育改善，学びのコミュニティ申請について	SD	永田，大脇，坂東，田中，藤田，池邊，才田，坂，丸山（計9名）
9	令和元年12月19日	ハラスメント対応について	SD	永田，大脇，坂東，田中，池邊，才田，坂，丸山（計8名）
10	令和2年1月9日	学びのコミュニティ申請，講義担当変更について	FD・SD	永田，丸山，坂，田中，小澤，才田，大脇，坂東（計8名）
11	令和2年1月16日	非常勤講師との意見交換	FD・SD	（非常勤講師）小谷，草本（専任）坂東，丸山，大脇，小澤，池邊，田中，才田，永田（計10名）
機械工学科 FD・SD 会議				
1	平成31年4月1日	学科オリエンテーション時（H31.4/2）における数学習熟度診断テストの実施について	FD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川（計13名）
2	令和元年5月23日	英語学習システムの再案内について	FD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川，アブラハ，大島（計15名）
3	令和元年6月21日	学修行動調査について	FD・SD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川，アブラハ，大島（計15名）
4	令和元年7月25日	令和2年度入学前教育（MEC プログラム）への参画について	FD・SD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川，アブラハ，大島（計15名）
5	令和元年10月3日	附属高校特別推薦候補者入学前指導に係る学生の選出について，ATR-CALL のチラシ配布について，全学実施の FD フォーラムについて	FD・SD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川，アブラハ，大島（計15名）
6	令和元年12月5日	ジェイサープ（JSAAP）の調査結果について	FD・SD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川，アブラハ，大島（計15名）
7	令和元年12月19日	授業改善アンケート集計結果の学生への WEB 公開について，各学科における SD（スタッフ・デベロップメント）の実施について	FD・SD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川，アブラハ，大島（計15名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和2年1月23日	授業改善アンケート集計結果の学生へのWEB公開中止について	FD・SD	久保, 池本, 大槻, 来海, 藤山, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, アブラハ, 大島 (計15名)
交通機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和元年5月23日	交通機械工学科 FD 委員会の設置方法について	FD・SD	鈴木, 小川, 加鳥, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村尾 (計13名)
2	令和元年6月6日	交通機械工学科 FD 委員会構成メンバーについて, 交通機械工学科における教育点検改善システムについて	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 仙場, 菅, 早藤, 村尾, 山崎 (計15名)
3	令和元年6月20日	交通機械工学科 FD 委員会構成メンバーについて	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 早藤, 山崎 (計11名)
4	令和元年7月11日	教員間ネットワークの構成メンバーについて	FD・SD	相馬, 鈴木, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村尾, 山崎 (計13名)
5	令和元年7月25日	交通機械工学科 FD 委員会の設置についての修正案について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村尾, 山崎 (計15名)
6	令和元年9月5日	外部評価委員会について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 大藏, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村尾 (計11名)
7	令和元年10月10日	全学 FD フォーラムについて	FD・SD	鈴木, 小川, 加鳥, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 村尾 (計12名)
8	令和元年11月7日	講義内容の変更案, 学生トラブル対応方法について	FD・SD	加鳥, 小川, 鈴木, 相馬, 西村, 中島, 大藏, 菅, 菅野, 横谷, 村尾, 早藤, 山崎 (計13名)
9	令和元年11月21日	令和2年度学部・大学院シラバス内容について	FD・SD	加鳥, 相馬, 鈴木, 西村, 前川, 大藏, 菅, 横谷, 村尾, 早藤, 山崎 (計12名)
10	令和元年12月19日	授業改善アンケート公開, FD/SD 活動について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 中島, 西村, 前川, 大藏, 菅, 菅野, 仙場, 村尾, 早藤, 山崎 (計14名)
11	令和2年1月23日	授業改善アンケート公開, FD/SD 活動, 外部評価について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 中島, 西村, 前川, 大藏, 菅, 菅野, 横谷, 仙場, 村尾, 早藤, 山崎 (計15名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
メカトロニクス工学科 FD・SD 会議				
1	平成31年 4 月11日	数学基礎学力調査について	FD	楊, 井上, 福田, 金子, 目黒, 芦澤, 市川, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計 11名)
2	令和元年10月10日	全学 FD フォーラムについて, 附属 高校特別推薦候補者向け入学前指導 対応について	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 野々川, 星野, 大原 (計 9 名)
3	令和元年10月24日	全学 FD フォーラムについて	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計 11名)
4	令和 2 年 1 月 9 日	学修成果の可視化に向けた今後の方 向性について, 授業改善アンケート の周知について	FD・SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計 11名)
社会基盤デザイン工学科 FD・SD 会議				
1	平成31年 4 月26日	教育改善委員会の議事報告, 英語学 習システム ATR-CALL のアナウン スとその利用改善に向けて	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
2	令和元年 5 月23日	学修成果の把握に向けた外部調査の 実施について, 2019年度新入生学科 アンケートおよびプレイスメントテ ストの集計結果について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
3	令和元年 5 月27日	学生の学修成果状況の把握方法と対 象の提案について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
4	令和元年 6 月20日	フレッシュマンセミナーアンケート 結果と今後の対応について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
5	令和元年 9 月26日	10/9 の PROG テスト実施と場所変 更アナウンスのお願い, 教育改善委 員会の議事報告	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
6	令和元年10月10日	今年度の FD 活動の実施報告につい て, 来年度の PROG テスト実施体制 について	FD	石川, 板橋, 葛, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計12名)
7	令和元年10月24日	来年度の PROG テスト実施方針につ いて	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計12名)
8	令和元年11月21日	教育プログラム点検結果報告	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計12名)
9	令和元年12月 5 日	教育改善委員会の実施報告 教育貢献表彰	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
10	令和元年12月19日	授業改善アンケート集計結果の学生 への WEB 公開について, FD/SD の 実施について	FD・SD	石川, 板橋, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計12名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
環境創造学科 FD・SD 会議				
1	令和元年 6 月20日	カリキュラム自己点検・評価に関する資料について	FD	垣 鍔, 酒 巻, 道 正, 西 山, 三 宅, 吉 村, 小 塩, 齊 藤, 日 比, 広 瀬, 深 谷, 武 藤 (計12名)
2	令和元年 9 月 5 日	前期授業改善アンケートについて	FD	垣 鍔, 酒 巻, 道 正, 西 山, 三 宅, 吉 村, 齊 藤, 日 比, 武 藤 (計 9 名)
3	令和元年10月24日	学修成果可視化外部調査について	FD	垣 鍔, 酒 巻, 道 正, 西 山, 三 宅, 吉 村, 小 塩, 齊 藤, 日 比, 広 瀬, 深 谷, 武 藤 (計12名)
4	令和元年11月21日	外部評価委員会の資料準備について	FD・SD	垣 鍔, 酒 巻, 道 正, 西 山, 三 宅, 吉 村, 小 塩, 齊 藤, 日 比, 広 瀬, 深 谷, 武 藤 (計12名)
5	令和元年12月19日	授業改善アンケート集計結果の WEB 公開と SD の実施に関する意見集約について	FD・SD	垣 鍔, 酒 巻, 道 正, 西 山, 三 宅, 吉 村, 小 塩, 日 比, 広 瀬, 武 藤 (計 10 名)
6	令和元年12月26日	外部評価委員会の実施について	FD・SD	酒 巻, 道 正, 西 山, 三 宅, 小 塩, 齊 藤, 日 比, 武 藤, 広 瀬 (計 9 名)
7	令和 2 年 1 月 9 日	授業改善アンケート集計結果の WEB 公開と SD の実施に関する意見集約の理工学部全体の結果の報告	FD・SD	垣 鍔, 酒 巻, 道 正, 西 山, 三 宅, 小 塩, 齊 藤, 日 比, 広 瀬, 深 谷, 武 藤 (計11名)
建築学科 FD・SD 会議				
1	平成31年 4 月11日	研究室所属生名簿の確認について	FD	岡 田, 鈴 木, 吉 久, 高 井, 寺 西, 武 藤, 石 井, 大 塚, 生 田, 吉 永, 平 岩, 谷 田, 三 浦, 高 橋, 松 田, 米 澤, 佐 藤 (計17名)
2	令和元年 5 月23日	学修成果の把握にむけた外部調査の実施について	FD	岡 田, 鈴 木, 吉 久, 高 井, 寺 西, 武 藤, 大 塚, 生 田, 吉 永, 平 岩, 谷 田, 三 浦, 松 田, 米 澤, 佐 藤 (計 15 名)
3	令和元年 6 月 6 日	製図・制作室の環境整備について	FD	岡 田, 吉 久, 高 井, 寺 西, 武 藤, 石 井, 大 塚, 生 田, 吉 永, 平 岩, 谷 田, 三 浦, 高 橋, 米 澤, 佐 藤 (計 15 名)
4	令和元年 6 月20日	学修行動調査について, FD フォーラムのテーマ募集について, 成績不振者への指導について	FD	岡 田, 鈴 木, 吉 久, 高 井, 寺 西, 武 藤, 石 井, 大 塚, 生 田, 吉 永, 平 岩, 谷 田, 三 浦, 高 橋, 松 田, 米 澤, 佐 藤 (計17名)
5	令和元年 7 月25日	成績不振者への指導について	FD・SD	岡 田, 鈴 木, 吉 久, 高 井, 寺 西, 武 藤, 石 井, 大 塚, 生 田, 吉 永, 平 岩, 谷 田, 三 浦, 高 橋, 松 田, 米 澤, 佐 藤 (計17名)
6	令和元年10月10日	ATR-CALL 資料配布について, 卒業研究・卒業制作中間報告書未提出者について	FD・SD	岡 田, 吉 久, 高 井, 武 藤, 寺 西, 石 井, 生 田, 吉 永, 谷 田, 大 塚, 平 岩, 三 浦, 高 橋, 松 田, 米 澤, 佐 藤 (計16名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和元年10月24日	外部評価委員会の実施について、 PROG テストの実施について	FD・SD	岡田, 吉久, 武藤, 寺西, 生田, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計13名)
8	令和元年11月21日	令和2年度シラバスの改善について	FD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 佐藤 (計16名)
9	令和元年12月5日	新3年生のゼミナール配属について, 卒業設計追い込み期の制作室の扱い に関して	FD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤 (計 15名)
10	令和元年12月19日	「コンピューターリテラシー」のプロ グラミング教育内容の更新について, 授業改善アンケート集計結果の学生 へのWEB公開について, 各学科に おけるSD (スタッフ・デベロップメ ント) の実施について	FD・SD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計16名)
11	令和2年1月23日	4年生卒業研究の「中間報告書」未 提出者について, TOEIC のスコアレ ポートの配布について	FD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計17名)
教養教育 FD・SD 会議				
1	平成31年4月11日	大学教育開発センター委員会専門委 員会について	FD	松村, 加藤, 田中, 土屋, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 内田, 中村, 宮北, 榎本, 長澤, 鈴木, 大知, 大久保 (計16名)
2	令和元年5月23日	授業改善アンケート実施について	FD	松村, 加藤, 田中, 中山, 土屋, 大久保, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 中村, 榎本, 長澤, 鈴木, 大知 (計 15名)
3	令和元年6月20日	令和元年度FD刊行物の投稿募集に ついて, 前期授業改善アンケートに ついて	FD	松村, 加藤, 田中, 中山, 土屋, 大久保, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 内田, 宮北, 榎本, 長澤, 大知, 中村 (計16名)
4	令和元年7月25日	MEC プログラムテキストの回覧につ いて, 学生アンケート結果について, 名城大学教育年報第14号の執筆依頼 について	FD	松村, 加藤, 田中, 土屋, 大久保, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 内田, 中村, 榎本, 長澤, 鈴木, 大知, 中山 (計16名)
5	令和元年9月19日	前期学生アンケートについて, MEC プログラム関連について, JABEE エ ビデンスの提出について	FD	松村, 加藤, 中山, 土屋, 大久保, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 内田, 宮北, 中村, 榎本, 長澤, 大知, 田中 (計16名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和元年10月10日	『FD取組を推進する組織の活動報告』の中間報告について、『後期授業改善アンケートの予定』について、『第21回FDフォーラムの開催』について	FD	松村，加藤，田中，中山，土屋，大久保，景山，神藤，本田，内田，宮北，中村，榎本，長澤，大知，日比野（計16名）
7	令和元年10月24日	『後期授業改善アンケートの予定』について、『第21回FDフォーラムの開催』について	FD	松村，加藤，田中，中山，土屋，大久保，景山，神藤，本田，鈴木，内田，中村，榎本，長澤，大知，日比野（計16名）
8	令和元年11月28日	『後期授業改善アンケートの学生への依頼』について	FD	松村，加藤，田中，中山，大久保，日比野，景山，神藤，本田，鈴木，内田，中村，榎本，長澤，大知，土屋（計16名）
9	令和元年12月19日	『後期授業改善アンケート期間の開始』について、『FDおよびSD活動』について、『後期授業改善アンケートの予定』について	FD・SD	加藤，田中，中山，大久保，日比野，景山，本田，宮北，中村，榎本，長澤，大知，神藤（計13名）
10	令和2年1月9日	『後期授業改善アンケート（1月11日メ切）の実施を学生に促す依頼』について、『授業改善アンケートのweb公開における反对方針（理工学部）』について、『FDおよびSD活動の区別における明確性』について	FD・SD	松村，加藤，田中，中山，大久保，日比野，景山，神藤，鈴木，内田，中村，榎本，長澤，大知，本田（計15名）

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（理工学研究科）
推進組織名（教育改善委員会（大学院教育WG））

1. 令和元年度の活動報告

高等教育の改革に伴い、大学院博士（後期）課程において授業科目の単位制が求められており、本研究科においても改組検討委員会で審議し、令和2年度からの単位制導入を決定した。これに伴い、リサーチワークだけでなくコースワークとして特殊講義科目を設定し、修士（博士前期）課程・特論科目との連携を行った。このように、修士（博士前期）課程・博士（後期）課程を連携させることにより、学生の多様な要望に対応できる体制の整備を行った。また、各専攻科の大学院FD活動については、各学科のFD会議において、合同で大学院FDに関して検討する体制を敷いた。

大学院教育では、学生に主体性がなければ何も成果を得ることはできない。この学生の主体的な学びを支援するための教育体制は、単位制・コースワーク導入により補強され、常日頃行われる研究指導をバックアップする基盤となる。今後、国内外における学会発表を推進し多様な学修経験を積ませるとともに、大学院FDとしては、教育・研究プロジェクトにかかわる具体案設定の必要性を感じ、検討している。

本研究科において英語教育は、学際的情報を全世界に発信するという観点から大変重要な位置を占めている。入学条件としてもTOEIC受験を課し、理工学部3年在籍時に全学生が受験する体制を整備し、実施している。TOEIC受験制度は大学院進学を意識させ、大学院の英語教育へと円滑に導く一翼を担うものである。このことに加え、英語による集中講義実施の検討、大学院共通科目としての科学技術英語の充実、国際的に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成の礎となる。このように学部から大学院教育へと円滑に導く体制の整備活動を継続して実施している。

大学院入試体系としてのTOEICは英語の必要性を認識させ、全国レベルで自分がどのくらいの実力を有するのかを計るうえで重要な位置づけとなり、勉学意識の向上にはたらくものと思われる。しかし、大学院の英語教育については、各専攻で必要とされる英文表現がかなり異なり、各専攻で独自に英語教育を実施していく必要がある。これを実現するために、今まで理工学研究科の共通科目であった「科学技術英語」を各専攻で開講するように分離した。

2. 今後の課題、方向性

大学院FDの中心組織は、大学院理工学研究科教育改善委員会であり、各専攻科FD会議（各学科FD会議と合同）と連絡を密にしながら理工学専攻科としての大学院FD活動を推進する。昨年度の検討事項であった「大学院における横断的教育としての集中講義」については、科目設定として発足させるのではなく、専攻横断的な研究プロジェクトとして始め、教員間の研究プロジェクトを基盤として発足させるという方向性を出した。この研究プロジェクトのもとで大学院

生間の学際的交流を深め、分野横断的なコースワークに発展させ、単位認定等の具体的な体制作りを検討する必要がある。ただし、学生の自主的な研究活動をバックアップするための体制作りを優先させなければならない。このため単位制度のみに注目するのではなく、大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけさせることが重要であり、教育偏重にならないように検討し、方向性を打ち出す必要がある。

大学院における英語教育についても、必要であれば新しい企画を本委員会で検討し、より良い教育体制となる方向性を示す必要がある。

英語教育については各専攻で専門性の高い科学技術英語の講義を実施するに至り、徐々に成果を上げていくものと思われる。しかし、特任助手の活用、特別講義、大学院講義に対する授業アンケートに関しては議論が進まなかった。今後の課題である。

大学院進学率に関しては、学科間でかなり異なり、約10%－40%の範囲に分布している。このような差がなぜ生じるのかを検討し、問題点を明確にし、進学率の向上に役立てたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	平成31年4月18日	昨年度FD推進組織活動報告・今年度の検討	FD・SD	各学科新旧教育改善委員等（原田、齊藤、來海、山中、山田、内村、植松、渡邊、吉川、増山、田中、坂東、大槻、仙場、西村、大原、溝口、新井、日比、吉永、松田、中村：22名）、理工学部事務職員（堀口、鈴木：2名）（計24名）
2	令和元年6月13日	専攻科FD推進組織・実施内容の検討	FD・SD	教育改善委員等（原田、山中、内村、水沼、増山、田中、坂東、仙場、市川、日比、吉永、中村、土屋：13名）、理工学部事務職員（鈴木：1名）（計14名）
3	令和元年9月26日	大学院入試・英語対策について（ATR-CALL利用推進）	FD・SD	教育改善委員等（原田、山中、内村、渡邊、田中、坂東、仙場、大原、日比、吉永、中村、土屋：12名）、理工学部事務職員（西村、鈴木：2名）（計14名）
4	令和元年12月26日	各専攻におけるSD（スタッフ・デベロップメント）の実施について、学外FDフォーラムにかかる出張について	FD・SD	教育改善委員等（原田、内村、渡邊、増山、田中、坂東、大槻、仙場、大原、日比、松田、中村、土屋：13名）、理工学部事務職員（鈴木：1名）（計14名）
各専攻FD・SD会議				
数学専攻FD・SD会議				
1	平成31年4月26日	大学院生研究助成について、数学相談室について、東海工学教育協会への入会案内について	FD・SD	植松、内村、江尻、大西、小澤、鍛冶、加藤、許斐、鈴木、土田、富田、長郷、橋本、日比野、前野、三町、村瀬（計17名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
2	令和元年 6 月27日	授業改善アンケートについて、2019 年度前期数学相談室の開設について、 学修行動調査について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤， 鍛冶，加藤，許斐，齊藤，鈴木， 土田，富田，長郷，橋本，日比野， 前野，三町，村瀬（計18名）
3	令和元年10月10日	第21回 FD フォーラム について， 前期数学相談室実施報告，学修行動 調査（JSAAP）実施報告，附属高校 特別推薦候補者（合格者）入学前指 導について，ATR-CALL のチラシ配 布について	FD・SD	植松，内村，大西，小澤，鍛冶， 加藤，許斐，鈴木，土田，富田， 長郷，橋本，日比野，前野，三町， 村瀬（計16名）
4	令和元年11月 7 日	学修成果可視化のための外部調査計 画検討について，附属高校特別推薦 候補者（合格者）入学前指導につい て	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤， 加藤，許斐，鈴木，土田，富田， 長郷，橋本，日比野，三町，村瀬（計 15名）
5	令和元年12月 5 日	ジェイサーブ調査結果について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤， 鍛冶，加藤，許斐，齊藤，鈴木， 土田，富田，長郷，橋本，日比野， 前野，三町，村瀬（計18名）
6	令和元年12月19日	後期数学相談室の実施について，授 業改善アンケート集計結果の学生へ の WEB 公開について，各学科にお ける SD（スタッフ・デベロップメン ト）の実施について	FD・SD	植松，内村，江尻，大西，小澤， 鍛冶，加藤，許斐，鈴木，土田， 富田，橋本，日比野，前野，三町， 村瀬（計16名）
情報工学専攻 FD・SD 会議				
1	平成31年 4 月11日	情報系学部について，障がい学生支 援について，IT エンジニア育成プロ ジェクトについて，外部評価につい て	FD・SD	山本，旭，宇佐見，亀谷，川澄， 小中，佐川，鈴木，高橋，田中， 中野，坂野，向井，柳田，山田啓一， 山田宗男，吉川，渡邊，水沼（計 19名）
2	平成31年 4 月25日	情報系学部について，教育費負担軽 減について，全学禁煙について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，川澄，小中， 佐川，鈴木，高橋，田中，中野， 坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一， 山田宗男，吉川，渡邊，亀谷（計 19名）
3	令和元年 6 月 6 日	産業医の職場巡視について，女子学 生支援について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，川澄，小中， 佐川，高橋，田中，中野，水沼， 向井，山田啓一，山田宗男，吉川， 渡邊，鈴木（計16名）
4	令和元年 6 月20日	GPS-Academic について，施設整備 について，新学部検討 WG について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，亀谷，小中， 佐川，高橋，田中，中野，坂野， 水沼，向井，柳田，山田啓一，山 田宗男，吉川，渡邊，鈴木（計18名）
5	令和元年 7 月11日	将来問題検討小委員会について，外 部評価準備委員会について，ハッカ ソンについて，障がい学生支援につ いて，施設整備について，新学部検 討 WG について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，亀谷，川澄， 小中，佐川，高橋，田中，中野， 坂野，水沼，向井，山田啓一，山 田宗男，渡邊，鈴木（計17名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和元年7月25日	情報工学科・専攻協議会総会について、施設整備について、将来問題検討小委員会・情報系学部について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，川澄，小中，佐川，高橋，田中，中野，坂野，水沼，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，鈴木（計17名）
7	令和元年8月5日	新学部 WG 検討案について	FD	山本，旭，宇佐見，亀谷，小中，佐川，田中，中野，坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，鈴木（計15名）
8	令和元年9月5日	GPS-Academic 学修行動調査について，情報工学部（仮称）について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，亀谷，小中，高橋，田中，水沼，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，鈴木（計15名）
9	令和元年9月19日	成績不振者面談について，国際委員会について，HACK U 名城大学について，PC 必携化について，新学部について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，川澄，小中，鈴木，高橋，田中，中野，坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，亀谷（計18名）
10	令和元年10月10日	外部評価委員会について，将来問題検討小委員会について，大学案内について，PC 必携化について，新学部について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，川澄，小中，佐川，鈴木，高橋，田中，中野，坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一，渡邊，亀谷（計17名）
11	令和元年10月24日	新学部 PBL 科目について，PC 必携化について	FD・SD	山本，旭，宇佐見，亀谷，川澄，小中，佐川，鈴木，田中，中野，坂野，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，水沼（計18名）
12	令和元年10月31日	障がい学生の別室受験について，学生委員会について，PC 必携化および VMwere について，新学部のカリキュラムについて	FD・SD	山本，旭，宇佐見，亀谷，川澄，小中，佐川，鈴木，高橋，田中，坂野，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，渡邊，水沼（計17名）
13	令和元年11月7日	新学部関連について	FD	山本，旭，宇佐見，亀谷，川澄，小中，佐川，鈴木，田中，坂野，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，水沼（計17名）
14	令和元年11月14日	新学部について	FD	山本，旭，宇佐見，小中，佐川，鈴木，田中，中野，坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，吉川，亀谷（計16名）
15	令和元年12月5日	情報工学部アセスメントポリシーについて，専攻ごとの3つのポリシーについて，学生委員会について	FD・SD	旭，宇佐見，亀谷，佐川，鈴木，高橋，田中，中野，坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一，山本，渡邊，小中（計16名）
16	令和元年12月19日	プログラミングセミナーについて，学生委員会について，教育改善委員会について	FD・SD	旭，宇佐見，亀谷，川澄，佐川，鈴木，高橋，田中，坂野，水沼，向井，柳田，山田啓一，山田宗男，山本，吉川，渡邊，小中（計18名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
17	令和2年1月9日	学生委員会について、企業への長期インターンシップ・企業連携PBLについて、TOEIC-IPテストについて	FD・SD	山本、旭、宇佐見、川澄、小中、佐川、高橋、田中、中野、坂野、水沼、向井、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、亀谷（計18名）
電気電子工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和元年5月23日	学修成果の把握について	FD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（計17名）
2	令和元年6月20日	成績不振学生への個別指導について	FD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（計17名）
3	令和元年7月11日	三者面談の実施について	FD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、堀田、村田、村本、山崎、山中、田崎、益田、増山、村上（計17名）
4	令和元年10月10日	附属高校特別推薦候補者の入学前指導の人選について	SD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、増山、村上（計18名）
5	令和元年10月24日	学修成果の把握について	FD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山（計18名）
6	令和元年11月21日	「学生の成長につながる教育の質保証について考える」について	SD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、堀田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（計16名）
7	令和元年12月19日	授業改善アンケートの結果のWebClassによる公開について、スタッフ・デベロップメントの実施について	FD・SD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（計18名）
8	令和2年1月23日	学修成果の把握について、三者面談の実施について	FD	伊藤、内田、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（計18名）
材料機能工学専攻 FD・SD 会議				
1	平成31年4月11日	科学技術リテラシー（ラボツアー、プレゼン実習）の日程確認と実施内容の検討、Z科教育改善WGのメンバー6名の選出について	FD	六田、成塚、上山、竹内、宇佐美、宮嶋、田中、今井、岩谷、服部、榎本（計11名）
2	平成31年4月25日	2、3年生のグループ面談の実施について	FD	六田、上山、成塚、田中、宮嶋、岩谷、今井（計7名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和元年5月9日	2年生ラボツアーの実施について、 2年生のグループ面談の実施状況について	FD	六田, 服部, 宮嶋, 成塚, 宇佐美, 竹内, 岩谷, 榎本, 田中, 今井, 上山 (計11名)
4	令和元年5月23日	後期科目担当(実験I, 実験III, 工業力学, 溶融加工)の見直し, JSAAP学修行動調査 今年の開催について	FD	六田, 榎本, 服部, 今井, 成塚, 宇佐美, 岩谷, 田中, 竹内 (計9名)
5	令和元年6月20日	院生と学部学生との交流促進について	FD	六田, 榎本, 服部, 宮嶋, 今井, 田中, 宇佐美, 上山, 岩谷, 成塚 (計10名)
6	令和元年7月11日	卒研生(4年生)の近況について情報交換	FD	六田, 宇佐美, 榎本, 成塚, 田中, 服部 (計6名)
7	令和元年7月25日	来年度時間割の変更に関して, 応用化学科との共同開講科目に関して, 材料機能工学科新体制の可能性について(コース新設, 定員変更)	FD・SD	六田, 竹内, 上山, 成塚, 宇佐美, 今井, 服部, 榎本, 田中, 宮嶋 (計10名)
8	令和元年9月5日	後期の時間割変更に関して, 応用化学科との共同開講科目に関して, 令和2年度の開講期変更について	FD	六田, 服部, 上山, 竹内, 榎本, 宇佐美, 宮嶋, 成塚, 今井, 田中, 岩谷 (計11名)
9	令和元年9月19日	成績不振学生(2年生)の個人面談, グループ面談実施について	FD	六田, 服部, 榎本, 今井, 田中 (計5名)
10	令和元年10月10日	卒業研究の前期取り組み状況について, 応用数学Iの担当依頼, 応用化学科との共同開講科目について, キャリアアップセミナーの実施について, 材料機能工学科新体制の可能性について(学科名称)	FD・SD	六田, 服部, 宇佐美, 竹内, 宮嶋, 田中, 岩谷, 今井, 上山 (計9名)
11	令和元年10月24日	応用化学科との共同開講科目について, 成績不振学生(2年生)の面談の実施状況の確認	FD	六田, 成塚, 竹内, 上山, 田中, 服部, 宇佐美, 宮嶋, 今井 (計9名)
12	令和元年11月17日	卒研配属方法の確認について, シラバス作成について, 学科の将来構想について	FD・SD	榎本, 成塚, 服部, 宮嶋, 竹内, 岩谷, 田中 (計7名)
13	令和元年11月21日	附属高校特別推薦候補者入学前指導の 応援学生の選出について, 卒研配属方法について, シラバス作成について, 学科の将来構想について	FD・SD	六田, 服部, 今井, 宮嶋, 田中, 岩谷, 成塚, 竹内 (計8名)
14	令和元年12月5日	学籍異動について, 学内生活におけるマナー遵守に関する学務センター 提案について, 附属高校特別推薦候補者入学前指導の応援学生の決定について, 学科の将来構想について	FD・SD	六田, 成塚, 上山, 宇佐美, 宮嶋, 田中, 今井, 岩谷, 服部, 榎本 (計10名)
15	令和元年12月19日	学籍異動について, TOEIC-IP試験について, シラバス提出について, 学科の将来構想について	FD・SD	六田, 榎本, 服部, 今井, 宮嶋, 田中, 上山, 岩谷, 竹内, 成塚 (計10名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
16	令和2年1月9日	時間割最終案について、デジタル電子回路担当非常勤講師について、研究室変更希望について、卒論スケジュールについて、学科の将来構想について	FD・SD	六田，上山，竹内，成塚，宮嶋，岩谷，榎本，今井，宇佐美（計9名）
17	令和2年1月23日	材料機能工学実験1・3の成績集計について、卒研配属方法について、研究室配属について、材料ゼミナールの成績集計について、JABEE 継続について、次期学科長の選出	FD・SD	六田，竹内，上山，成塚，宇佐美，今井，服部，榎本，田中，岩谷，宮嶋（計11名）
応用化学専攻 FD・SD 会議				
1	平成31年4月11日	学生啓蒙活動，同窓会との連携について	FD・SD	永田，大脇，坂，坂東，丸山，池邊，小澤，田中，藤田，才田（計10名）
2	令和元年5月23日	成績不振者等への個人面談実施，学生の学修行動把握方法について	FD	永田，大脇，坂東，小澤，田中，藤田，池邊，才田，坂（計9名）
3	令和元年6月6日	卒研活動安全管理・安全確保，秋卒業学生指導について	FD	永田，大脇，坂東，小澤，田中，藤田，池邊，坂，丸山（計9名）
4	令和元年7月11日	秋卒業学生指導，応化実験Ⅰ欠席学生指導について	FD	永田，大脇，坂，坂東，丸山，池邊，小澤，田中，藤田，才田（計10名）
5	令和元年7月25日	科目履修系統図の検討・修正について	FD	永田，坂東，坂，大脇，池邊，小澤，才田，藤田，田中（計9名）
6	令和元年9月5日	共同開講科目の検討・変更，応化チャレンジプログラム，再履修クラス設定の検討，実験科目におけるインターンシップ学生への対応について	FD	永田，田中，池邊，坂，丸山，大脇，小澤（計7名）
7	令和元年11月21日	シラバスおよび学生便確認，特殊講義の確認，学位審査基準の設定，アドバンストインターンシップの単位認定について	FD・SD	永田，坂，坂東，丸山，藤田，池邊，田中，小澤，才田，大脇（計10名）
8	令和元年12月5日	応化専攻のポリシー再考，ハラスメント対応について	SD	永田，大脇，坂東，田中，藤田，池邊，才田，坂，丸山（計9名）
9	令和元年12月19日	ハラスメント対応について	SD	永田，大脇，坂東，田中，池邊，才田，坂，丸山（計8名）
10	令和2年1月9日	大学院講義担当変更，学生指導教員変更について	FD・SD	永田，丸山，坂，田中，小澤，才田，大脇，坂東（計8名）
機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	平成31年4月1日	学科オリエンテーション時（H31.4/2）における数学習熟度診断テストの実施について	FD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川（計13名）
2	令和元年5月23日	英語学習システムの再案内について	FD	久保，池本，大槻，来海，藤山，小島，清水，塚田，中西，成田，古川，松田，吉川，アブラハ，大島（計15名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和元年 6 月21日	学修行動調査について	FD・SD	久保, 池本, 大槻, 来海, 藤山, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, アブラハ, 大 島 (計15名)
4	令和元年 7 月25日	令和 2 年度入学前教育 (MEC プログ ラム) への参画について	FD・SD	久保, 池本, 大槻, 来海, 藤山, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, アブラハ, 大 島 (計15名)
5	令和元年10月 3 日	附属高校特別推薦候補者入学前指導 に係る学生の選出について, ATR- CALL のチラシ配布について, 全学 実施の FD フォーラムについて	FD・SD	久保, 池本, 大槻, 来海, 藤山, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, アブラハ, 大 島 (計15名)
6	令和元年12月 5 日	ジェイサーブ (JSAAP) の調査結果 について	FD・SD	久保, 池本, 大槻, 来海, 藤山, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, アブラハ, 大 島 (計15名)
7	令和元年12月19日	授業改善アンケート集計結果の学生 への WEB 公開について, 各学科に おける SD (スタッフ・デベロップメ ント) の実施について	FD・SD	久保, 池本, 大槻, 来海, 藤山, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, アブラハ, 大 島 (計15名)
8	令和 2 年 1 月23日	授業改善アンケート集計結果の学生 への WEB 公開中止について	FD・SD	久保, 池本, 大槻, 来海, 藤山, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, アブラハ, 大 島 (計15名)
交通機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和元年 5 月23日	交通機械工学科 FD 委員会の設置方 法について	FD・SD	鈴木, 小川, 加鳥, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村尾 (計13名)
2	令和元年 6 月 6 日	交通機械工学科 FD 委員会構成メン バーについて, 交通機械工学科にお ける教育点検改善システムについて	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 仙場, 菅, 早藤, 村尾, 山崎 (計15名)
3	令和元年 6 月20日	交通機械工学科 FD 委員会構成メン バーについて	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 早藤, 山崎 (計11名)
4	令和元年 7 月11日	教員間ネットワークの構成メンバー について	FD・SD	相馬, 鈴木, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村尾, 山崎 (計13名)
5	令和元年 7 月25日	交通機械工学科 FD 委員会の設置に ついての修正案について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村尾, 山崎 (計 15名)
6	令和元年 9 月 5 日	外部評価委員会について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 前川, 大藏, 菅野, 仙場, 菅, 早藤, 村 尾 (計11名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和元年10月10日	全学 FD フォーラムについて	FD・SD	鈴木, 小川, 加鳥, 前川, 中島, 大藏, 西村, 横谷, 菅野, 仙場, 菅, 村尾 (計12名)
8	令和元年11月7日	講義内容の変更案, 学生トラブル対応方法について	FD・SD	加鳥, 小川, 鈴木, 相馬, 西村, 中島, 大藏, 菅, 菅野, 横谷, 村尾, 早藤, 山崎 (計13名)
9	令和元年11月21日	令和2年度学部・大学院シラバス内容について	FD・SD	加鳥, 相馬, 鈴木, 西村, 前川, 大藏, 菅, 横谷, 村尾, 早藤, 山崎 (計12名)
10	令和元年12月19日	授業改善アンケート公開, FD/SD 活動について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 中島, 西村, 前川, 大藏, 菅, 菅野, 仙場, 村尾, 早藤, 山崎 (計14名)
11	令和2年1月23日	授業改善アンケート公開, FD/SD 活動, 外部評価について	FD・SD	加鳥, 小川, 相馬, 鈴木, 中島, 西村, 前川, 大藏, 菅, 菅野, 横谷, 仙場, 村尾, 早藤, 山崎 (計15名)
メカトロニクス工学専攻 FD・SD 会議				
1	平成31年4月11日	数学基礎学力調査について	FD	楊, 井上, 福田, 金子, 目黒, 芦澤, 市川, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
2	令和元年10月10日	全学 FD フォーラムについて, 附属高校特別推薦候補者向け入学前指導対応について	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 野々川, 星野, 大原 (計9名)
3	令和元年10月24日	全学 FD フォーラムについて	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
4	令和2年1月9日	学修成果の可視化に向けた今後の方向性について, 授業改善アンケートの周知について	FD・SD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 野々川, 星野, 太田, 大原 (計11名)
社会基盤デザイン工学専攻 FD・SD 会議				
1	平成31年4月26日	教育改善委員会の議事報告, 英語学習システム ATR-CALL のアナウンスとその利用改善に向けて	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
2	令和元年5月23日	学修成果の把握に向けた外部調査の実施について, 2019年度新入生学科アンケートおよびプレイスメントテストの集計結果について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
3	令和元年5月27日	学生の学修成果状況の把握方法と対象の提案について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
4	令和元年6月20日	フレッシュマンセミナーアンケート結果と今後の対応について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)
5	令和元年9月26日	10/9 の PROG テスト実施と場所変更アナウンスのお願い, 教育改善委員会の議事報告	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 新井, 岩下, 中村, 藤井, 渡辺 (計13名)

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和元年10月10日	今年度のFD活動の実施報告について、来年度のPROGテスト実施体制について	FD	石川、板橋、葛、鈴木、原田、松本、溝口、新井、岩下、中村、藤井、渡辺（計12名）
7	令和元年10月24日	来年度のPROGテスト実施方針について	FD	石川、板橋、葛、小高、鈴木、原田、松本、溝口、岩下、中村、藤井、渡辺（計12名）
8	令和元年11月21日	教育プログラム点検結果報告	FD	石川、板橋、葛、小高、鈴木、原田、溝口、新井、岩下、中村、藤井、渡辺（計12名）
9	令和元年12月5日	教育改善委員会の実施報告 教育貢献表彰	FD	石川、板橋、葛、小高、鈴木、原田、松本、溝口、新井、岩下、中村、藤井、渡辺（計13名）
10	令和元年12月19日	授業改善アンケート集計結果の学生へのWEB公開について、FD/SDの実施について	FD・SD	石川、板橋、小高、鈴木、原田、松本、溝口、新井、岩下、中村、藤井、渡辺（計12名）
環境創造学専攻 FD・SD 会議				
1	令和元年6月20日	カリキュラム自己点検・評価に関する資料について	FD	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、吉村、小塩、齊藤、日比、広瀬、深谷、武藤（計12名）
2	令和元年9月5日	前期授業改善アンケートについて	FD	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、吉村、齊藤、日比、武藤（計9名）
3	令和元年10月24日	学修成果可視化外部調査について	FD	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、吉村、小塩、齊藤、日比、広瀬、深谷、武藤（計12名）
4	令和元年11月21日	外部評価委員会の資料準備について	FD・SD	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、吉村、小塩、齊藤、日比、広瀬、深谷、武藤（計12名）
5	令和元年12月19日	授業改善アンケート集計結果のWEB公開とSDの実施に関する意見集約について	FD・SD	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、吉村、小塩、日比、広瀬、武藤（計10名）
6	令和元年12月26日	外部評価委員会の実施について	FD・SD	酒巻、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、日比、武藤、広瀬（計9名）
7	令和2年1月9日	授業改善アンケート集計結果のWEB公開とSDの実施に関する意見集約の理工学部全体の結果の報告	FD・SD	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、日比、広瀬、深谷、武藤（計11名）
建築学専攻 FD・SD 会議				
1	平成31年4月11日	研究室所属生名簿の確認について	FD	岡田、鈴木、吉久、高井、寺西、武藤、石井、大塚、生田、吉永、平岩、谷田、三浦、高橋、松田、米澤、佐藤（計17名）
2	令和元年5月23日	学修成果の把握にむけた外部調査の実施について	FD	岡田、鈴木、吉久、高井、寺西、武藤、大塚、生田、吉永、平岩、谷田、三浦、松田、米澤、佐藤（計15名）

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和元年6月6日	製図・制作室の環境整備について	FD	岡田, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 米澤, 佐藤 (計15名)
4	令和元年6月20日	学修行動調査について, FD フォーラムのテーマ募集について, 成績不振者への指導について	FD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計17名)
5	令和元年7月25日	成績不振者への指導について	FD・SD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 寺西, 武藤, 石井, 大塚, 生田, 吉永, 平岩, 谷田, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計17名)
6	令和元年10月10日	ATR-CALL 資料配布について, 卒業研究・卒業制作中間報告書未提出者について	FD・SD	岡田, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計16名)
7	令和元年10月24日	外部評価委員会の実施について, PROG テストの実施について	FD・SD	岡田, 吉久, 武藤, 寺西, 生田, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計13名)
8	令和元年11月21日	令和2年度シラバスの改善について	FD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 佐藤 (計16名)
9	令和元年12月5日	新3年生のゼミナール配属について, 卒業設計追い込み期の制作室の扱いに関して	FD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 三浦, 松田, 米澤, 佐藤 (計15名)
10	令和元年12月19日	「コンピューターリテラシー」のプログラミング教育内容の更新について, 授業改善アンケート集計結果の学生へのWEB公開について, 各学科におけるSD (スタッフ・デベロップメント) の実施について	FD・SD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計16名)
11	令和2年1月23日	4年生卒業研究の「中間報告書」未提出者について, TOEIC のスコアレポートの配布について	FD	岡田, 鈴木, 吉久, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計17名)

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（農学部）
推進組織名（農学部 FD 委員会）

1. 令和元年度の活動報告

農学部は3学科・附属農場それぞれに課題を設け取り組んできた。具体的には下記活動記録に記述の通り、生物資源学科では事実を正確に伝え、かつ豊かな表現力を育む手法の探索、応用生物化学科では各講義・実験の内容紹介と意見交換を通じた教員間の連携強化と教育効果向上、生物環境科学科では学科の取り組みを含む「生物多様性」の意義を広く一般に理解してもらうための教育活動の強化、附属農場では農学に関わる動植物への求知心の創起法の開発を直近の課題としているところである。

- ①本年度は、学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善のために、外部調査として1年次を対象にGPS-Academicを採用した。外部調査した学生が3年次になった時、再びアンケートすることで学修成果の可視化に成果を生かす予定である。また、年度末（2月8日の農学部の卒業研究発表会）にて4年生に「名城大学卒業時アンケート」を実施し、学生の学修成果や大学生生活全体に対する満足度、成長の実感度合いを数値化、可視化していく予定である。
- ②各学科ともに「履修系統図」「ポートフォリオ」への取り組みに加え、完成年度後の新たなカリキュラム改正に向けた議論を進め、生物資源学科の実験科目の材料を学生が農場実習で育てる共同カリキュラムに取り組み、農場の教育環境改善を実施中である。また、農学部FD委員会直轄ではないが、顕著な成果として、MS-26の教育ミッションを勘案し、生物資源学科では実働を担う専門委員会を立ち上げ、本年度からは特色化支援の活動において体験型プログラムとして正しい農業生産規範（Good Agricultural Practice; GAP）のカリキュラムへの導入が軌道に乗りつつある等、アクティブラーニングをベースにした教育プログラム実施に精力を傾注しているところである。

2. 今後の課題、方向性

入試区分や入学時の成績、在学中のGPAベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのため、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が強く要請される。

今後も学科単位での検討体制は変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応のあり方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育ともリンクさせた対応を提言する、という立場から、農学部FD委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	平成31年 4月3日（水）	第1回生物環境科学科会議 ・障がい学生への対応について	SD	長田，汪，日野，大浦，磯井，船隈， 近藤，田村，細田，丸山，橋本， 新妻
2	平成31年 4月11日（木）	第1回応用生物化学科会議 ・学科カリキュラムの検討について	FD・SD	天野，氏田，奥村，加藤，志水， 長澤，濱本，林（利），前林，松儀， 湊，山口（秀）
3	平成31年 4月11日（木）	第2回生物環境科学科会議 ・次年度の新任教員の在り方について	FD・SD	汪，日野，大浦，磯井，田村， 新妻，長田，近藤，細田，橋本
4	平成31年 4月12日（金）	第1回農場教員会議 ・農場実習日程について	FD	平野，中尾，森田（隆），林， 森田（裕），片山，田中
5	平成31年 4月25日（木）	第1回農学部FD懇談会 ・障がい学生への支援について	FD・SD	磯井，磯前，氏田，汪，大浦，加藤， 木岡，鈴木（茂），田村，津呂， 寺田，新妻，林（利），日野，平野， 船隈，前林，松儀，丸山，湊，森上， 山岸，山口（秀），天野，荒川， 上船，奥村，長田，近藤，志水， 鈴木（康），塚越，中尾，橋本， 濱本，林（義），平見，細田， 森田（隆），森田（裕），長澤
6	平成31年 4月25日（木）	第2回生物資源学科会議 ・次年度の教員編成の確認	FD・SD	磯前，山岸，寺田，鈴木（茂）， 平野，荒川，鈴木（康），平見， 上船，塚越，津呂
7	平成31年 4月25日（木）	第2回応用生物化学科会議 ・学科教員組織の編成方針について ・学科カリキュラムの改正について ・応用生物化学概説のアンケート実施について	FD・SD	天野，氏田，奥村，加藤，志水， 長澤，濱本，林（利），前林，松儀， 湊，山口（秀）
8	令和元年 5月16日（木）	第3回応用生物化学科会議 ・研究室配属について ・学位授与方針について ・2年生ミキサーについて ・学生実験テキストについて	FD・SD	天野，氏田，奥村，加藤，志水， 長澤，濱本，林（利），前林，松儀， 湊，山口（秀）
9	令和元年 5月17日（金）	第3回農場教員会議 ・修士課程科目の開講日程について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），林， 森田（裕），片山，田中
10	令和元年 5月30日（木）	第4回生物資源学科会議 ・次年度講義科目の確認	FD	磯前，山岸，鈴木（茂），平野， 荒川，平見，上船，塚越，津呂
11	令和元年 5月30日（木）	第4回応用生物化学科会議 ・時間割について ・研究室配属について	FD	天野，氏田，奥村，志水，長澤， 濱本，前林，松儀，湊，山口（秀）
12	令和元年 5月30日（木）	第3回生物環境科学科会議 ・次年度講義科目の確認 ・次年度の教員編成の確認	FD	長田，汪，大浦，磯井，船隈，近藤， 田村，細田，橋本，新妻

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
13	令和元年 6月7日（金）	第4回農場教員会議 ・農場実習日程について ・カリキュラム改正に伴う講義科目について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），林， 森田（裕），片山，田中
14	令和元年 6月13日（木）	第5回応用生物化学科会議 ・学科教員組織の編成方針について ・体育担当教員の編成方針について ・時間割について ・成績不振者に対する対応について	FD・SD	天野，氏田，奥村，加藤，長澤， 濱本，前林，松儀，湊，山口（秀）
15	令和元年 6月13日（木）	第4回生物環境科学科会議 ・次年度の教員編成に関する報告 ・成績不振者の確認	FD・SD	長田，汪，磯井，船隈，近藤，細田， 丸山，橋本，新妻
16	令和元年 6月27日（木）	第6回生物資源学科会議 ・GPS-Academic の設問追加の検討	FD・SD	磯前，山岸，鈴木（茂），道山， 寺田，平野，鈴木（康），荒川， 平見，上船，塚越，津呂
17	令和元年 6月27日（木）	第6回応用生物化学科会議 ・修学時アンケートについて ・時間割について ・1年次対象のメディアリテラシー についての意見交換	FD	天野，氏田，奥村，加藤，長澤， 濱本，林（利），前林，松儀，湊， 山口（秀）
18	令和元年 6月27日（木）	第5回生物環境科学科会議 ・次年度講義科目の確認	FD	汪，日野，大浦，磯井，船隈，近藤， 細田，丸山，橋本，新妻
19	令和元年 7月5日（金）	第5回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う講義内容 と科目名の変更について ・農場実習日程について ・農学研究科におけるアンケートに ついて	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），林， 森田（裕），片山，田中
20	令和元年 7月11日（木）	第7回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正関連（学科関連 事項，他学科関連科目，教養科目等）	FD・SD	磯前，山岸，鈴木（茂），寺田， 平野，鈴木（康），荒川，平見， 上船，塚越，津呂
21	令和元年 7月11日（木）	第7回応用生物化学科会議 ・カリキュラムについて ・授業科目履修系統図について ・成績評価について ・成績不振者への対応について	FD・SD	天野，氏田，奥村，加藤，志水， 長澤，濱本，林（利），前林，松儀， 湊，山口（秀）
22	令和元年 7月11日（木）	第6回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正（実験科目の単 位数）関連 ・GPS-Academic によるアンケート の実施確認	FD・SD	長田，汪，日野，大浦，磯井，船隈， 近藤，田村，細田，丸山，新妻

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
23	令和元年 7月25日（木）	第8回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正関連（基軸科目、 第二外国語、人文社会科目群） ・GPS-Academic の設問追加の検討	FD・SD	磯前，山岸，鈴木（茂），道山， 寺田，平野，鈴木（康），荒川， 平児，上船，塚越，津呂
24	令和元年 7月25日（木）	第8回応用生物化学科会議 ・カリキュラム改正について ・次年度時間割について ・成績評価について ・2年生ミキサーについて	FD	天野，氏田，奥村，加藤，志水， 長澤，濱本，林（利），前林，湊， 山口（秀）
25	令和元年 7月25日（木）	第7回生物環境科学科会議 ・次年度講義科目の確認 ・カリキュラム改正（基軸科目の設 定）関連	FD	長田，汪，日野，大浦，磯井，船隈， 近藤，田村，細田，丸山，橋本， 新妻
26	令和元年 8月2日（金）	第6回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う講義内容， 日程と科目名の変更について ・農場実習日程について	FD・SD	平野，中尾，林，森田（裕），片山， 田中
27	令和元年 9月5日（木）	第9回生物資源学科会議 ・次年度講義科目の確認（時間割， 非常勤講師の検討）	FD	山岸，鈴木（茂），道山，寺田， 平野，鈴木（康），荒川，平児， 上船，塚越，津呂
28	令和元年 9月5日（木）	第8回生物環境科学科会議 ・次年度講義科目の確認（時間割， 非常勤講師の検討）	FD	長田，汪，日野，大浦，磯井，船隈， 近藤，田村，細田，丸山，橋本， 新妻
29	令和元年 9月6日（金）	第7回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う講義日程 と科目名の変更について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），森田（裕）， 片山，田中
30	令和元年 9月19日（木）	第10回生物資源学科会議 ・次年度講義科目の確認（時間割， 非常勤講師の検討）	FD	磯前，山岸，鈴木（茂），道山， 寺田，鈴木（康），平児，上船， 塚越，津呂
31	令和元年 9月19日（木）	第9回応用生物化学科会議 ・時間割について ・非常勤講師について ・編入学に関する単位認定について	FD	奥村，加藤，志水，長澤，濱本， 前林，松儀，湊，山口（秀）
32	令和元年 9月19日（木）	第9回生物環境科学科会議 ・次年度講義科目の確認（非常勤講 師の確認） ・履修登録の削除に関する協議	FD・SD	汪，日野，大浦，磯井，船隈，近藤， 田村，細田，丸山，橋本，新妻
33	令和元年 10月3日（木）	第11回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正関連（英語，体育， 基軸科目）	FD	磯前，山岸，鈴木（茂），道山， 寺田，森上，平野，荒川，鈴木（康）， 平児，上船，塚越，津呂
34	令和元年 10月3日（木）	第10回応用生物化学科会議 ・カリキュラム改正について ・2021年度時間割について	FD	氏田，奥村，志水，濱本，林（利）， 前林，松儀，湊，山口（秀）

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
35	令和元年 10月3日（木）	第10回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正（英語のクラス 編成）関連	FD	長田，汪，日野，大浦，磯井，船隈， 近藤，田村，細田，丸山，橋本， 新妻
36	令和元年 10月4日（金）	第8回農場教員会議 ・農場実習の実施内容について ・カリキュラム改正に伴う講義日程， 科目名について ・農学部講義科目の分担について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），林， 森田（裕），片山，田中
37	令和元年 10月17日（木）	第12回生物資源学科会議 ・次年度講義科目の確認（時間割） ・新カリキュラムの時間割の検討 ・後期授業改善アンケートの科目の 確認 ・各学部・研究科等におけるFD取 組を推進する組織一覧についての 確認	FD・SD	磯前，山岸，鈴木（茂），道山， 寺田，平野，荒川，鈴木（康）， 平見，上船，塚越，津呂
38	令和元年 10月17日（木）	第2回GAP教育研究会 ・新カリキュラムの検討	FD・SD	平野，鈴木（康），荒川，平見， 上船，塚越，津呂
39	令和元年 10月17日（木）	第11回応用生物化学科会議 ・次年度非常勤講師について ・応用生物化学概説と化学実験につ いて ・他学部他学科履修科目について ・応用生物化学実験について ・授業改善アンケートについて	FD	天野，奥村，加藤，志水，濱本， 前林，松儀，湊，山口（秀）
40	令和元年 11月7日（木）	第11回生物環境科学科会議 ・新カリキュラム用講義科目の確認	FD	汪，磯井，日野，近藤，大浦，田村， 細田，橋本，長田，新妻
41	令和元年 11月7日（木）	第12回応用生物化学科会議 ・次年度の実験実習時間割について ・実験実習の運営について	FD	天野，氏田，奥村，濱本，林（利）， 長澤，前林，松儀，湊，山口（秀）
42	令和元年 11月7日（木）	第13回生物資源学科会議 ・修論・卒論発表の情報管理につ いて ・来年度休学予定の2年生の研究室 配属について ・新カリキュラムの一部変更・追加 について ・来年度のカリキュラムの確認	FD・SD	磯前，山岸，鈴木（茂），寺田， 平野，荒川，鈴木（康），平見， 上船，塚越，津呂
43	令和元年 11月8日（金）	第9回農場教員会議 ・農場実習の開講形式について ・カリキュラム改正に伴う講義日程 について ・実習日程について ・施設改修について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），森田（裕）， 片山，田中

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
44	令和元年 11月8日（金）	第10回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う講義日程について ・施設改修について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），森田（裕）， 鈴木，澤井
45	令和元年 11月21日（木）	第14回生物資源学科会議 ・2020年度の時間割案と新カリの時間割案について ・新カリキュラムの一部変更について ・令和2年度研究室配属について	FD・SD	磯前，山岸，鈴木（茂），寺田， 道山，平野，荒川，鈴木（康）， 平見，上船，塚越，津呂
46	令和元年 11月21日（木）	第13回応用生物化学科会議 ・カリキュラム改正について ・次年度時間割について ・卒業研究発表会について ・カリキュラム変更に伴う単位読み替えについて	FD・SD	天野，氏田，奥村，加藤，志水， 濱本，林（利），長澤，前林，湊， 山口（秀）
47	令和元年 11月21日（木）	第12回生物環境科学科会議 ・新カリキュラム用講義科目の時間割確認 ・学芸員課程の専門分野科目の確認 ・教職課程の変更届出に係る科目の確認	FD・SD	丸山，船隈，汪，磯井，日野，近藤， 大浦，田村，細田，橋本，長田， 新妻
48	令和元年 12月5日（木）	第15回生物資源学科会議 ・教員の業績評価について ・研究室配属希望調査の流れの確認 ・新カリキュラムの改正点の確認	FD・SD	山岸，鈴木（茂），寺田，道山， 平野，荒川，鈴木（康），平見， 上船，塚越，津呂
49	令和元年 12月5日（木）	第14回応用生物化学科会議 ・カリキュラム改正について ・卒業研究について ・次年度時間割について ・実験実習の履修登録について	FD	天野，氏田，奥村，志水，濱本， 林（利），前林，松儀，湊，山口（秀）
50	令和元年 12月5日（木）	第13回生物環境科学科会議 ・新カリキュラムに係る教養基軸科目の名称等に関する検討 ・次年度講義科目の確認（非常勤講師の確認）	FD	丸山，船隈，汪，磯井，近藤，大浦， 田村，細田，橋本，長田，新妻
51	令和元年 12月6日（金）	第11回農場教員会議 ・研究室名変更について ・施設改修について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），林， 森田（裕），片山，田中
52	令和元年 12月19日（木）	第16回生物資源学科会議 ・高等教育の就学支援新制度に係る実務経験のある教員，担当科目等の調査，及びシラバスへの実務経験と授業内容の関連の確認	FD・SD	磯前，鈴木（茂），寺田，道山， 平野，荒川，鈴木（康），平見， 上船，塚越，津呂

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
53	令和元年 12月19日（木）	第15回応用生物化学学科会議 ・カリキュラム改正について ・次年度時間割について ・次年度担当講師について	FD	天野，奥村，加藤，志水，濱本， 長澤，林（利），松儀，湊，山口（秀）
54	令和元年 12月19日（木）	第14回生物環境科学学科会議 ・新カリキュラムに係る教職科目の 確認	FD	丸山，船隈，汪，磯井，日野，近藤， 大浦，田村，細田，橋本，長田， 新妻
55	令和2年 1月9日（木）	第16回応用生物化学学科会議 ・次年度時間割について ・学生指導について ・実務家教員の講義科目について	FD・SD	天野，氏田，奥村，加藤，志水， 長澤，濱本，林（利），前林，湊， 山口（秀）
56	令和2年 1月10日（金）	第12回農場教員会議 ・研究室名変更について ・施設改修について	FD・SD	平野，中尾，森田（隆），林， 森田（裕），片山，田中
57	令和2年 1月16日（木）	第15回生物環境科学学科会議 ・新カリキュラムに係る教職科目の 確認 ・新年度配布用DPポートフォリオ の確認	FD・SD	汪，磯井，近藤，大浦，田村，細田， 橋本，長田，日野，新妻
58	令和2年 1月23日（木）	第17回生物資源学科会議 ・新入生配布用各学科DPポート フォリオの確認	SD	磯前，鈴木（茂），山岸，寺田， 道山，平野，荒川，鈴木（康）， 平見，上船，塚越，津呂
59	令和2年 1月23日（木）	第17回応用生物化学学科会議 ・実験実習の成績評価について ・実務家教員の講義科目について	FD	氏田，奥村，志水，濱本，長澤， 林（利），前林，松儀，湊，山口（秀）
60	令和2年 1月23日（木）	第16回生物環境科学学科会議 ・新カリキュラムに係る教職科目の 確認 ・次年度の新任教員の在り方につい て	FD・SD	汪，磯井，近藤，大浦，田村，細田， 橋本，長田，日野，新妻

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 農学研究科 ）
推進組織名（ 農学研究科 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

活動方針：令和元年度は新カリキュラム始動年であるため、旧カリキュラムからの変更点を整理、明確化し、新カリキュラム 1 期生になる修士課程 1 年次生および博士後期課程 1 年次生への指導方法を検討、実施した。とくに、大きな変更を行った農学特別演習、倫理教育、指導教員グループ制などに注力した。

活動目標：新カリキュラムへのスムーズな移行

活動内容：

①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

大学院生全員が受講する農学特別演習において、昨年度改善を行った毎回提出を義務づけているレポートの取り扱いについてこれを着実に実行した。すなわち、発表者の発表内容に対して、その「価値」、「質疑」、「触発」、「質問」に分けてコメント、さらに、発表全体に対する意見を報告させ、特任助手の協力により集まったレポートに記されたコメントを発表者にフィードバックした。

②その他研究科独自の取組

1) 副指導教員による最終審査時以外の指導が総じて行われていない現状を鑑み、副指導教員を含む指導教員グループによる修士課程あるいは博士後期課程の中間段階における複数回の研究進捗状況の確認・報告の方法を決定した。

2) 修士論文発表会における情報管理として出席者に署名を求める「秘密保持誓約書」を作成した。

2. 今後の課題、方向性

FD：上記活動内容②に示した指導教員グループによる研究進捗状況確認・報告を実施することにより明確になった指導上の問題点などを全教員で共有し、必要に応じて指導体制などの見直しを行う。

SD：社会人入試の PR について検討する。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	平成31年 4 月25日	閉講科目についての検討 科学倫理の開講についての検討	FD FD	磯井・津呂・山口（秀）・新妻・ 平野・河村
2	令和元年 9 月19日	奨学生選出についての検討 履修モデルについての検討 春日井キャンパスでの開講について の検討	SD FD SD	磯井・津呂・山口（秀）・新妻・ 平野・河村
3	令和元年12月 2 日	科目担当者、シラバス作成について の検討 修士論文発表会における情報管理に ついての検討 指導教員グループによる研究進捗状 況確認についての検討 社会人入試の PR についての検討	FD SD FD SD	磯井・津呂・山口（秀）・新妻・ 平野・河村
4	令和 2 年 1 月28日	修士論文発表会における情報管理に ついての検討 指導教員グループによる研究進捗状 況確認についての検討 大学院生の国際学会発表に伴う旅費 支給についての検討	SD FD SD	磯井・津呂・山口（秀）・新妻・ 平野

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学部 ）
推進組織名（ 薬学部 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

1) 薬学部 FD 委員会活動目標及び活動項目

FD 活動の定義：薬学部教育理念、目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育改善をサポートする。

A. 実質的な授業改善

- ①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出
- ②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

B. 学生の主体的な学びの促進

- ①学生の主体的活動のサポート
- ②学びの成果の可視化

C. 教育活動の可視化と IR の実施→全学共通課題：①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

- ①教育活動の可視化
- ②IR の実施と教育改善の提案

2) 令和元年度活動内容

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

アンケート回収率平均（薬学部実施科目での集計）

前期69.2% 未提出者への追加アンケート後 78.6%

後期72.9% 未提出者への追加アンケート後 79.9%

- ・学生へのフィードバックとしては、授業改善アンケートの自己評価部分をレーダーチャート化し、当該学年の平均を含めて可視化した。
- ・教員へのフィードバックでは、授業改善のヒントとなるように、下記のデータを IR の一環として作成し、フィードバックした。

フィードバック内容：当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の授業スキル及び自己評価についてのレーダーチャート（全科目平均及び当該学年平均含む）、当該科目成績と満足度の関係、当該科目成績と各指標の関連の散布図（基礎学力、授業外学習時間、授業集中、理解度、到達度、満足度）、各系列の科目の各指標の分布グラフ

- ・教員から各科目履修学生への授業改善アンケートについてのフィードバック

本年度からポートフォリオで実施できるようにしたため、前期実施率は75.0% と高かった。

- ・後期授業改善アンケートから、アンケート回答率の向上策として、a 授業内実施の推奨、

b ポスターの掲示（学生用、教員用）、c 演習科目の実施見送りをを行った。その結果、回答率は若干上昇したが、さらなる改善を検討する。

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

下記内容でFD フォーラム及びFD ワークショップを行った。

- ・FD フォーラム（FD,SD）

講演日時：7月22日

講演内容：薬学教育に期待すること（今後の薬剤師に期待すること）

講師：安川 孝志 氏

厚生労働省医薬・生活衛生局総務課、薬事企画官 / 医薬情報室長

- ・FD ワークショップ（FD,SD）

講演日時：12月11日

講演内容：半期の授業デザインワークショップ ～「13回に減らす」からより学びを深くする授業へ～

シラバス書き換えワークショップ

講師：榊原 暢久先生

芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター 教授

ファカルティデベロッパー・SD コーディネーター

B. 学生の主体的な学びの促進

①学生の主体的活動のサポート

- ・4/20に学生が主体となり、第9回学生フォーラムを開催し、このサポートを行った。参加者（アンケート記載者）は、105人、発表者はポスター発表32演題、口頭発表7演題、アドバンストコース紹介4演題であった。今年度は、研究を中心にプログラム計画を行ったが、周知不足などで参加者が減少した。
- ・今年度のE-プロに、2団体がトライし、助成を得て活動している。

②学びの成果の可視化

1年生を対象に、深い学びと浅い学びのアンケートを行い、学習スタイルを確認し、後期の指導教員との面談に利用した。

2年生を対象に、昨年度から実施している学修成果の評価ルーブリックの自己評価結果をレーダーチャートにし、指導教員との面談に利用した。この面談では、1年次の学習成績についてもレーダーチャートにし、自己評価と照らし合わせ、1年次の学習の振り返りに役立たせた。

4年生を対象に、外部指標としてGPS-Academicを実施した。

1－4年生を対象に、ディプロマ・ルーブリックと学修成果サマリーを利用した振り返りを半期毎に行った。また、2年生については、深い学びと浅い学びのアンケートを行った。

6年生については、国家試験模擬試験の推移をレーダーチャートとし、努力を可視化すると共に、教員からのアドバイスなどでサポートを行った。

C. 教育活動の可視化と IR の実施→全学共通課題：①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

①教育活動の可視化

教育活動の可視化として、本年度より、従来年度末に行っていたディプロマ・ルーブリックによる振り返りを半期毎に実施すると共に、同時に半期の学びを振り返る学修成果サマリーの作成を行い、学生の学修のサポートを行なった。

○振り返りの実施時期

前期：8月中（未実施は、9月に集めて実施）

後期：3月中（未実施は、3月末ガイダンス時に実施）

○内容

- ・ディプロマ・ルーブリックを用いた振り返り
- ・半期の学びを振り返り、「満足な成果」、「不満足な成果」について2科目ずつ選択し、以下の様な振り返りを行う。
- ・思うように行ったこと、・思うように行かなかったこと、・できるようになったこと
- ・まだ不十分なこと、・次に活かすこと

1年生については、この資料を用いた学生面談を行い、学生の振り返り及び指導を強化した。

前期の振り返り実施率は右記の通りであった。

	ディプロマ・ルーブリック実施率(%)	学修成果サマリー実施率(%)
1年生	98.9	85.3
2年生	97.9	88.6
3年生	95.9	89.8
4年生	98.1	94.6

② IR の実施と教育改善の提案

平成30年度学位授与方針対応表の検証について、今年度からアセスメントポリシーも含めて評価を行うこととし、取り組んだ。また、教学マネジメント指針に示された、学修目標と学修成果・教育成果に関する情報の関係図を参考に、個々の資質・能力のエビデンスとなる情報の洗い出し、イメージ化も行った。

検証ポイント：

- 領域、順次性、難易度を踏まえた体系的性
- ディプロマ・ポリシーでうたっている能力の育成とカリキュラムの整合性
- 学生の学修成果の確認
- アセスメントポリシーに基づく評価（学位プログラムの評価）材料

材料：

間接データ：ディプロマ・ルーブリック、授業改善アンケートなど

直接データ：PROG テスト、ディプロマ・ルーブリック毎の成績、修得度など

上記の情報を材料として、学位授与方針対応表に基づく学修成果が得られているかを評価した。また、教学マネジメント指針に基づくエビデンスとなる情報として、新たに修得度（学位授与方針対応表で◎の科目の単位数と GP を元にした、修得度を示す指標）を確認し、利用可能かを検討した。

2. 今後の課題、方向性

今年度の課題としては、ようやく学修成果の可視化が可能な情報が集積され、分析の方向性も固まってきたが、分析に時間等がかかり、リアルタイムなフィードバックができない点が課題であった。来年度は、今年度の検討結果を踏まえ、学修成果の可視化に関する分析は定型化・自動化を検討し、適切な時期にフィードバックできるように検討する。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年 5 月 29 日 ① 第一回 FD 委員会	1. 令和元年度 FD 委員会活動について 2. 令和元年度前期授業改善アンケートについて 3. 学生の主体的活動サポート 4. 学びの成果の可視化について 5. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、黒野、井藤、飯田、中村文（教務）
2	令和元年 6 月 18 日 ① 第二回 FD 委員会	1. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、黒野、井藤、飯田、田口、中村文（教務）
3	令和元年 6 月 27 日 ① メール会議	1. FD フォーラムの実施について	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、黒野、井藤、飯田、田口、中村文（教務）
4	令和元年 7 月 10 日 ① 第三回 FD 委員会	1. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価（継続）	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、黒野、井藤、中村文（教務）
5	令和元年 7 月 22 日 ② 令和元年度 FD フォーラム	講演内容： 薬学教育に期待すること (今後の薬剤師に期待すること) 講師：安川 孝志 氏 厚生労働省医薬・生活衛生局総務課 薬事企画官 / 医薬情報室長	FD、SD	金田典雄、永松正、湯川和典、飯田耕太郎、早川伸樹、丹羽敏幸、長谷川洋一、大津史子、灘井雅行、能勢充彦、平松正行、黒野俊介、山田修平、伊東亜紀雄、北垣伸治、井藤千裕、神野秀人、加藤美紀、小森由美子、根岸隆之、西川泰弘、今西進、奥田知将、水野智博、牛田誠、都築孝允、酒井隆全、榊原有紀子、中村文（教務）
6	令和元年 7 月 29 日 ① メール会議	1. 授業改善アンケートの回答状況について	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、黒野、井藤、飯田、田口、中村文（教務）

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和元年8月26日 ①第四回 FD 委員会	1. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検及びアセスメントポリシーに基づく評価（継続）	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、黒野、井藤、中村文（教務）
8	令和元年10月16日 ①第五回 FD 委員会	1. 外部評価（GPS-Academic）の来年度実施 2. 後期授業改善アンケートについて 3. 個人情報の取り扱いについて 4. 平成30年度学位授与方針対応表の検証について（継続）及び拡大教授会での報告について	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、井藤、田口、中村文（教務）
9	令和元年12月11日 ②令和元年度 FD ワークショップ	○半期の授業デザインワークショップ ～「13回に減らす」からより学びを深くする授業へ～ ○シラバス書き換えワークショップ 講師：榊原 暢久 先生 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター 教授 ファカルティデベロッパー・SD コーディネーター	FD、SD	青木明、伊東亜紀雄、今西進、牛田誠、打矢恵一、岡本誉士典、奥田知将、北垣伸治、黒野俊介、小森由美子、近藤啓太、酒井隆全、神野透人、武永尚子、丹羽敏幸、根岸隆之、能勢充彦、長谷川洋一、早川伸樹、日坂真輔、水本秀二、山田修平、湯川和典、脇田康志、衣斐大祐、永松正、間宮隆吉、吉田圭佑、金田典雄、原田健一、榊原有季子、守屋友加、小森由美子、小島良二、植田康次、村田富保、大津史子、田口忠緒、灘井雅行、飯田耕太郎、武田直仁、中村文（教務）
10	令和元年12月24日 ②第六回 FD 委員会	1. 教学マネジメント指針学位授与方針に定められた学修目標と学修成果に関する情報 2. 平成30年度学位授与方針対応表の検証について（継続）	FD、SD	大津委員長（議長）、神野、山田、黒野、井藤、田口、中村文（教務）
11	令和2年1月22日 ①メール会議	1. 後期授業アンケート経過報告	FD	大津委員長（議長）、神野、山田、井藤、田口、飯田、中村文（教務）
12	3月	1. FD 報告	FD	全教員

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学研究科 ）
推進組織名（ 大学院薬学研究科 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

1) 大学院薬学研究科 FD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科における教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD 委員会が中心となって FD 活動を推進する。この活動を通じて研究科全教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、所属学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

2) 令和元年度の FD 委員会の活動内容

以下について活動を行っている。

- 教員・学生に対する授業評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 教員・学生に対する特殊研究評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 副指導教員との面談の実施

3) FD の取り組みを推進する具体的な活動実績

I. 授業評価アンケートを活用した今後の授業改善について

令和元年度「特論」科目（講義）に関するアンケートを前期・後期の終了時にそれぞれ実施した（後期は今後の予定）。アンケート結果を担当教員に配布し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた情報としての利用を促した。

II. 特殊研究評価アンケートについて

2月29日（土）・3月7日（土）に実施する特殊研究成果発表会の後に特殊研究評価アンケート調査を予定しており、結果を教員・学生双方にフィードバックする予定である。

III. 副指導教員との面談について

昨年度に引き続き、副指導教員との面談機会を設け、主指導教員とは異なる多様な助言が得られるような環境づくりを推進した。

IV. 特論（大学院講義）の開講時期の変更について

平成29年度まで毎年開講していた全5専修分野の特論を、昨年度から3専修分野と2専修分野に分けて隔年開講とし、取得年次を単年から複数年に変更した。学生からは、各講義に2学年の学生が受講することで学年を越えた交流や学び合いの機会が増え、業務都合による単位取得機会を逸する不安が解消できたとの声を聞いている（特に社会人学生の場合）。一方、教員からは、受講学生数が倍増し講義が活性化したと好評のようである。

2. 今後の課題、方向性

(1) 授業改善へ向けたアンケートの実施

次年度も今年度と同様に大学院講義に対するアンケートを実施する。学生・教員双方からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。また、必要に応じて、大学院講義の在り方について、学部FD委員会と協同し、FDワークショップの実施を検討する。

(2) 「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催も視野に入れ検討したい。

(3) 特論の開講時期を変更したことに対するアンケートの実施

特論の開講時期を隔年としたのち、2年目となる今年度で開講科目が一巡する。そこで、学生及び教員に対してアンケート調査を実施し、不具合などがあれば次年度へ向け、さらなる改良を図っていく。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年 9月5日（木）	令和元年度 前期授業評価アンケートについて	FD・SD	全学生 小田彰史、豊田行康、山田修平、 早川伸樹、栗本英治、村田富保、 水本秀二、湯川和典、根岸隆之、 金田典雄、二改俊章、井藤千裕、 打矢恵一、高谷芳明、今西 進、 小森由美子、神野透人
2	令和元年 9月～10月	副指導教員との面談	FD・SD	全学生 平松正行、井藤千裕、岡本浩一、 金田典雄、北垣伸治、永松 正、 灘井雅行、丹羽敏幸、早川伸樹、 山田修平、脇田康志、加藤美紀、 栗本英治、半谷眞七子、高谷芳明、 根岸隆之
3	令和2年 2月初旬（予定）	令和元年度 後期授業アンケートについて	FD・SD	全学生 柳澤聖、築山郁人、 マーク・リバック
4	令和2年 3月初旬（予定）	令和元年度 特殊研究評価アンケートについて	FD・SD	全学生 【主指導教員】 井藤千裕、大津史子、岡本浩一、 小田彰史、金田典雄、亀井浩行、 神野透人、灘井雅行、丹羽敏幸、 能勢充彦、野田幸裕、原 脩、 湯川和典

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学部 ）
推進組織名（ 都市情報学部 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

学部内推進組織と位置付けられた学部 FD 委員会を中心とした今年度からの新たな取り組みとして、学修成果の可視化を目的とした外部調査として 3 年次学生を対象に「GPS-Academic」の導入を決定し、10月に実施した。GPS-Academic については、学部（教務委員会）にて新入生を対象に学習力調査と併せて実施されており、その調査結果について教授会（9月26日開催）の冒頭にて「教養演習Ⅰ（キャリア形成論）」と「学習力調査」の報告会を実施し、新入生および履修学生の状況と経年変化の報告に加え、今後の展開等の情報が共有された。次年度以降は学年間の比較、学年進行による学修成果の進捗確認を通じて、学生指導に活かしていく予定である。

また、全学年対象の「社会人基礎力診断テスト」は、新入生を対象として都市情報学概論Ⅰの講義内にて「社会人基礎力」について説明のうえ診断テストを実施、2 年次以上の学生は、継続的に自身の社会人基礎力の成長度合いを確認することを目的として、4・5月にゼミナール等にて実施し、学生の修学意欲の向上に役立てている。また、在学生指導の検討を行うにあたり、入学時から卒業時までの推移把握を目的として、2018年度より 4 年次については卒業時（卒業論文提出）に併せて実施している。これら調査結果を集計し、教授会にて学年間・年度別・経年比較による在学生の傾向を報告、情報提供を行っている。

その他、授業改善アンケートについては、専任・非常勤教員を問わず、学部として対象科目を拡大（2 科目以上）して実施、フィードバックされた集計結果より各教員が改善に繋げていく取り組み、各ゼミナールにおいては、卒業論文発表会・中間発表会を実施し、研究の質向上やプレゼンテーション方法の充実に繋げる取り組み、在学生の状況・様子、講義の受講状況の報告に加えて、教員間での講義運営方法等について必要に応じて情報交換を行っている。

2. 今後の課題、方向性

学部内関連委員会との連携の下、学部 FD 委員会を中心とした系統的な取り組みの検討・実施を考えている。具体的には、GPS-Academic・社会人基礎力診断テスト継続実施・報告、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、学生の受講状況等についての情報共有を通して、教育の組織的な改善に繋げていくための取り組みの場としたい。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	平成31年4月8日 (学部FD委員会)	2019年度社会人基礎力診断テスト（1年次）について	FD・SD	学部FD委員 酒井、赤木、亀井
2	平成31年4月11日 (教授会)	2019年度社会人基礎力診断テスト（1年次）について	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、岡林、海道、亀井、小池、雑賀、酒井、島田、杉浦（真）、鈴木、手嶋、西野、昇、福島、森杉、山谷、若林、杉浦（伸）、水野、宮本
3	平成31年4月15日 (学部FD委員会)	2019年度社会人基礎力診断テスト（2～4年次）について	FD・SD	学部FD委員 酒井、赤木、亀井
4	平成31年4月25日 (教授会)	2019年度社会人基礎力診断テストについて	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、岡林、海道、亀井、小池、雑賀、酒井、島田、杉浦（真）、鈴木、手嶋、西野、昇、福島、森杉、山谷、若林、杉浦（伸）、水野、宮本
5	令和元年5月15日 (学部FD委員会)	学修成果可視化の外部調査について FD取組を推進する組織について	FD・SD	学部FD委員 酒井、亀井
6	令和元年5月21日 (学部FD委員会)	令和元年度前期授業改善アンケート実施科目について	FD	学部FD委員 酒井、赤木、亀井
7	令和元年5月23日 (教授会)	学修成果の把握に向けた外部調査の実施について 令和元年度前期授業改善アンケート実施科目について	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、宇野、大野、岡林、海道、亀井、小池、雑賀、酒井、島田、杉浦（真）、鈴木、張、手嶋、西野、昇、福島、森杉、山谷、若林、杉浦（伸）、水野、宮本
8	令和元年6月11日 (学部FD委員会)	2019年度社会人基礎力診断結果（2・3・4年次）について 令和元年度前期授業改善アンケートについて	FD・SD	学部FD委員 酒井、赤木、亀井
9	令和元年6月27日 (教授会)	2019年度社会人基礎力診断結果（2・3・4年次）について	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、岡林、海道、亀井、小池、雑賀、酒井、島田、杉浦（真）、鈴木、張、手嶋、西野、福島、森杉、山谷、若林、杉浦（伸）、水野、宮本
10	令和元年7月4日 (学部FD委員会)	学修成果可視化の外部調査について 2019年度事業計画（内部質保証関連項目）の検討について	FD・SD	学部FD委員会 酒井、赤木、亀井
11	令和元年8月23日 (学部FD委員会)	学修成果の把握に向けた外部調査の実施について	FD・SD	学部FD委員会 酒井、赤木、亀井

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
12	令和元年9月5日 (教授会)	学修成果の把握に向けた外部 調査の実施について	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、岡林、 海道、亀井、小池、酒井、島田、 杉浦（真）、鈴木、張、手嶋、西野、 福島、山谷、若林、杉浦（伸）、 水野、宮本
13	令和元年9月25日 (学部FD委員会)	学修成果の把握に向けた外部 調 査「GPS-Academic」の 実 施状況について	FD・SD	学部FD 委員会 酒井、赤木、亀井
14	令和元年9月26日 (教授会)	新入生学習力調査・キャリア 形成 論 報 告 会（ベネッセi キャリア） 学修成果の把握に向けた外部 調査の実施状況について	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、 岡林、海道、亀井、小池、雑賀、 島田、杉浦（真）、鈴木、張、手嶋、 西野、昇、福島、森杉、山谷、若林、 水野、宮本
15	令和元年10月9日 (学部FD委員会)	GPS-Academic 受検状況につ いて	FD・SD	学部FD 委員会 酒井、赤木、亀井
16	令和元年10月24日 (教授会)	学修成果の把握に向けた外部 調査の実施状況について	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、宇野、大野、岡林、 海道、亀井、小池、雑賀、酒井、 島田、杉浦（真）、鈴木、張、手嶋、 西野、昇、福島、森杉、山谷、若林、 杉浦（伸）、水野
17	令和元年11月14日 (学部FD委員会)	令和元年度後期授業改善アン ケートについて 社会人基礎力診断テスト（4 年・卒業時）について GPS-Academic 実施結果につ いて	FD・SD	学部FD 委員会 酒井、赤木、亀井
18	令和元年11月21日 (教授会)	令和元年度後期授業改善アン ケートについて 社会人基礎力診断テスト（4 年・卒業時）について GPS-Academic 実施結果につ いて	FD・SD	教授会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、 岡林、海道、亀井、小池、雑賀、 島田、杉浦（真）、鈴木、張、手嶋、 西野、福島、森杉、山谷、若林、 杉浦（伸）、水野

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学研究科 ）
推進組織名（ 大学院学務委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

都市情報学研究科においては、大学院生に専門知識や問題解決力の向上とともに、社会人基礎力のスキルアップが必要と考え、大学院学務委員会を中心に検討を行い、平成25年度より教員および大学院生に以下の「社会人基礎力育成プログラム」への参加、修士論文や博士論文の成果向上に反映させる活動を開始した。また、成績評価・論文審査・研究進捗の評価確認をする一方、「指導方法が効果的であったか、適切であったか、改善の余地はないか」等、FD の取り組みとして社会人基礎力診断テストを毎年行っている。令和元年度においても同様な FD に継続的に取り組み、大学院生の研究推進および発表活動の活性化に繋げている。

- 1) 社会人基礎力に必要な「基礎学力」や「専門知識」等の『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」等の『行動能力』を意識させるため、社会人基礎力診断テストを年2回程度行う。
- 2) 大学院入学後、遅くとも半年以内に研究テーマおよび研究計画書を主査教員の指導で作成するとともに、副査を含めた研究に関するディスカッションの機会を学生自ら計画し、実施する。
- 3) 公開講座に大学院生の参加を推奨し、討論や質疑に積極的に参加する。
- 4) 大学祭や公開講座での学部学生や学外参加者に対する研究発表を推奨する。
- 5) 各年度末に行われる研究報告会（中間発表および審査発表）に、すべての大学院生および教員の参加を促し、学生相互で研究報告内容の評価をする。
- 6) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。

また、研究科に対する学生からの意見・要望を聴取し、改善に向けた検討を行っていくため、平成25年度より研究科独自にて大学院生アンケートを導入、設問内容を再検討の上、今年度も継続して実施すること、学位授与方針（DP）に示した大学院における学修成果の可視化の評価方策として、令和元年度修了生より大学院修了時アンケートの導入を決定した他、月1回の学部教務委員会、大学院学務委員会において、学生の受講状況や講義の状況等について継続的な議論を行っている。

2. 今後の課題、方向性

今後も大学院生には、社会人基礎力のスキルアップのための「社会人基礎力育成プログラム」への参加を推奨し、修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。

また、大学院修了時アンケート、および大学院生アンケートの結果から、学生の学修成果、意見・要望等を把握し改善に努めるとともに、学部 FD 委員会との連携の下、組織的な取り組み・改善に繋げていく場としたい。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年5月9日 (大学院学務委員会)	大学院生を対象としたFD活動について	SD	大学院学務委員 亀井、杉浦(真)、昇、福島、森杉
2	令和元年7月4日 (大学院学務委員会)	大学院修了時アンケートについて	FD・SD	研究科長・大学院学務委員 鎌田、亀井、昇、福島、森杉
3	令和元年7月11日 (大学院学務委員会)	第三期認証評価について 研究計画書(M1・D1)について	FD・SD	研究科長・大学院学務委員 鎌田、亀井、杉浦(真)、福島、森杉
4	令和元年7月25日 (研究科委員会)	研究計画書(M1・D1)について 大学院の学修成果の可視化について	FD・SD	大学院都市情報学研究科委員会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、岡林、海道、亀井、小池、雑賀、酒井、島田、杉浦(真)、鈴木、張、手嶋、西野、昇、福島、森杉、山谷、若林、杉浦(伸)、水野、宮本
5	令和元年10月10日 (大学院学務委員会)	2019年度事業計画(内部質保証関連項目)の検討について 学生アンケート質問項目・内容について	FD・SD	大学院学務委員 亀井、杉浦(真)、昇、福島、森杉
6	令和元年12月5日 (大学院学務委員会)	令和元年度修士論文発表会および審査会の日程について 大学院生社会人基礎力診断テストの実施について 大学院生アンケートの実施について	FD・SD	大学院学務委員 亀井、杉浦(真)、昇、福島、森杉
7	令和元年12月19日 (研究科委員会)	令和元年度修士論文発表会および審査会の日程について	FD・SD	大学院都市情報学研究科委員会構成員 鎌田、稲葉、大野、岡林、海道、亀井、酒井、島田、杉浦(真)、鈴木、張、手嶋、西野、昇、福島、山谷、若林、杉浦(伸)、水野
8	令和2年1月14日 (大学院学務委員会)	令和元年度大学院都市情報学研究科修士論文および博士論文の中間発表会日程について 大学院生アンケートについて (継続)	FD・SD	大学院学務委員 亀井、杉浦(真)、昇、福島、森杉
9	令和2年1月23日 (研究科委員会)	令和元年度大学院都市情報学研究科修士論文および博士論文の中間発表会日程について 大学院生アンケートについて	FD・SD	大学院都市情報学研究科委員会構成員 鎌田、赤木、稲葉、宇野、大野、岡林、海道、亀井、小池、雑賀、酒井、島田、杉浦(真)、鈴木、張、手嶋、西野、昇、福島、森杉、山谷、若林、杉浦(伸)

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（人間学部）
推進組織名（人間学部 FD 委員会）

1. 令和元年度の活動報告

人間学部 FD 委員会は、FD 委員長、学務委員長 2 名、FD 委員 3 名、教務事務職員 1 名が中心となり推進している。人間学部の事業計画における FD 委員会担当の計画内容について取り組んでいる。令和元年度は主に以下の FD 活動を行った。

- ・ 人間学部 FD 委員会会議の開催
- ・ 学修成果の可視化に係る外部調査（GPS-Academic）の実施と結果分析
- ・ 第 1 回人間学部・人間学研究科共催 FD フォーラムの開催
- ・ 第 2 回人間学部・人間学研究科共催 FD フォーラム（開催準備を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止し、延期とした。）

学修成果の可視化を目的とした外部調査は、3 年次を対象として、7 月から 10 月にかけて実施した。平成 29 年度、30 年度は「ジェイ・サープ」を用いて 3 年次を対象に行ったが、本年度はより調査項目の多い GPS-Academic を選択した。令和 2 年度も、GPS-Academic を利用する予定であるが、より円滑な実施のための方策について FD 委員会で検討している。

令和元年 7 月 11 日に開催した「第 1 回人間学部・人間学研究科共催 FD フォーラム」では、人間学部 2 年次前期の必修科目である「文献講読 A」について、まず、人間学部新任教員による授業事例報告があり、その後、授業内容、教授法、成績評価、今後の課題について、参加教員による活発な議論があった。

2. 今後の課題、方向性

授業改善アンケート、GPS-Academic を用いて、人間学部の教育内容および教育環境の検証、分析を行い、それをもとに、教育改善に向けた取り組みを検討、実施する予定である。次年度には以下の FD 活動を予定している。

- ・ 人間学部 FD 委員会会議の開催
- ・ FD 情報の共有化のための活動
- ・ 人間学部・人間学研究科共催 FD フォーラムの開催
- ・ 教員の事例報告をもとに授業に関する意見交換会

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年5月16日	学部と研究科との合同で第1回FD委員会 ・学修成果可視化に係る外部調査実施について ・2019年度事業計画について ・2019年度FD活動について	FD・SD	一ノ谷、岡戸、笠井、加茂、宮嶋、谷口、志村（教員） 鈴木、大村（事務職員）
2	令和元年5月23日	第4回人間学部教授会 ・GPS-Academic実施について	FD	一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、笠井、神谷、加茂、西村、船田、宮嶋、和田、ウェストビィ、加藤、櫻井、志村、畑中、ビーチ（教員） 陪席：山田、鈴木（事務職員）
3	令和元年7月11日	2019年度第1回人間学部・人間学研究科共催FDフォーラム テーマ：新任教員を交えた教授法に関する意見交換会	FD	安藤、一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、笠井、神谷、加茂、塩崎、船田、宮嶋、和田、櫻井、志村、ウェストビィ、西村、加藤、ビーチ（教員）山田、大村、大西（事務職員）
4	令和元年10月10日	人間学部第2回FD委員会 ・令和2年度学修成果可視化に係る外部調査実施（予定）について ・2020年度事業計画について	FD・SD	一ノ谷、岡戸、宮嶋、谷口、志村（教員） 大村、大西（事務職員）
5	令和元年10月24日	第12回人間学部教授会 ・令和2年度学修成果可視化に係る外部調査実施予定について	FD	安藤、一ノ谷、伊藤俊一、岡戸、笠井、神谷、加茂、塩崎、谷口、西村、船田、宮嶋、和田、ウェストビィ、加藤、櫻井、志村、畑中、原田、ビーチ（教員） 陪席：山田、大村（事務職員）
6	令和元年11月14日	人間学部第3回FD委員会 ・2020年度事業計画策定 ・FD中間報告書作成について ・令和2年度学修成果可視化に係る外部調査実施予定について	FD・SD	一ノ谷、岡戸、宮嶋（教員） 大村（事務職員）
7	令和元年12月12日	人間学部第4回FD委員会 ・第2回人間学部、人間学研究科共催FDフォーラム開催計画	FD・SD	一ノ谷、岡戸、宮嶋、志村（教員） 大村（事務職員）
8	令和2年2月26日	学部と研究科との合同で第5回FD委員会 ・FDフォーラム（3月2日）の準備	FD・SD	一ノ谷、岡戸、笠井、加茂、宮嶋、志村（教員） 大村、大西（事務職員）
9	令和2年2月26日	人間学部第6回FD委員会 ・オリエンテーション時のGPS-Academicに関する説明について	FD・SD	一ノ谷、岡戸、宮嶋、志村（教員） 大村（事務職員）

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学研究科 ）
推進組織名（ 人間学研究科 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

人間学研究科のFD活動は、研究科主任教授、委員2名（内1名は学部FD委員長を兼務）および研究科担当の教務事務職員1名の4名からなるFD委員会を中心に実施されている。

本年度の活動は、第一に、従来と同様、研究科における授業、研究指導、研究施設等の諸条件に関して、院生を対象にアンケートを実施し、今後の教育・研究の改善点を明らかにすることである。第二に、より魅力的な研究科にするために、学部FD委員会と連携して、教授法について充実を図ることである。

アンケートに関しては、認証評価に向けて、これまでよりも多面的に院生の意見を吸い上げるために質問項目の見直しを進めた。質問内容等を検討し、前期のアンケートでは「学修計画とその成果」について当初の計画等にくらべてたずねる要素を追加した。2年生に対して用紙を配布して実施した。人間学研究科の指導については、概ね満足が得られていた。設備の不備については意見があったので、今後、適宜対応する。個別の事情で、修士論文の取り組みが思うように進んでいない学生が見受けられた。教授法の充実等については、学部と合同でのFD委員会、FDフォーラムを実施した。

また、令和2年3月2日に、「第2回人間学部・人間学研究科共催FDフォーラム」開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止し、延期とした。

2. 今後の課題、方向性

本研究科におけるFD活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続すると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を見直していく。後期のアンケートでは、ディプロマポリシーとして掲げている7項目について問う内容を学修成果の評価として実施する予定である。また、修士論文指導における副指導教員の役割について議論し、副指導教員が修士論文の執筆段階から関わる指導体制を整えることによってより充実した教育体制の構築を進める。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年5月16日	学部と研究科との合同FD委員会 ・学修成果可視化に係る外部調査実施について ・2019年度事業計画について ・2019年度FD活動について	FD・SD	一ノ谷、岡戸、笠井、加茂、宮嶋、谷口、志村、鈴木、大村
2	令和元年6月27日	第3回研究科委員会 ・FD授業アンケートについて（アンケート内容の改善）	FD	神谷、笠井、安藤、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、加茂、塩崎、船田、水尾、宮嶋、櫻井、西村、畑中
3	令和元年7月11日	2019年度第1回人間学部・人間学研究科共催FDフォーラム テーマ：新任教員を交えた教授法に関する意見交換会	FD	一ノ谷、笠井、神谷、宮嶋、安藤、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、加茂、塩崎、船田、和田、櫻井、志村、ウェストビィ、西村、加藤、ビーチ、山田、大村、大西
4	令和元年9月5日	第5回研究科委員会 ・後期人間学研究科アンケートについて	FD	神谷、笠井、一ノ谷、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、加茂、船田、宮嶋、櫻井、畑中
5	令和元年9月26日	第6回研究科委員会 ・FD授業アンケートの結果報告	FD	神谷、笠井、安藤、一ノ谷、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、塩崎、水尾、船田、宮嶋、加茂、櫻井、西村
6	令和元年10月24日	人間学研究科FD委員会 ・FD中間報告書作成について →第8回研究科委員会で報告	FD・SD	笠井、一ノ谷、加茂、大西
7	令和元年11月21日	人間学研究科FD委員会 ・2020年度事業計画策定 →第9回研究科委員会で審議	FD・SD	笠井、一ノ谷、加茂、大西
8	令和2年2月26日	学部と研究科との合同FD委員会 ・FDフォーラム（3月2日）の準備	FD・SD	一ノ谷、岡戸、笠井、加茂、宮嶋、志村、大村、大西

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 外国語学部 ）
推進組織名（ 外国語学部 FD 委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

1 年生と 3 年生を対象とした GPS アカデミック外部調査を実施した。そのテストの結果を分析し、学生の学修成果を可視化した。

②その他学部独自の取組

a. 名城大学外国語学部第 7 回教育シンポジウム

令和元年 7 月 25 日に教育活動発表会を行い、外国語学部の教員 3 名が言語学教育に関する発表を行った。

一般発表の主題：

（1）Podcasts：How did I ever teach without them?（発表者：Mark Rebuck）

（2）Leadership in the classroom and beyond（発表者：Paul Wicking, Brian Gallagher）

b. 英語科目のコーディネーション

英語スキル科目（コミュニケーション、リーディング、ライティング、ディスカッション）を担当する教員が集まり、授業におけるアクティブ・ラーニングの方法を話し合った。さらに、共同してアクティブ・ラーニングを推進する教材や評価方法を作成した。

c. 授業改善アンケート

大学教育開発センター委員会で指定された科目について、授業改善アンケートを行った。

d. 教員相互の授業参観（Peer observation）

令和元年 6 月 3 日～14 日に外国語学部全教員が、自分の担当以外の授業を参観した。その後、参観した人と参観された担当教員は互いに評価し合った上でアドバイスを送り、また、アイデアを交換した。

e. WebClass ワークショップ

このワークショップでは WebClass の機能を紹介した。特に、申請とクラス設定、会議室（チャット）、テスト・アンケート、成績一覧、注意事項の機能について取り扱った。

f. Teacher Handbook の作成

教員の知識や技能を向上できるように Teacher Handbook を作成した。

2. 今後の課題、方向性

次年度に向けた FD 取組推進組織及び FD 活動（SD 活動含む）の課題は下記の通りである。

- 英語スキル科目のコーディネーションを続けること。

- 授業改善アンケートを実施すること。
- 教員相互に教授法に関する意見を交換する機会を作ること。
- 教員の知識や技能を高めるための Teacher Handbook を作成すること。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	平成31年4月18日	FD 委員会 1. Peer Observation Program 実施 2. 第7回 Teaching Symposium 実施	FD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・マッケンディ・堅田)
2	令和元年5月9日	FD 委員会 1. 第7回 Teaching Symposium 実施 2. 今後の課題	FD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・マッケンディ・堅田・呉)
3	令和元年 6月3～14日	授業参観プログラム 本プログラムの目的は、教員が互いの授業を参観することによって、有用な知見や新しい着想を得、各々の授業に反映させることにあります。	FD	クマラ、藤田、村田、堅田、二神、岩井、西尾、津村、富岡、マイネハン、柳沢、藤原、ウィキン、プレーバー、豊田、宮崎、ロジャース、鈴木、マッケンディ、ガラカー、ロス、ホール、ボイズ、児玉
4	令和元年7月25日	FD 委員会 1. 後期の FD 活動	FD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・マッケンディ・堅田)
5	令和元年7月25日	第7回 Teaching Symposium (1) Podcasts: How did I ever teach without them? (発表者: Mark Rebuck) (2) Leadership in the classroom and beyond (発表者: Paul Wicking, Brian Gallagher)	FD	岩井、津村、マイネハン、堅田、ロジャース、ディキンソン、ホール、ボイズ、児玉、ガラカー、ウィキン、藤田、宮崎、柳沢、クマラ、西尾、藤原
6	令和元年10月10日	FD 委員会 1. 教育功労賞候補者推薦 2. 後期の FD 活動 3. 2020 ハンドブックの作成	FD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・マッケンディ・堅田・呉)
7	令和2年1月9日	FD 委員会 1. SD (スタッフ・ディベロップメント) の実施検討 2. WebClass ワークショップ 3. 後期に実施する2つ目の FD 活動	FD	外国語学部 FD 委員会 (ウィキン・岩井・堅田・呉)
8	令和2年1月23日	WebClass ワークショップ	FD	藤田、堅田、二神、岩井、津村、呉、富岡、マイネハン、柳沢、藤原、ウィキン、豊田、鈴木

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 総合学術研究科 ）
推進組織名（ 総合学術研究科教育検討部会 ）

1. 令和元年度の活動報告

《①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善》

総合学術研究科の教育改善のために、入学から卒業までの学生の学びや成長を一貫して把握しながら構成員全体が議論・実践できるようサポートする。

《②その他学部独自の取組》

総合学術研究科の構成員により、以下の活動を推進してきた。

①学生の主体的な学び（アクティブ・ラーニングの推進）に関する取組

・「総合学術特論1, 2」の開講

学際的な探求活動を通じ、受講生が発表と闊達な討論の技能を高めることを目的としてオムニバス形式で開講された。

・「令和元年度 総合コアプログラム」の開催（春季：4月6日、秋季：9月14日）

全教員・全大学院生が参加し、教員、修了生、及び外部講師による研究発表を行うことで、本研究科のミッションである「自然と人間の共生」について幅広い視野で学び、考える機会とした。

②多様な学修経験に関する取組

・「令和元年度 海洋実習」の実施（8月27日）

本研究科大学院生に対して実施された。三河湾において船舶による海洋観測を行った後、愛知県水産試験場にて最新の海洋環境に関連する研究を学んだ。

③その他学部独自の取組

・特になし

2. 今後の課題、方向性

教育改善に向けて構成員全員が議論・実践できるよう、教育検討部会を中心に検討を継続する。より積極的に議論の場を設けることが今後の課題である。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	令和元年5月23日	令和元年度秋季総合コアプログラム における講演テーマと外部講師の検 討	FD・SD	田中、加藤、鈴木、原田、日比野、 平松、内田、景山、神藤 森（委任）、和田（委任）、衣斐（委 任）、志村（委任） 陪席：井上、土橋、山内、東海林
2	令和元年6月19日	名城大学大学院修了時アンケートに ついて（メール審議）	FD	総合学術研究科教育検討部会： 田中、加藤、伊藤、原田、衣斐、 志村、景山 陪席：井上、土橋、山内
3	令和元年6月20日	令和元年度論文指導委員会報告書の 確認	FD	田中、加藤、原田、日比野、平松、 森、和田、衣斐、内田、景山、志村、 神藤 鈴木（委任） 陪席：井上、土橋、山内
4	令和元年8月3日	名城大学大学院修了時アンケートの 確認	FD	田中、加藤、鈴木、原田、日比野、 平松、森、和田、衣斐、内田、景山、 志村、神藤 陪席：井上、土橋、山内
5	令和元年11月14日	2020年度総合学術研究科事業計画 （部署版）の作成について	SD	田中、加藤、原田、日比野、森、 衣斐、景山、神藤 鈴木（委任）、平松（委任）、和田（委 任）、内田（委任）、志村（委任） 陪席：井上、土橋、山内
6	令和元年11月28日	2020年度総合学術研究科事業計画 （部署版）の作成について	SD	田中、加藤、鈴木、原田、日比野、 平松、森、和田、衣斐、内田、景山、 志村、神藤 陪席：井上、土橋、山内
7	令和元年12月26日	総合学術特論Ⅱの内容及び運営につ いて	FD	田中、加藤、鈴木、原田、平松、森、 和田、衣斐、内田、景山、志村、 神藤 日比野（委任） 陪席：伊藤教授、井上、土橋、 山内

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 教職センター ）
推進組織名（ 教職センターFD 推進委員会 ）

1. 令和元年度の活動報告

今年度の活動方針は次のとおりである。

本大学の教員養成理念は『謙虚で豊かな包容力と力強い実行力を持ち、誰からも信頼される教員』を養成することにある。この教員養成理念に基づき、教職センター専任教員が担当する教職に関する科目の授業内容・方法の改善を行う。

この方針のもと、活動目標は次のとおりである。

教員志望学生の実践的指導力の向上及び教員採用試験合格者の確保を目標に、教職に関する科目の授業改善に向けた活動を企画し、運営する。

活動内容のうち「独自の取り組み」は次の二つである。

- (1) 教職センターFD 活動
- (2) 研究内容や教育内容の発表・交流

なお、教職センターでは「学生の学習成果を可視化する」マクロな指標として、教員採用試験の現役合格者数を採用している。

実績に関わることは以下の5点である。

- (1) 現役学生の合格者数は18名（うち私立学校合格者0名）である（2020年1月28日現在）。
- (2) 教職センターでは、これまで教務委員会や教職センター会議内でカリキュラムの改定やシラバスの見直し等の授業改善に関わること（マクロレベルFD）を検討してきた。これに加えて、平成28年度からは教職センターFD活動と称し、個々の授業の改善についての方策（ミクロレベルFD）を教職センター会議後に行うこととした。
教職センターFD活動では、一回につき一人の教職センター専任教員が、各自の授業実践や教職課程に関する今後の動向等についての報告を行い、その報告をもとに意見交換を行っている。学習指導要領が改訂され、新学習指導要領実施へと向かっている現在、その動向を知ることによって、自身が担当する授業の今後の在り方のみならず、教職課程全体に関わる在り方を考え合う場となっている。
- (3) 昨年度から、教職センター会議前の1時間を利用して、FD活動を行うこととなった。開催時間もほぼ倍（40～50分）となった。これにより、より詳細な情報提供及び議論が行われている。
- (4) 研究内容や教育内容の発表・交流活動として、教職センターFD推進委員会では、教職センター懇談会による教職課程授業担当者（兼任教員、非常勤講師、教員採用試験勉強会担

当講師等）への発信、交流及び情報交換、『教職センター紀要』の公刊による研究成果のまとめと発表、『教職センター年報』の公刊によるFD活動のまとめと公表を挙げている。

- (5) また、学内だけのFD活動に留まらず、学外のFDに関する学会や研修会にも積極的に参加し、その知見を教職センターで共有し、センター教員の授業力の向上に努める。

2. 今後の課題、方向性

- (1) 教職課程科目における適切なアクティブ・ラーニングの導入

普段の授業から、受講者の学習意欲を向上させ、教員を志望する学生の主体的な学びを促進することが望まれている。ただし、アクティブ・ラーニングを導入するにあたり、既存の授業よりも学習効果が上がる場合にのみ導入するべきであり、形式的に導入すれば良いわけではない。学生の主体的、対話的で深い学びを促進するような授業展開・授業形態となるよう工夫すべきである。

- (2) 「学生の学習成果を可視化する取り組み」について

これまで、教職センターでは「学生の学習成果を可視化する」マクロな指標として、教員採用試験の現役合格者数を採用してきた。ここ数年、教員採用試験の採用者数が年度によらずほぼ一定であったためである。しかし、教員採用試験の採用者数は退職教員数と関係しており、今後は年度により、大きく変動する可能性がある。

このため、新たなマクロな指標が必要である。また、科目ごと、あるいは、年度ごとの受講生の実力の伸びを見ることができミクロな指標を導入することも必要である。例えば、ある科目で授業内容・方法の改善を行ったとして、その科目を受講している学生達の成績が前年度と比べて伸びたかどうか、あるいは、ある科目を履修したとして、その学生達の教員としての資質・能力が伸長したかどうか、これらを定量的に評価することが必要である。

教職センターでは、平成28年度入学生から、学習ポートフォリオ「教職課程履修カルテ」を始めた。これは、教職課程履修生に修得科目の確認を行わせるとともに、個々の教職に関する科目に対する振り返りを行わせている。また、学年ごとに教員としての資質の自己評価を行わせている。これらの情報を用いることにより、学生の学習成果を可視化する新たな指標を開発できる可能性がある。

3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和元年6月25日	令和元年度FD活動について	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
2	令和元年7月30日	第1回FD活動（嶋口准教授）	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
3	令和元年9月24日	第2回FD活動（谷口准教授）	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
4	令和元年10月8日	紀要執筆依頼確認	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
5	令和元年10月29日	第3回FD、SD活動（木村准教授）	FD・SD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
6	令和元年10月30日	大学教育開発センター主催 FDフォーラム	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
7	令和元年11月26日	第4回FD活動（竹内教授）	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
8	令和元年11月30日	教職センター懇談会	FD	教職センター教員、教職課程授業 担当非常勤講師、勉強会講師、事 務職員
9	令和元年12月24日	第5回FD活動（片山教授）	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
10	令和2年1月14日	第6回FD活動（平山准教授）	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
11	令和2年1月28日	第7回FD活動（井中教授）	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口
12	令和2年2月19日	第8回FD活動（曾山教授）	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、 木村、谷口、嶋口

6. トピックス

第21回 FD フォーラム実施報告

令和元年10月30日（水）、天白キャンパス共通講義棟東 H304教室において、第21回 FD フォーラム「学生の成長につながる教育の質保証について考えるー第三期認証評価を踏まえてー」を開催しました。

第1部では、国際教養大学学長の鈴木 典比古 氏を迎え、「認証評価の第3サイクルの概要と大学に求められること」をテーマに基調講演が行われました。AI時代以後、大学を取り巻く環境や学生に求められる能力が変化している中で、「大学に何ができるのか」、「大学教養で何を学ぶのか」という点について、リテラシー能力の補完と高度化を中心とした教養教育の課題についての講演がありました。

第2部では、事例報告①「内部質保証の実質化に向けてー清泉女子大学の試みー」（25分）高野 禎子 氏（清泉女子大学 副学長）竹井 菜奈子 氏（清泉女子大学 理事長室兼総務課）、事例報告②「玉川大学における教育改革」（25分）稲葉 興己 氏（学校法人 玉川学園 理事（高等教育担当））及び、質疑応答が行われました。



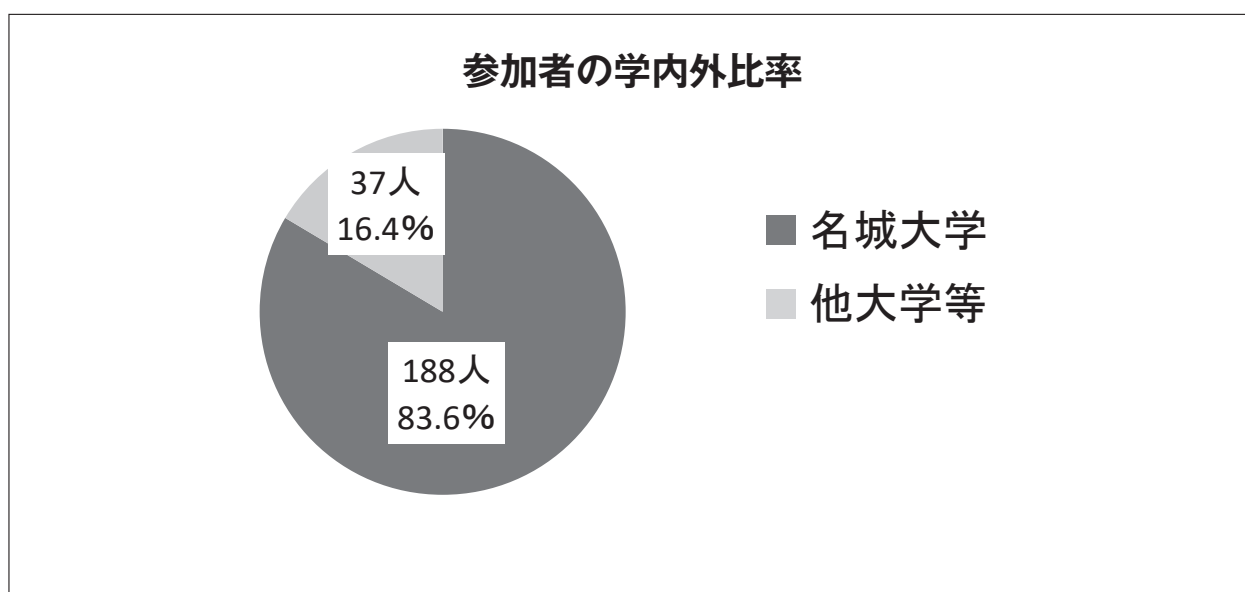
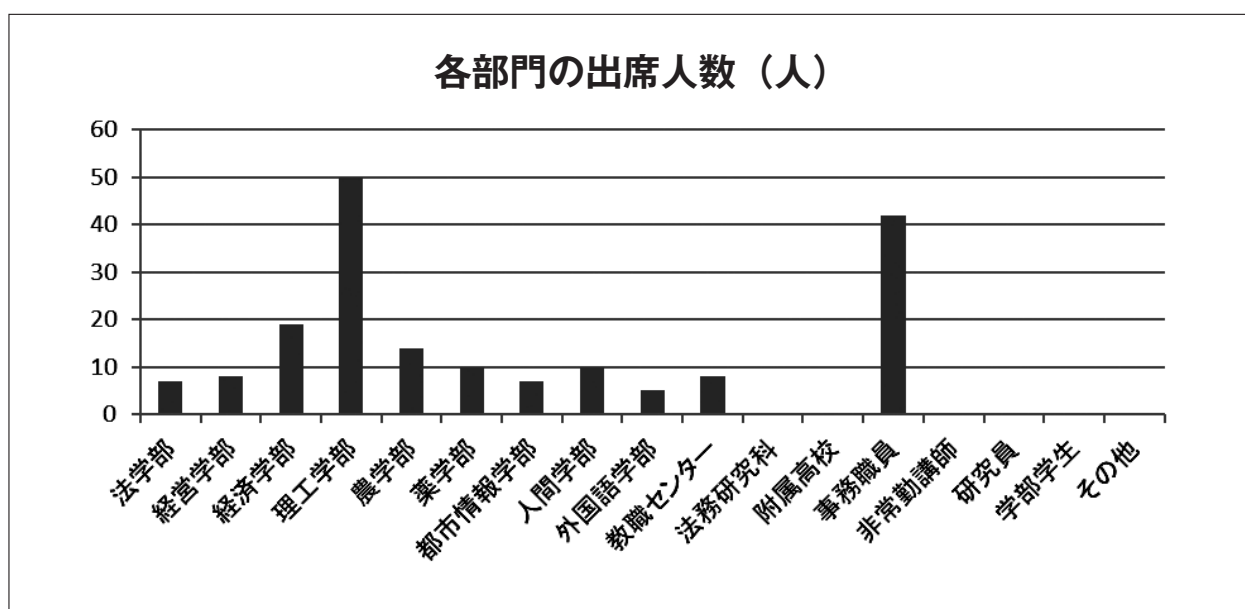
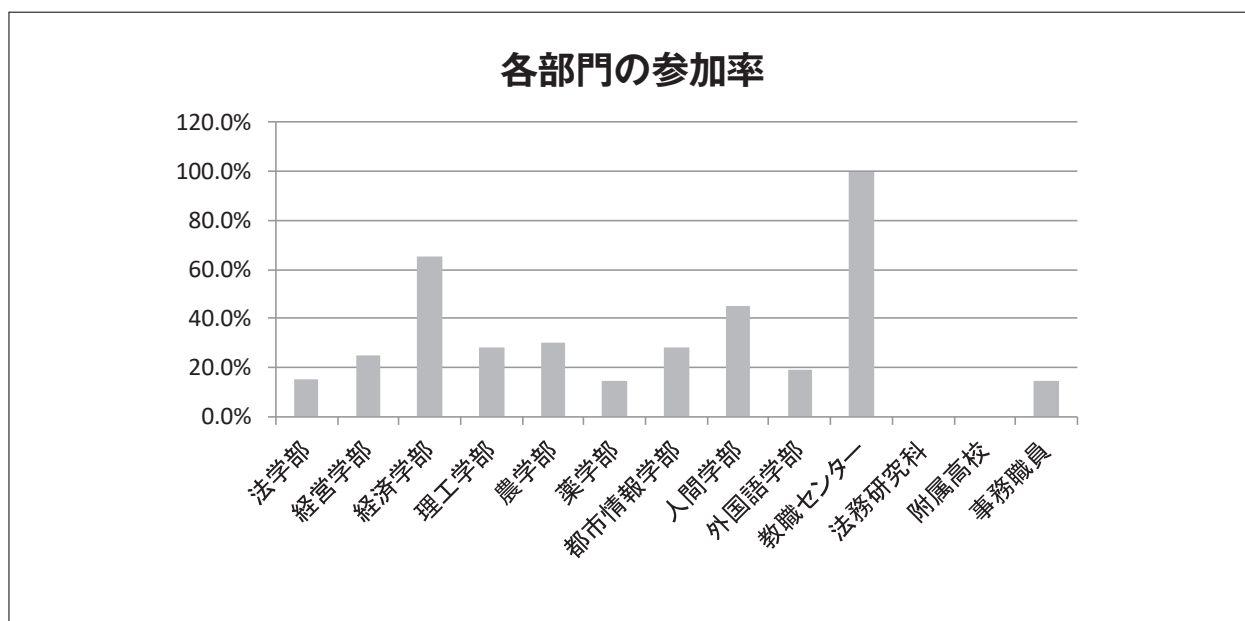
参加者アンケート集計結果

1. 参加者のデータ

① 参加者の属性（表）

所属等		令和元年度			平成30年度		
		出席者 (人)	在籍者 (人)	参加率 (%)	出席者 (人)	在籍者 (人)	参加率 (%)
名城大学	学長・副学長	4	5	80%	3	5	60.0
	法 学 部	7	45	15.6%	4	40	10.0
	経 営 学 部	8	32	25.0%	8	30	26.7
	経 済 学 部	20	29	69.0%	9	27	33.3
	理 工 学 部	51	178	28.7%	30	176	17.0
	農 学 部	14	46	30.4%	8	46	17.4
	薬 学 部	11	69	15.9%	8	69	11.6
	都市情報学部	7	27	25.9%	4	26	15.4
	人 間 学 部	10	22	45.5%	8	21	38.1
	外国語学部	5	26	19.2%	4	25	16.0
	教職センター	8	8	100.0%	3	8	37.5
	総合学術研究科	—	—	—	0	14	0.0
	法 務 研 究 科	0	7	0.0%	1	14	7.1
	事 務 職 員	43	292	14.7%	35	293	11.9
	非 常 勤 講 師	0	—	—	3	—	—
	学 部 学 生	0	—	—	0	—	—
	そ の 他	0	—	—	6	—	—
他大学等	教 育 職 員	9	—	—	7	—	—
	事 務 職 員	21	—	—	9	—	—
	そ の 他	7	—	—	3	—	—
計		225 (学内:188名)	786	24.0%	153 (学内:134名)	794	16.9%

② 参加者の属性（グラフ）



2. アンケートデータ

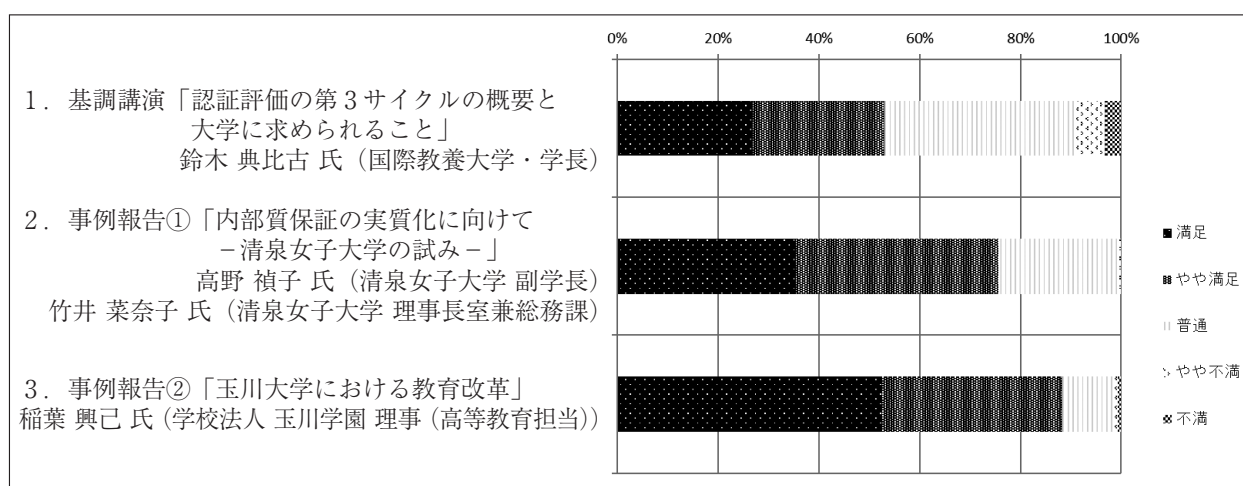
① アンケート回答者の属性（表）

所属等		回答者数（人）
名城大学	専任教員	119
	非常勤講師	0
	職員	35
	大学院生	0
	学部学生	0
	その他	0
他大学	教員	11
	職員	13
高等学校	教員	0
	職員	0
その他		7
未回答等		2
計		187

② 各プログラムの満足度（表）

プログラム名	各項目の回答者数（人）							
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	計	平均	無回答
1. 基調講演「認証評価の第3サイクルの概要と大学に求められること」 鈴木 典比古 氏（国際教養大学・学長）	48	48	68	11	6	181	3.7	6
2. 事例報告①「内部質保証の実質化に向けて－清泉女子大学の試み－」 高野 禎子 氏（清泉女子大学 副学長） 竹井 菜奈子 氏（清泉女子大学 理事長室兼総務課）	55	63	37	1	0	156	4.1	31
2. 事例報告②「玉川大学における教育改革」 稲葉 興己 氏（学校法人 玉川学園 理事（高等教育担当））	81	55	16	1	1	154	4.4	33

③ 各プログラムの満足度（グラフ）



3. 今回のフォーラムの中で、一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて（自由記述・抜粋）

- ・ 大学評価の理念は理解できた。ただし、現状行われている審査は、多岐にわたり微細な事柄に及ぶため、「教育の質向上」とは、かけはなれた次元で行われていることが改めて確認できた。単位修得で芳しくない学生の切り捨て等由々しき事態であると強く感じた。
- ・ 出口に伺った学生ポートフォリオの必要性。
- ・ 責任を持って、質保証の実質化を推進する体制の構築。教員と職員の協力関係の構築。
- ・ 認証評価に臨むにあたってはテーマが必要と考える。今期は「内部質保証」の実際をポイントとしており、日常の状況の確認ではないことを学んだ。なお、以前は改善結果ではなく、改善に向けた営みを評価することになっていたが、今後は成果だけを取り上げるのか、疑問に残った。
- ・ 職員の役割も重要であるという点です。（清泉女子）
- ・ 教育改革への取り組みについて、大変分かりやすかったです。（玉川）
- ・ 質疑応答のリアルな意見交換が参考になりました。大学様の問題解決につながるサービスを提供していくように努力して参ります。今後もよろしくお願い致します。
- ・ 教職員が一体となってPDCA サイクルを回していくということ。
- ・ 大学の内部質保証。
- ・ 学科専門科目の開設単位に上限を設けること。教員の担当コマ数の上限。学生を丁寧に指導するには、カリキュラムをスリム化し、教員の空きコマをしっかりと確保することが不可欠と思います。今は、学生も教員も余裕がなさすぎるように感じています。
- ・ 例えばシラバスで「フィードバックを書く」事の必要性をよく説明して頂きました。次は基準協会は「ここを見ます」と言って下さってるんですね。大学全体で同じ方向性で効率良く取組めば良いと思いました。
- ・ 前回、認証評価報告書の作成にかかわり、第3期と学部報告書の作成にかかわることになっているので、前回と今回とのちがいがあのかについて関心があった。それについて詳しく学ぶことができた。特に、大学の主体性、あるいは、教育の質保証のための大学によるガバナンスとマネジメントが評価の柱となることが、理解できた。こうした認証評価のシステムの中で、学部の認証評価、さらには教員の自己評価のあり方はどのようにすれば良いのか、考えていかなければならない。このことを考えさせられた。
- ・ 第三期認証評価の概要について理解できた。（細かい点については、まだまだよくわからない点がありますが）
- ・ 教員と職員の連携が重要。本大学で弱いところ。
- ・ 教職協働が重要ですね。
- ・ PDCA サイクルにより改善の必要性がわかった。そのためにもエビデンスが必要と思った。
- ・ 清泉女子大学の小規模だからこそでできる改革の実行スピード、玉川大学の“暴挙”にも見える改革のダイナミックさ、ここに非常に驚くとともに、本学でも何か取り入れることはできないか、模索していきたい。

- ・事例報告、PDCA 証明、改善指示系統→決定者を明らかに。
- ・玉川大学のカリキュラムの見直し、方針、理念は非常に参考になった。また夏期、冬期休暇中の再履修制度にも考えさせられるものがあった。
- ・認証評価を正しく理解すること、日々の業務とのつながりを常に意識できると良いこと。
- ・本学において、各学部・研究科レベルの PDCA を適切に運営できる（企画・立案できる）事務職員を、どれだけ配置できるかが、多層的な内部質保証システム構築のポイントではないかと感じた。
- ・全学的な（全学を統括する）組織の設置とその機能・権限を議事録に残すこと。
- ・職員目線の話は全て面白かったです。
- ・認証評価への考え方がより明確になった一方でやるべきことの多さも目の当たりになった。
- ・具体例をあげ分かりやすかった。GPA のあたり。
- ・各校はそれぞれ苦労しているが、果たして基準協会や文科省はどれだけ自分達の内部質保証ができているのか疑問だ。
- ・学生目線の FD が大切であるということ。
- ・玉川大学における GPA の利用が履修の取りやめの制度とセットになっているところに、制度を研究・理解された上での導入であることを感じた。しかし、補助金の評価ポイントにされたことで、体系的な理解を欠く導入が増えることを危惧する。
- ・教員、職員の連携。関係者のコミュニケーション、意識の共有。エビデンス、議事録作成。
- ・玉川大学の事例。実際の対応など。
- ・認証評価受審に際しての注意点、課題などが、公表していただい、本学の受審に向けた作業の参考になったと思われる。新たな課題について受審関係に取り組みを開始しても間に合わないのではないか、気になりました。大学が、認証評価機関に「適合」の評価を得るために制度改革を行わなければならないことには疑問が広がった。GPA で退学勧告するための教員の評価に統一が行われたかどうか気になった。
- ・今回の認証評価の重点を早めに知ることができたのは良かった。
- ・とくに実地調査の実態は大変参考になった。ここまで話してもらって良かったのか？
- ・事例報告が、短い時間ながらも、具体的でよかった。本学のことを考える参考になった。
- ・玉川大学の受審の実際についての報告が参考になった。
- ・大学の質保証の仕組みと課題。
- ・基調講演で認証評価の背景が包括的にわかって良かった。また、事例報告②で教育改革の具体例がわかって良かった。
- ・大変貴重な事例報告を聞くことができた。
- ・学修成果の可視化の方法。内部質保証における事務の重要性。単位数のスリム化。
- ・教員と職員の連携が重要だと感じた。教育の質保証のやり方自体は色々なやり方がある。必ずしも答えは一つではない。
- ・多様化した学生に対応せねばならないというのはその通り（鈴木先生）で同じ教室にいる学生でも実に多様で、その一人一人への対応はそれぞれに異なっている。我々はその多様な対

応をするために努力をせねばならないが、一方で認証評価は、教育の仕方を画一化する方向に、我々に義務を課してくるので、教員は本来の多様な学生への対応にエネルギーを注げなくなっている。これをどう解決したら良いのか分からない。玉川の退学勧告制度は教育機関として無責任と思う。

- ・鈴木先生のグローバル化への対応といった最前線のお話を伺うことができてよかったと思います。一方、評価制度への対応に追われ、学生と向き合う時間がかえって足りなくなっているという現状を訴えておられた先生のご意見同様に認証評価の準備を進めている者として共感しました。
- ・教職員の意識改革、連携強化。改善の可視化。
- ・今回の認証評価では、大学の「研究力」がまったく評価の対象になっていないようですが、今後対象になってくることはあるのでしょうか。高等教育と研究の不可分性が現在の認証評価で抜け落ちているように見えるのが気になります。
- ・認証評価を獲得する事が目的化しない様、学修成果を把握、学生、教員へのフィードバック、教育改善にどの様につなげていくかが改めて課題かと感じました。
- ・内部質保証するための大学としての特徴に促した計画は大変難しいと感じた。
- ・半期 CAP 数、カリキュラム開講科目数等、細かい部分についても、全学部ルールを統一している。
- ・玉川大学 アクティブラーニングの実施状況、学生ポートフォリオの活用、学修成果→本学では紙ベースのアンケート、各学部の取り組みに任せる状態となっているが、大学として必須科目となりつつあるので、手作業や各学部バラバラな対応とするのではなく、様々な機能を持ったシステムを導入するなど IT を活用する形に持っていけないと現場（教員）の負担は増える一方である。大学として取り組んでいるという PR をすべき。
- ・認証評価における重点（評価点）の変化、評価に向けた準備。
- ・具体例があったこと。玉川大学での取組みについて、教員の授業数の上限。GPA により退学処分。
- ・教職協働で取組む必要のある「内部質保証システム」を達成するための組織構築が重要と思います。
- ・清泉女子大学さんの発表の中で、「教員と職員が協力し合う大学運営」の必要性、重要性は同感であった。認証評価は、全体的に厳しいという感触。
- ・玉川大学における教育改革の話聞いて、やはり学生は授業外ではほとんど自分で学修しない事が判りました。アクティブラーニング等をうまく活用して授業時間内で学修してもらえないかと思いました。
- ・内部質保証のあり方も多様であり、方向を間違えると教育に沿わないシステムにもなりかねない。個々の教育効果を集めた上でそれぞれを推進できるようなシステムはできないものか、考えさせられる機会となりました。
- ・丁寧な議論。既存組織の有効活性。
- ・今回報告いただいた大学について実際に実施した改善のプロセスに大変関心を持ちました。

- ・大学教育で最も重要な教育は何か？
- ・認証評価受審に向けて事例報告での苦労した点、留意点等大変参考になりました。
- ・内部質保証委員会の役割の重要性。単位の実質化をどう確保するか。
- ・認証評価受審に向けての、各大学の取り組み、ご苦労などを拝聴でき、とても参考となりました。
- ・質保証の具体的な取り組み。
- ・全学における一体感を持って運営することとあくまでも学修の成果を向上させるということが基本であること。
- ・玉川大学の退学処分の基準は厳しすぎるように思われる。
- ・清泉女子大学さんのお話で非常に具体的な流れがわかり大変ありがたかった。
- ・報告書提出後も改善をし続けなければならないこと。
多様化した学生の能力向上に関しては、授業時間の制約も考慮しつつ、毎回の難点である。鈴木先生の全般に亙る認証評価の説明をお聞きし、とにもかくにも日々邁進努力あるのみ。学生第一の視点を常に大切にしたいと再確認できた。
- ・評価基準の変更について、特に内部質保証の重視について理解できたような気がするけど、一方で、自分では説明できないので、まだよくわかりません。
- ・大学は自分の大学のために責任を持って教育を遂行および改善していく必要がある。
- ・初年度なので、2年目以降に受審する大学の報告を聞きたい。
- ・内部質保証委員会（但し、小規模単位：学科単位レベル（教育カリキュラム検討。教学・構成検討。（教育研究活動含む）学生の学修能力向上への取組検討 etc.））設置による検討の必要性。⇒各会を統括する組織へ。
- ・教職協働で認証評価をすすめること。
- ・FDの方向性、そのねらいといったものが少しイメージするのに役立った。
- ・認証評価に対する具体的かつ生々しい具体例を聞くことができて貴重な機会だった。
- ・評価のための業務とならない工夫。自主性、自由度の考え方。
- ・清泉女子大学の試みについて、本学とかなりタイプがちがう大学だからこそ、学ぶ部分が多いと感じた。特に、内部質保証委員会については、ミニマムに特色を生かす形で行われていると感じ、教職一体となることの重要性を感じた。
- ・GPAを活用した退学勧告（玉川大学の事例）は、再入学制度を取り入れてはいるものの、学生に対してどこまで手厚く教育・サポートしていくかが各大学毎で違うので基準の設定が非常に難しいのではないかと感じた。
- ・大学基準の変更点。
- ・結局は、教学マネジメントの仕組みと責任者、各大学のガバナンスのあり方をどうするかによろと感じた。
- ・基調講演は、認証評価の概要について大変わかりやすく、ポイントを整理するのに役立ちました。
- ・認証評価において、学修成果ないし、学修評価の比重が確実に高まってきていると思いました。

- ・高野先生：小さいということ、建学の理念などをいかして、現状をふまえてどうやるかを推進されたこと。
- ・受審年度に提出する報告書の記載内容と実施調査までの改善事例又は姿勢との整合性
報告書・・・全学的見知からの goodpractice の記載→エビデンス揭示（頁数が限られる中）
文章以外の形でどこまで内部質保証（基準 2 ～ 4）に関する取り組みを可視化する事ができるか。←実施調査でどこまで言及するか。実施調査を見据えた報告書の作成が必要。（半年間の取り組み）
- ・第 3 期認証評価において大学基準における適合の判断における保留制度が2020年より廃止になったことに関してより厳格になったという感想をもった。そして、これに対して適正な認知をしていかなければいけないことが重要だと感じた。
- ・一番関心を持ったポイントは、玉川大学の事例の中で卒業には GPA が一定の基準値が必要であり学生の中には GPA を下げないため履修取消しを行える制度があるということです。
- ・エビデンス（議事録作成）の大切さ。
- ・面談における具体的質問内容とそれに対する対応。
- ・清泉女子大学の事例報告の中で、事務職員の方の貢献が大変大きいことが感じられた。名城大学で JABEE を受審した際、事務職員の方に大変お世話になり感謝しているものの、サポートという位置づけで中心になっている訳ではなかった。
- ・基調講演後の質問で、本学の経済学部が先生が質問されていた点です。結局その質問内容がすべてだと思います。
- ・教員と職員とも役割の分担と、大学としての姿勢が重要であること。
- ・評価のために教員の負担が増えることがないようにして頂きたい。
- ・基調講演のみ参加しました。
- ・内部質保証のシステム構築について、多様な方法を検討しなければならないと思う。
- ・内部質保証の重視。
- ・「教育の質保証」の責任は大学にある。
- ・「出口」管理を通じた質保証→そのためには留年率が上昇することもやむを得ないののではないかと、文科省はそれを認めてくれないのはなぜですか？
- ・渋谷先生の質問に共感しました。
- ・玉川大学さんのお話にあった「授業開設単位数の見直し」と「教員担当コマ数の上限設定」は教育の中身を濃くしていく上で是非ともやらねばならない事と感じます。

4. 学部の教育改善の取組をお聞きになって、所属学部等の教育改善を進める上でヒントになったことなどがあればお聞かせください。（自由記述・抜粋）

- ・たとえばポータルサイト上にポートフォリオを作成し、さまざまな情報を「自己」管理させると良いかもしれない。
- ・推進する委員会、教員、職員の意識のすり合わせが必要。
- ・清泉女子大学の意識調査。玉川大学の警告制度。

- ・教育の質保証をすすめる上で、学生へのフォローも重要視されていることから教育の立場としては、研究よりも教育、指導が優先であることが理解できた。
- ・学部の先生方が直接こういう話を聞けることが、先ず、大切であると思います。
- ・GPA スコアの使い方。(本学運営の中での生かし方)
- ・GPA による退学警告制度。(学生には危機感をもって日頃学習してほしいため)
- ・玉川大学のような成績の厳しさもある程度必要だと感じた。具体的な実践。
- ・立学の精神に立ったFD(内部質保証)という清泉女子大学の取り組み。名城大学の場合は、立学の精神のみならず、大学紛争の歴史に学ぶというのが重要な要素であり、教学の風通し、全学的な合意形成が欠かせないように考える。
- ・「念頭に置くだけでもずいぶん違う」という言葉。
- ・事例報告②の具体例(解説単位の上限設定や担当コマ数上限の設定)が参考になった。
- ・玉川大学の質保証は極めて具体的なスキル(学士力のこと)を対象にしている。その点で見習うべきだと感じたが、学生の勉強(予習・復習)時間がむしろ減ってしまったという結果は、質保証のむずかしさを示している。性善説の立場だけで改革を進めるのは危険だと感じた。
- ・玉川大学のCAP 制度は大変大胆な取り組みで、興味深く拝聴しました。
- ・既存のものを有効活用。無理をしない。学生との対話を重視、意識改革を教員、学生共に。
- ・取組は行動だけでなく常に考えることが重要。
- ・学修成果の可視化、学生へのフィードバック。
- ・教員・職員の相互理解。
- ・教育改善は学生を支援し成長させるために行う。(そうであれば学生に負担になるようなことは避けなければならない)
- ・履修システム(途中取消、集中講義等)一年分の履修登録をまとめてやるのはムリが多い。
- ・学修成果の可視化について。
- ・GPA の扱い方。
- ・認証評価等の実施は、やはり大学の画一化の影響が見られる。
- ・ラーニング・コモンズの活用に関して玉川大学のように「学修支援専従の教職員」が配置されていることは、学生にとって学びの補強等で有効であろうと思う。名城大学における「グローバル・プラザ」は、そのような機能を果たしているのかどうか。各学部のコモンズの設置は、今後の課題といえよう。
- ・退学処分の判断をしてしまう事は安易な改善策だと思う。ネットで見ると「資格をとったので、やっと退学できた」と喜んでいるメッセージもある。予備校化していそうです。
- ・「全学的観点」による自己点検・評価を取り入れる。不完全な項目は赤字で示し、全職員に目視により認識させる。
- ・教員構成に関わる内部 check 組織を構成しなければならないかも。
- ・論文を書かない(書けない)教員に対する対応。
- ・研究力の向上も学生の学修意識向上にかかわる←けっこう重要(学生は研究内容をよく見ている)

- ・開設科目数。退学勧告⇒GPAによる退学。
- ・「自ら掲げる理念・目的を実現するために」という前提は、当然のことと思いますが、実態としては教育内実が理念・目的を必ずしも踏まえていないのが深刻な課題に思いました。
- ・大学教育の質保証の第一義的責任は大学自身にあるということで、内部質保証システムの構築とその機能性の向上に主体的に取り組まなければならないと痛感した。
- ・鈴木先生の講演で、授業補助者（学生職員、院生）を活用して小人数教育を推進することが良いとされていましたが、現行制度では授業中全時間参画して学生指導に参画できるのはごく一部の実習型授業に限られており、講義科目も自由化して学生職員によるグループディスカッションを認める（1授業に複数の学生職員）ことはできないか。そのための予算措置はかなり必要ですが。
- ・取り組むための環境整備（ソフト、ハード共に）が重要であること。
- ・ヒントではないのですが、2022年度？と思われる外部評価と、自分の学部のカリキュラム改正をどういうタイミングで行うべきなのかとの素朴な疑問が浮かぶとともに、公式には何ら議論が出てこない（教員の飲み会でしか話題にならない）カリキュラム改正をどうしたら良いのかと心配になってきました。

5. FD フォーラムやその他の企画で扱ってほしいテーマや企画内容等について、ご意見・ご要望がございましたら下記にご記入ください。（自由記述・抜粋）

- ・今後とも、今回と同主旨のフォーラムは大いに必要だと感じた。
- ・学生ポートフォリオ。
- ・毎年 up to Date なテーマで大変参考になります。ありがとうございます。
- ・学生のモチベーションを上げるためのとりくみ。
- ・GPA 政策やそれ以外の形での学修指導退学防止 / 勧奨。
- ・継続して、内部質保証テーマ。大規模校のケースで！
- ・大学点検・評価の実践例。うまくいった事例報告。うまくいかなかった事例報告。
- ・今回のテーマは大変興味深く、ぜひ類似の事例紹介をもう一度企画してもらいたい。
- ・このようなすばらしいフォーラムを企画され、学外の者にも、参加の機会を与えて下さったことに深く感謝申し上げます。
- ・大規模大学の事例も伺いたい。
- ・教育のテクニク。
- ・授業改善（初期の頃は多くの取り組みがありましたが、原点にもどって）
- ・名城大学の取り組み成功例、今回よりもっと具体的な例があればより理解しやすい。
- ・内部質保証と IR。
- ・本学の第三期認証評価に関する取り組みについて。
- ・リベラルアーツ教育の効果。（日本人の非国際性は語学の貧弱以外に世界の歴史、哲学等国际人が身につけるべきリベラルアーツが理工系で特に軽視されている点にも表れている）
- ・ドーム前キャンパスでもこの講演会を聴けるように、工夫してほしい。（会議システムの活

用等で)入試動向講演会は、天白でもドーム前でも聴くことができるようになっている。

- ・“質保証”の“質”を“量”で測定するような評価は、いつも無理があると感じます。“質”を“質”のままで測定し評価に活している他大学等の事例を示してほしいと思います。そのような企画があればと思います。“量”でエビデンスを示すのではなく、“質”のままでエビデンスを示すような提供です。

第21回FDフォーラムアンケート 令和元年10月30日(水)

本日は第21回FDフォーラムにご参加いただきありがとうございました。
今後のフォーラムの企画をはじめ、FD活動の取り組みにおいて参考になるご意見をいただきたいと思いますので、本アンケートにご回答くださいますようご協力をお願いいたします。いただきましたアンケートのご意見は、今後の取り組みの参考にさせていただきます。ご記入後は入口にて回収箱を用意していますので、退出の際にお入れください。

1. あなたについてお聞かせください。(該当するものに○をつけてください)

【名城大学】 1.専任教員 2.非常勤講師 3.職員 4.大学院生 5.学部学生 6.その他 ()
【他 大 学】 7.教員 8.職員
【高等学校】 9.教員 10.職員
【そ の 他】 11.その他 ()

2. 本日の企画内容についてお聞かせください。

プログラム名	該当するものに○を付けてください。				
1. 基調講演 「認証評価の第3サイクルの概要と大学に求められること」 鈴木 典比古 氏(国際教養大学・学長)	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
2. 事例報告① 「内部質保証の実質化に向けて-清泉女子大学の試み-」 高野 禎子 氏(清泉女子大学 副学長) 竹井 菜奈子 氏(清泉女子大学 理事長室兼総務課)	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
3. 事例報告② 「玉川大学における教育改革」 稲葉 興己 氏(学校法人 玉川学園 理事(高等教育担当))	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満

3. 今回のフォーラムの中で、一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて、具体的にお聞かせください。

4. 学部の教育改善の取組をお聞きになって、所属学部等の教育改善を進める上でヒントになったことなどがあればお聞かせください。



5. FDフォーラムやその他の企画で扱ってほしいテーマや企画内容等について、ご意見・ご要望がございましたら下記にご記入ください。



ご協力ありがとうございました。

名城大学 大学教育開発センター委員会

当日配布資料

1

名城大学 第21回FDフォーラム
学生の成長につながる教育の質保証
—第三期認証評価を踏まえて—

認証評価の第3サイクルの概要と 大学に求められること

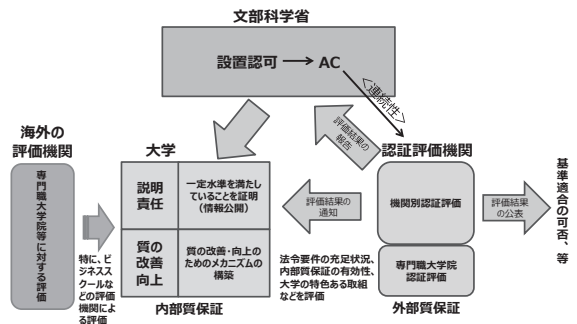
公立大学法人国際教養大学
理事長・学長 鈴木 典比古

2019年10月30日

1

2

大学の質保証の仕組みと課題



2

3

○現在、認証評価における評価の基準は、「学校教育法第百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令」（いわゆる細目省令）に基づき、法令と適合していることとされており、各認証評価機関は、この細目省令に基づいて、大学評価基準を設定している。

○しかし、具体的な基準の内容については、評価機関間において評価基準の水準に温度差があり、その評価結果（「適合」「不適合」）にわが国全体としての統一性がとれていない。

○認証評価機関は、評価機関間で同一水準の共通の基準を持ち、その共通の基準をもとに、公平に「適合」「不適合」の判断がなされる必要があるのではないかと。

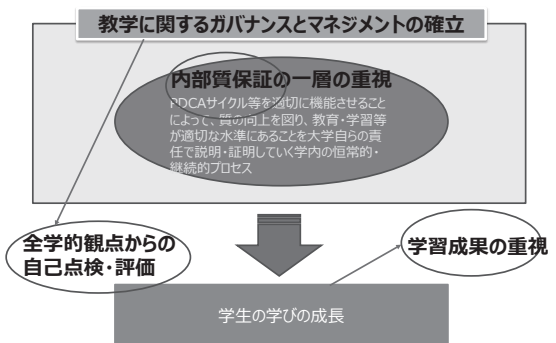
○共通の基準については、関係機関の意見を参考にしながら、評価機関間で自主的・自立的に設定・改定する体制を構築する必要がある（例えば、認証評価機関連絡協議会などにその機能を持たせることも考えられる。）。

○各認証評価機関は、こうした共通の基準に加え、独自基準を設定して各大学の個性・特長を伸長する評価を行う。

3

4

第3期認証評価の変更のポイント①



4

5

第3期認証評価の変更ポイント②

■ 大学の課題に焦点化した評価

- 大学、学部、研究科が掲げる理念・目的に基づく評価に重点
- 法令要件の充足状況の確認は、「基礎要件確認シート」を活用

■ 大学の特性に応じた評価

- 長所の位置づけの変更

■ 大学評価結果の判定とその後の対応

- 保留制度の設定 → 2020年度より廃止
- 改善報告書の検討結果の公表

5

6

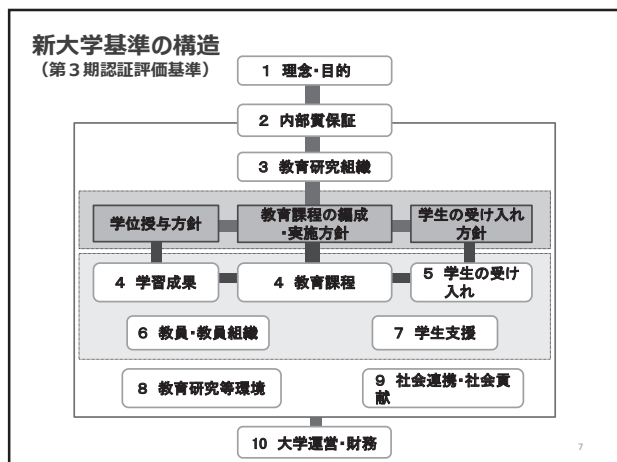
大学基準の改定（1）

■ 大学基準の構成の変更

現在の大学基準	第3期の大学基準
1. 理念・目的 2. 教育研究組織 3. 教員・教員組織 4. 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針 (2) 教育課程・教育内容 (3) 教育方法 (4) 成果 5. 学生の受け入れ 6. 学生支援 7. 教育研究等環境 8. 社会連携・社会貢献 9. 管理運営・財務 (1) 管理運営 (2) 財務 10. 内部質保証	1. 理念・目的 2. 内部質保証 3. 教育研究組織 4. 教育課程・学習成果 5. 学生の受け入れ 6. 教員・教員組織 7. 学生支援 8. 教育研究等環境 9. 社会連携・社会貢献 10. 大学運営・財務 (1) 大学運営 (2) 財務

6

7



8

大学基準の改定（2）

■ 大学基準の構成（主な変更点）

基準全体

- 「大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、～」とし、それぞれの大学の理念・目的に重要な位置づけを与えている。
- 大学は、理念・目的に照らして自己点検・評価を実施するとともに、大学基準協会の評価も当該大学の理念・目的に則して評価することを基本とする。

基準2「内部質保証」

- 位置づけの変更（基準10から基準2へ）を行い、より内部質保証を重視する評価とすることを強調した。
- 「大学基準及びその解説」において、内部質保証のあり方を明確にした。

9

大学基準の改定（3）

■ 大学基準の構成（主な変更点）

基準4「教育課程・学習成果」

- 基準4を「教育課程・学習成果」と名称変更し、内容を一部改定した。
- 方針に基づく、教育活動のPDCAサイクルを一連の流れとして把握し易くするため、下位4区分を1つにまとめた。
- 学習成果については、「評価方法や評価指標の開発に努めなければならない。」⇒「学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。」、「把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。」と、より一層重視。

基準10「大学運営・財務」

- 大学の管理部門だけではなく、広く教員、職員が一体となった大学の運営を意図し、「管理運営」から「大学運営」へと名称変更した。
- 大学運営における職員のあり方を明確にした。

10

内部質保証が求められる背景

■ 外的要請

- 少子化
 - 学生の獲得競争の熾烈化、多様化した学生の資質・能力への対応
- グローバル化への対応
 - 国際的通用力の確保、学位の質の保証へ
- 「出口」管理を通じた質保証の必要性
 - 社会に有為な人材を輩出、学習成果の可視化

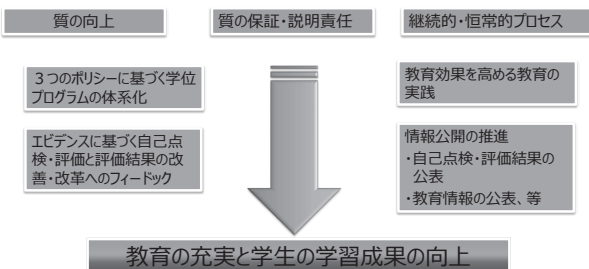
■ 内在する責務

- 自主・自律に支えられた高等教育機関
 - 与えられた権限とその行使に対する責務
 - 質の保証・向上に対する一義的責任

11

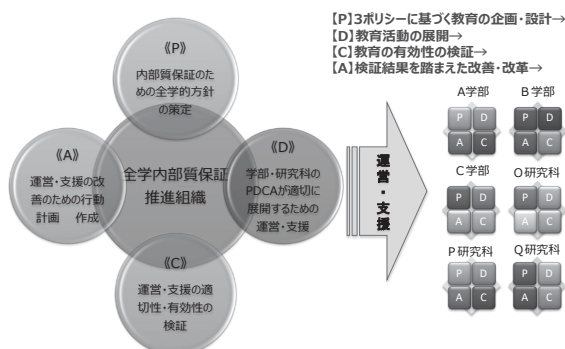
内部質保証の考え方

PDCAサイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明・証明していく学内の恒常的・継続のプロセス。

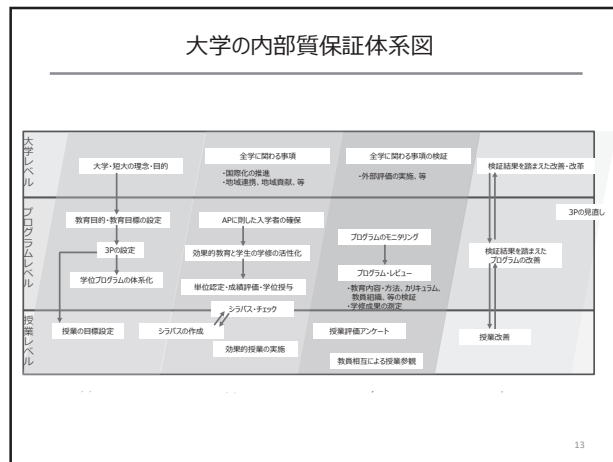


12

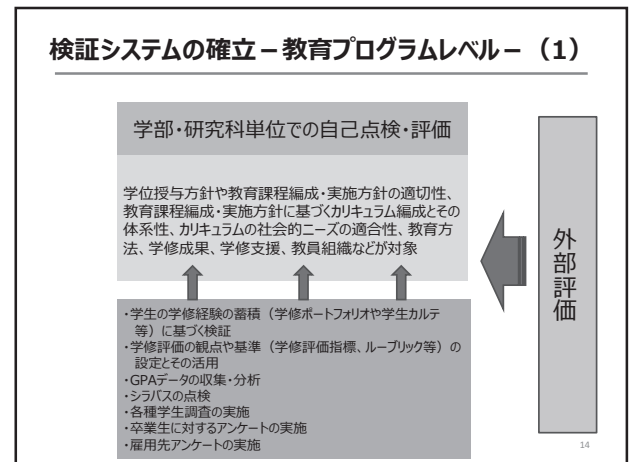
全学内部質保証推進組織と各部局との関係図（例）



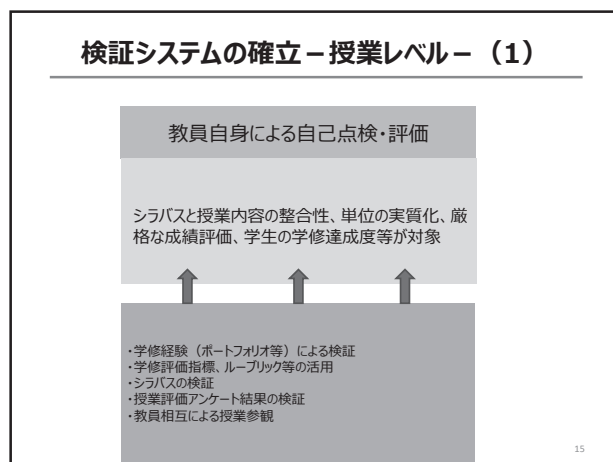
13



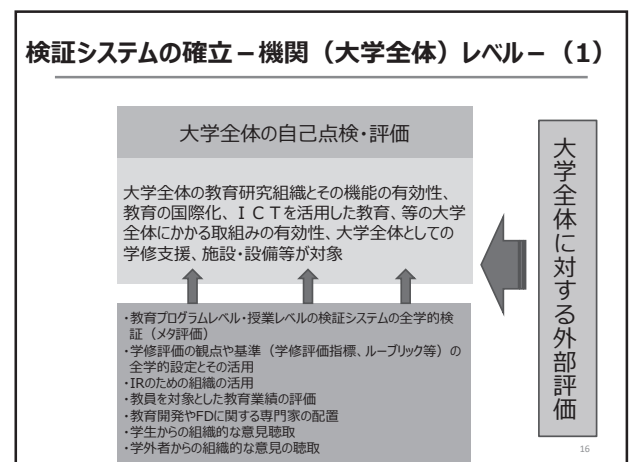
14



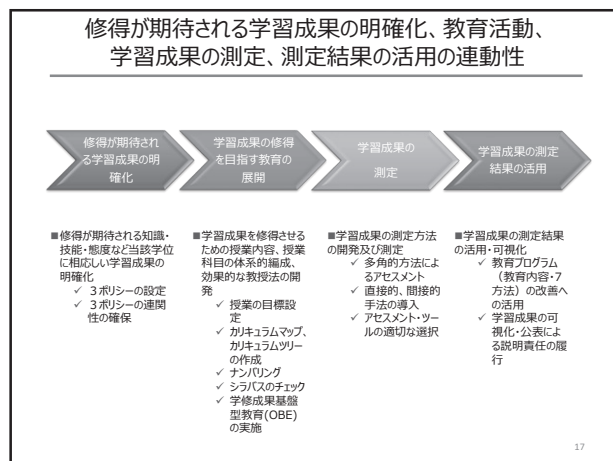
15



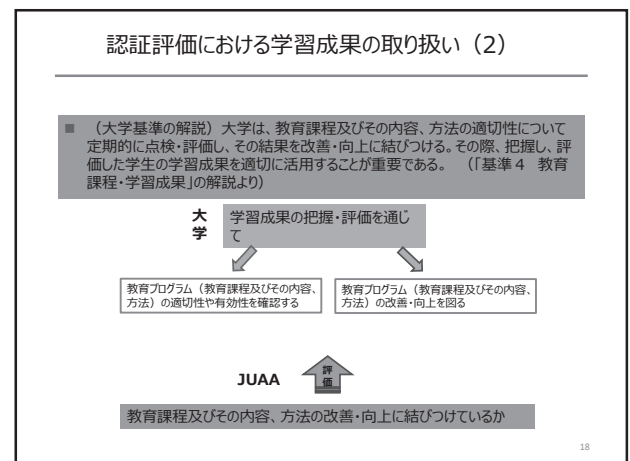
16



17



18



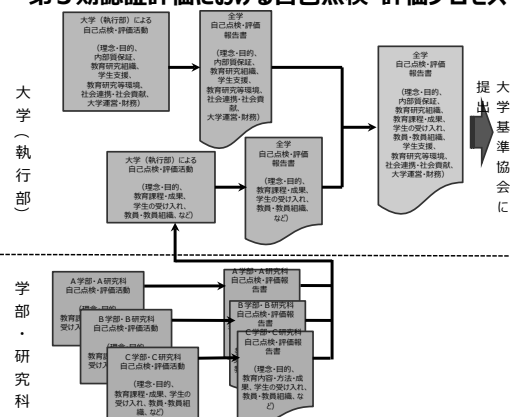
「全学的観点」からの自己点検・評価

■ 全学的観点による自己点検・評価

- 第3期認証評価における大学評価では、内部質保証を重視し、その実質化を促進させる観点から、“全学的観点による自己点検・評価”を求める。
- 『点検・評価報告書』の作成にあたっては、基準1～10を通して、全学的観点から行った自己点検・評価の結果をまとめる。
- “全学的観点による自己点検・評価”を行う上では、学部・研究科における自己点検・評価を前提としながら、それを全学としてどのように捉え、検証し、必要な対応（支援等）を行い、改善・向上につなげているか、という教育活動の「マネジメント」の視点が重要となる。

19

第3期認証評価における自己点検・評価プロセス



20

おわりに

- 大学教育の質保証の第一義的責任は大学自身にある
- 内部質保証システムの構築とその機能性の向上に主体的に取り組む
- 内部質保証によって、教育の充実と学生の学習成果の向上に結び付けなければならない
- 学生の「学習成果」を向上させたいという教職員の願いを共有することが内部質保証の出発点

21

本資料作成に当たっては(財)大学基準協会・工藤潤氏の協力を得たことを記して謝す。

22

1

2019年10月30日(水)
名城大学FDフォーラム 事例報告①

内部質保証システムの実質化に向けて ― 清泉女子大学の試み ―

清泉女子大学

清泉女子大学
Seisen University

2

清泉女子大学
Seisen University

目次

- I. 清泉女子大学について
- II. 内部質保証システムの概要
 - システム構築にあたり重視した点／
 - 運用と評価準備を同時並行で進める工夫／
 - 有効に機能させるための方策／評価終了後における継続的な取り組み
- III. 大学評価に向けた準備
 - 受審にあたっての留意点／
 - 「大学評価結果(分科会案)」における質問への対応／
 - 実地調査への対応／評価結果の受領について

2

3

清泉女子大学
Seisen University

I. 清泉女子大学について

- スペインで誕生した「聖心侍女修道会」が設立母体となり、1950年に4年制女子大学としてスタート
- キリスト教ヒューマンイズムの建学の精神に基づく大学の理念〈Veritas et Caritas〉を掲げる
- 1学部5学科、1研究科4専攻の人文学系の大学
- 学生数約2,000名、専任教職員約100名の小規模大学
- 教職員と学生の顔の見える関係を活かし、一人ひとりの良さを伸ばす丁寧な教育・支援

3

4



鹿鳴館の建築家ジョサイア・コンドル(1852-1920)による文化財としての価値ある建物で学ぶ学生達
「旧島津家本邸 本館及び事務所」が重要文化財に指定へ(2019/10/18)

4

5

清泉女子大学
Seisen University

II. 内部質保証システムの概要

5

6

清泉女子大学
Seisen University

1. 内部質保証システムの構築と運用

時期	対応
2016年度末	・「内部質保証に関する規程」の施行 ・内部質保証委員会の設置
2017年度 (申請前年度)	・本委員会を中心とする内部質保証システムの整備とPDCAサイクルの推進 ・大学基準に基づく全学的な点検・評価の実施 ・申請用報告書の作成
2018年度 (申請年度)	・点検・評価結果を踏まえた内部質保証システム等の改善 ・本改善に基づく点検・評価の実施 ・実地調査への対応

6

7

2. 本学の特性に応じた内部質保証システムの構築 (2017年度～)

- 1法人1大学1研究科1学部の小規模大学
- 「各教育研究組織・各部署」(各部署)の自主性を尊重する土壌
- 丁寧な議論を尽くしたうえで改善・改革を進める文化

↓

全学的な内部質保証システム構築にあたって重視した点

- 既存組織の有効活用
- 各部署で行われているPDCAサイクルの明示化
- 各部署の点検・評価結果を改善・向上につなげる仕組み作り
(＝各部署が自らPDCAサイクルを機能させる仕組みの構築)

全学的推進組織としての内部質保証委員会

8

3. 構成員 (2017年度～)

- 教学担当副学長(=委員長)を中心に、**教学のPDCAサイクルをはじめとする全学的な対応を遅滞なく進める**
- 2019年度は委員14名(教員8、職員6)。研究科長、教学IRチームのメンバー、FD委員も含まれる、バランスのとれた構成
- 理事長・学長はオブザーバーとして、必要に応じて参加

【構成員】

教学担当副学長(委員長)

常務理事から若干名

学務、学生、入試・広報部長

事務局長

学務、学生、入試課長

学部・研究科から専任教員若干名

専任職員から若干名

その他理事長が任命する者

9

4. 各部署との連携・役割分担 (2017年度)

- 基準協会の点検・評価項目に基づき、各部署がPDCAを回す

- 学部・研究科の主体性を尊重しつつ、必要な改善が図られるよう調整
(3ポリシーの点検・評価、学習成果可視化のための指標等の整備などについて、教授会等で説明・依頼)
- 各部署から取組み・達成状況・問題点等の報告を受け、**全学的観点から検証を行い、調整・依頼・支援**

システムの構築・運用と大学評価申請準備
(点検・評価報告書の執筆)を同時並行で進める

10

5. 点検・評価の実施と改善に向けた措置 (2017年度)

	2017年度改善が必要な事項(一部)	2018年度事業計画(一部)
内部質保証	(後述)	内部質保証システムの実質化
教育課程・学習成果	学習成果の可視化を図る取組みが一部不十分	アセスメント指標の導入と活用
学生の受け入れ	入学定員／収容定員充足率の問題	入学者選抜方法の点検・評価

各部署の点検・評価実施と改善課題の抽出

- 内部質保証委員会による検証
- 大学全体として取り組むべき事項を理事長・学長へ上申
- 理事長・学長より各部署へ改善措置を指示
- 次年度の事業計画へ盛り込み、改善へとつなげる

11

6. PDCAサイクルの一巡で明らかになった内部質保証システムに関する課題 (2018年度初め)

3つの改善すべき課題

改善1

- 質保証に関連する従来の業務や取組みと、新たに構築した質保証のPDCAサイクルとの関連が見えにくかった

改善2

- 内部質保証システムに対する学内の共通理解、PDCAサイクルの定着、アセスメント指標の整備は途上段階だった

改善3

- 内部質保証システム自体のさらなる検証が必要であった

12

改善1 PDCAサイクル見直しによる事業計画サイクルとの統合

- 既存の事業計画・事業報告、予算編成方針作成等のサイクルに、定期的な点検・評価・改善の仕組みを結びつけてPDCAを回す
- 改善策が新たなPDCAとして運用されていることを確認、支援する

理事長
学長

内部質保証委員会

各部署 (学務・学生・入試・広報)

大学方針
事業計画方針
事業計画(12月)

事業報告
事業計画(12月)

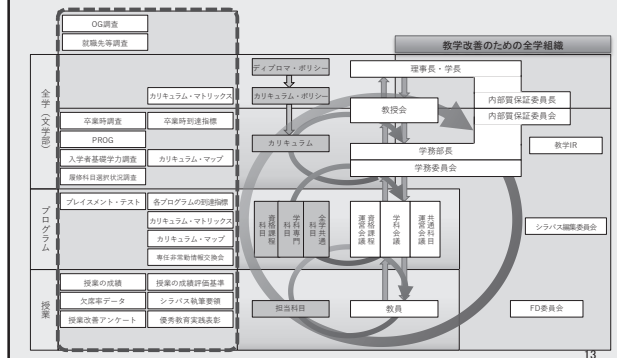
点検・評価
改善指示

改善事項・課題
改善(12月)

点検・評価報告書
(12月)

改善2 質保証体系の再整備

- PDCAサイクルを自律的に回す主体を、具体的な会議名・委員会名として明示
- 3層それぞれの点検・評価で用いるアセスメント指標を整理、補充



改善3 内部質保証システム自体の検証

➤ 現在は、C→A→Pの機能を強化し、各部局レベル・全学レベルで継続的な自己改善に取り組んでいる

2017年度点検・評価の結果(C)

- ➡ 改善策(A)を次年度事業計画(P)に盛り込む
- ➡ 改善状況等(D)を委員会でチェック(C)し、各部局にフィードバック
- ➡ 大学として改善が必要な事項を理事長・学長に要望書(A)として提出

改善を図っている各構成要素(赤字)

組織・体系	構成員、質保証の体系
方針	諸活動の方針、PDCAサイクルの回し方、規程
検証システム	エビデンスに基づく評価、自己点検・評価手順、アセスメント指標整備、外部評価
改善システム	全学的改善措置、恒常的・継続的改善サイクル

7. 認証評価を終えて-今後の展望-(1/3)

➤ 本学の特色・長所を大切にして、今後も取組みを加速させていく

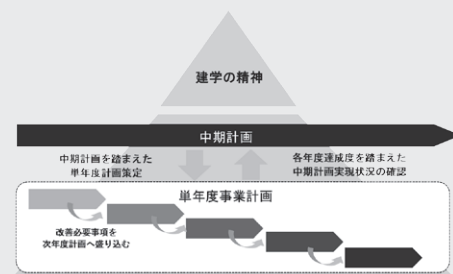
- (1)「建学の精神」に基づく教育・研究・施策の実践と充実
(2) 学生を大切にする教育・支援の展開

- 履修科目を選択する学生の行動パターン分析を踏まえた時間割編成
- 学修支援システムを利用した履修者と教員の双方間コミュニケーションの充実
- 出席システムを活用したきめ細やかな履修指導
- 学生カルテによる部署横断的な情報共有と学生の状況に応じた柔軟な支援
- 「教育・学修支援センター」の設立準備 など

- (3) 教員と職員が協力しあう大学運営
- (4) 行政機関・近隣大学等との積極的な連携事業の推進

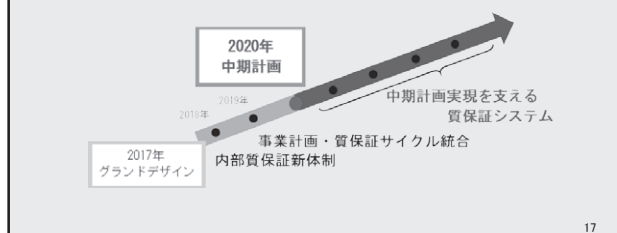
7. 認証評価を終えて-今後の展望-(2/3)

➤ 中期計画と単年度事業計画との連動を図りながら改善を進め、より中長期的な視点からPDCAサイクルを強化する



7. 認証評価を終えて-今後の展望-(3/3)

➤ 中期計画の実現を支えるための本学に適した質保証システムのあり方を模索し、引き続き、質保証システムの実質化に向けた改善を重ねていく。



III. 大学評価に向けた準備

1. 前年度・受審年度スケジュール

	大学スケジュール	大学基準協会 スケジュール
前年度	● 2月 委員会設置	
	● 7-10月 期中点検・評価	
	● 1月 外部評価	
	● 1-2月 期末点検・評価	
受審年度	● 4-9月 前年度点検・評価 結果に基づく改善	● 4月 報告書提出
	● 2月 期末点検・評価 認証評価結果に 基づく改善	● 9月 分科会案 ● 9-10月 実地調査
		● 12月 委員会案 ● 1月 意見申立て
		● 3月 認証評価結果

2. 受審にあたっての留意点

1. 認証評価機関の「大学基準」「点検・評価項目」や、「評価にかかる各種指針」「評価者の観点」などの十分な理解
2. 全学内部質保証推進組織のマネジメントによる改善実績
3. 問題点に関する具体的な改善策、改善の方向性の言及
4. エビデンスの保管

3. 大学基準協会機関別認証評価 2018年度「大学評価」結果(27大学)

【基準2 内部質保証】

- 各組織の権限・役割分担、連携等の整理が不十分、規程と実態の乖離
- 具体的な改善指示の内容、指示系統などの改善プロセスが不透明

【基準4 教育課程・学習成果】

- 学位授与方針に示した学習成果の把握が不十分
- 単位の実質化が不十分
- 学位論文審査基準、研究指導方法・スケジュールが未設定・未公表

【基準5 学生の受け入れ】

- 収容定員に対する在籍学生数比率
- 入学定員に対する入学学生数比率

4. 大学評価結果(分科会案)における質問への回答について

- 「大学評価結果(分科会案)」を受領後、質問事項(計59)に対する回答及び見解等を提出した
- 幾つかの基準で「評価保留」となり、学内で懸念が広がった
- 自己評価より低い評価結果もあった

(質問の一部)

基準2(内部質保証)

- ・ 改善にあたって、「内部質保証委員会」は内部質保証推進組織としてどのように関わったか、教えてください。
- ・ 内部質保証システム自体の適切性について、どのように検証したのか、あるいはこれからどのようにしていくのか、教えてください。

基準4(教育課程・学習成果)

- ・ 教育の質保証に関するPDCAサイクルにおいて、「内部質保証委員会」が果たす役割と、現時点での取り組みの状況について説明してください。

5. 実地調査について(1/3)

➢ 基準協会より評価者5名、外部有識者2名、事務局3名来訪

【面談スケジュール】(2018年度版)

1日目: 全体面談(1) 2時間
大学のプレゼンテーション(30分)／本件に関する質疑応答(30分)
各基準へのコメント・質疑応答(60分)

個別面談(1) 1時間
学生の受け入れの状況

2日目: 個別面談(2) 1時間
教育課程の状況(カリキュラム改革等)

個別面談(3) 1時間
社会連携・社会貢献の状況
(生涯学習の運営等)

全体面談(2) 1時間50分
最終確認・総括・感想等



面談会場に用意した根拠資料

5. 実地調査について(2/3)

➢ インタビューに参加する学生

インタビューに参加要請のあった学生について、学科・学年・経験等について基準協会から予め指定されたが、条件を満たすために、1名増やして6名とした

➢ 施設見学

当初予定していた一部施設の見学に加え、全体面談(2)を受けて、話題となったラーニング・コモンズ(学生の自主学習スペース)の見学も追加した



ラーニング・コモンズでの学生報告会の様子

5. 実地調査について(3/3)



【全体面談】

- 教育の質保証体系の考え方、PDCAサイクルの機能のさせ方
- 内部質保証委員会と各チーム・委員会等の関わり方
- 単位の実質化についての考え方、学生に対するサポート方法
- 学生インタビューの内容を受けての質問

【個別面談(学生の受け入れ)】

- 定員管理の工夫や方策
- 内部質保証委員会による指示や支援の状況

【学生インタビュー】

- 卒業論文での指導やゼミの様子
- 在学中成長したこと
- 現在の履修単位数
- 大学への要望、要望の伝え方

25

6. 大学評価(認証評価)結果の受領



【大学評価(分科会案)からの主な変更】

- ・ 是正勧告1件減、長所2件増、保留2件の評定確定、1件の評定アップ
- ・ 2018年度前期(実地調査前)までの改善が認められ、評価に反映された

内部質保証システムは2016(平成28)年度末に定められたばかりであり、PDCAサイクルが実際に機能しているとは未だ言い難い。



2016(平成28)年度に設置された「内部質保証委員会」が、関連する各委員会や会議による点検・評価の結果に基づき、改善・向上の取組みを指示・支援し、内部質保証システムの適切性についても点検・評価を定期的に行う仕組みが整備されている。

26

7. 最後に



- 報告書提出以降も**改善を続けることが重要**。実地調査では十分な情報を提供し、評価者に正しく現状を認識していただけた
- 教職協働で進めていく伝統を大切に、小規模大学であることを生かし、教職員が一丸となり、短期間で今回の認証評価に照準を合わせ対応を行うことができた
- 今後は、中期計画の実現を支える質保証システムへと改善を図り、より中長期的な視点からもPDCAサイクルが機能するよう、内部質保証委員会がその役割を果たしていく



27

1

名城大学 第21回 FDフォーラム／2019.10.30

玉川大学における教育改革

学校法人 玉川学園理事（高等教育担当）
稲葉興己

2



はじめに

- 学校法人玉川学園 1929（昭和4）年設立
- 玉川大学 1949（昭和24）年設置認可（新制大学令）
- 東京都町田市玉川学園6-1-1（61万㎡）
- 文学部・農学部・工学部・経営学部・教育学部・芸術学部・リベラルアーツ学部・観光学部
- 8学部（在学者数7,178名、2019年5月1日現在）
- 文学研究科・農学研究科・工学研究科・教育学研究科・マネジメント研究科・脳科学研究科
- 6研究科（在学者数125名、2019年5月1日現在）
- K-16が同一キャンパス

▶ 2

Tamagawa University

3

Outline

- 玉川大学における教育改革
- 第3期大学評価を受審して



▶ 3

Tamagawa University

4

主な教育改革

- ① 単位制度の実質化
 - 半期履修登録上限単位を16単位に設定
⇒ 授業外学修時間の確保
 - ② 学修支援の強化
 - ラーニング・コモンズに学修支援専従の教職員を配置
⇒ 学生の意欲的な学修を支援し、主体的な学びへの動機づけを行う
 - ③ 全学科の授業開設単位を見直し
 - 各学科専門科目の開設単位を149単位以内に設定
⇒ ディプロマポリシーに基づいたカリキュラムポリシーの設定
教員の空き時間を確保
 - ④ 卒業要件の見直し
 - 全学部の卒業要件にGPA2.00以上を付加
⇒ 履修主義から修得主義への転換
 - ⑤ 警告制度の導入
 - 学期毎のGPAが2.00以上でない場合は警告
■ 警告4回で退学処分
⇒ 履修主義から修得主義への転換
 - ⑥ アクティブ・ラーニングの推進と学修成果の可視化
 - 全開講科目においてアクティブ・ラーニングを導入
■ 知識・理解に加え、汎用的能力、態度・志向性を含めて評価
⇒ 授業における到達目標を達成
- など 2011年にTamagawa Vision 2020 を策定し、教育の質保証をキーワードにした様々な取り組みを展開している

▶ 4

Tamagawa University

5

① 単位制度の実質化

- ▶ どうすれば学生が学修できるようになるか？
- ▶ どうすれば学生が毎日8時間の学修をするようになるか？
- ▶ 1週間に可能な学修時間
 - ▶ 学修時間の算出は一日の労働時間に基づく
 - ▶ 8時間×5日＝40時間⇒40時間（2400分）÷5日＝480分（8時間）
- ▶ 8時間を基準とした学修時間の確保に必要な履修単位数⇒16単位CAP制
 - ▶ 16単位×150分＝2400分（40時間）
 - ▶ 履修登録上限を半期16単位（年間32単位）に設定
 - ▶ 大学設置基準の遵守＝学生にきちんと学修させるシステムの確立



▶ 5

Tamagawa University

6

玉川大学における履修のかたち

▶ 春学期

通常授業期間 (18週間)
最大16単位まで履修可能 GPAに応じて18単位（GPA3.20以上）の履修も可能

Summer Session 集中授業期間 (約8週間)
最大6単位まで履修可能

▶ 秋学期

通常授業期間 (18週間)
最大16単位まで履修可能 GPAに応じて18単位（GPA3.20以上）の履修も可能

Winter Session 集中授業期間 (約8週間)
最大6単位まで履修可能

▶ 6

Tamagawa University

④ 卒業要件の見直し

- 全学部の卒業要件に累積GPA2.00以上を付加
(観光学部はさらにTOEIC700点以上)

	評価	評価点	GP	評価基準
S	Excellent	90～100	4.00	特に優秀であると評価する
A	Good	80～89	3.00	優秀であると評価する
B	Satisfactory	70～79	2.00	妥当であると評価する
C	Minimal Pass	60～69	1.00	最低限度であると評価する
F	Fail	59以下	0.00	不合格
I	Incomplete			成績評価保留
W	Withdraw			履修取り消し
P	Pass			合格と認定する

- 成績証明書には、学期GPA、累積GPA、学年GPAを記載 (成績評価基準)
➢ 「C」評価は単位認定されるが、学修成果としては不十分

▶ 13

Tamagawa University

⑤ 警告制度の導入

- 2017年度入学生～

- GPAをすべての学期において2.00以上とし、累積GPA(2012～2016年度は当該学期GPA)に変更

年次	1		2		3		4	
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
累積 GPA	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00

- 警告による制限

1回	本人に成績不振に対する学修指導ガイダンス等を実施
2回	本人・保証人との面談を実施
3回	退学勧告(本人・保証人との面談を実施し、退学するか学修を継続するかは本人が選択する)
4回	退学処分

▶ 14

Tamagawa University

警告の状況

- 2012年度入学者(1,947名)

年度	2012		2013		2014		2015		計(%)
学年	1年		2年		3年		4年		
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
1回目	216	92	166	86	47	35	44	15	701(36.0)
2回目		92	71	66	45	43	22	24	363(18.6)
3回目			31	26	22	13	11	3	106(5.4)

▶ 15

Tamagawa University

警告の状況

- 2013年度入学者(1,871名)

年度	2013		2014		2015		2016		計(%)
学年	1年		2年		3年		4年		
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
1回目	133	123	165	64	27	22	26	16	576(30.8)
2回目		79	69	47	20	23	19	10	267(14.3)
3回目			24	30	20	13	10	12	109(5.8)

▶ 16

Tamagawa University

警告の状況

- 2014年度入学者(1,973名)

年度	2014		2015		2016		2017		計(%)
学年	1年		2年		3年		4年		
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
1回目	126	65	178	57	40	32	39	22	559(28.3)
2回目		57	76	47	48	23	27	14	292(14.8)
3回目			25	30	15	19	21	20	130(6.6)

▶ 17

Tamagawa University

⑥ アクティブ・ラーニングの推進と学修成果の可視化

- 授業におけるアクティブ・ラーニングの実施状況

調査対象時期	配布科目数	回収科目数	回収率	アクティブ・ラーニング実施科目数
平成26年度通年	教員毎	669	-	661
平成27年度通年	教員毎	683	-	674
平成28年度秋学期	1,419	830	58.5%	827
平成29年度春学期	1,459	857	58.7%	857
平成29年度秋学期	1,397	814	58.3%	812
平成30年度春学期	1,473	905	61.4%	905
平成30年度秋学期	1,410	907	64.3%	906

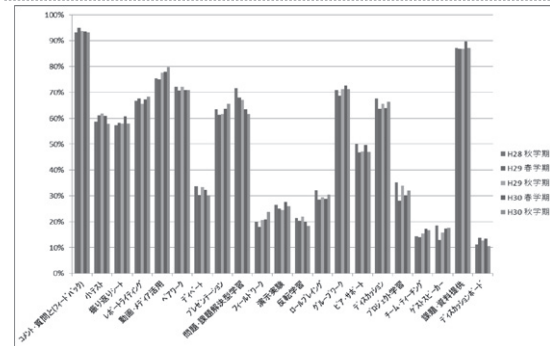
※平成26・27年度は教員毎、平成28・29・30年度は科目毎の調査となっている。

▶ 18

Tamagawa University

19

授業に取り入れた手法や工夫



▶ 19

Tamagawa University

20

本学における学修成果の可視化

- 最終学年で到達度テスト等を実施するものではない
- 個々の授業における到達目標をどれくらい達成できたかを数値化
- 数値化のロジックはGPAの算出方法を採用
- 到達目標の達成度を測定する方法は、試験、レポート、ルーブリック等で、科目担当者に一任
- 評価基準はシラバスに明示
- 本学の学修成果の可視化に関するシステム(仕組み)を検証・確立させるために外部検定や学生調査を活用

▶ 20

Tamagawa University

21

玉川大学が育成する能力：DPの基準

■ 学士力

知識・理解	汎用的能力	態度・志向性
- 多文化・異文化に関する知識の理解 - 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	- 問題解決力 - コミュニケーション・スキル(読む、書く、話す、聴く) - 数量的スキル - 情報リテラシー - 論理的思考力	- 自己管理能力 - チームワーク - リーダーシップ - 倫理観 - 市民としての社会的責任 - 生涯学習力

↓

CP, APとの整合性・体系性に配慮

▶ 21

Tamagawa University

22

学生ポートフォリオの構成

項目	内容
Student Life	(1) 目標設定と振り返り 学期の初めに、指定された項目に対して自分で目標を設定し、学期末に目標を達成できたかどうかを振り返り、自己評価します。 科目の成績評価と同様に、S、A、B、C、Fの5段階評価で入力してください。
Learning	(1) 授業振り返りシート 履修登録をした全科目に対して毎回の授業が終わった後に、授業の感想、授業外学習の内容と費やした時間等を記録していきます。 科目の成績評価に加味されますので、科目担当教員の指示に従って、期日までに記入してください。
	(2) 科目自己評価 学期末に履修登録をした全科目に対して自己評価をします。 科目の成績評価と同様に、S、A、B、C、Fの5段階評価で入力してください。 入力することにより、実際の成績評価と自己評価を比較することができます。
総合評価シート	それぞれの項目ごとに「総合評価シート」として、次のような図で示されます。 (1) 成績評価リーダーチャート (2) 科目自己評価リーダーチャート (3) Student Life レーダーチャート (4) GPA 経年変化折れ線グラフ 自分の記録を振り返り、以降の学修状況と学生生活に役立ようように活用してください。

▶ 22

Tamagawa University

23

学生ポートフォリオの活用 (授業の振り返り)

▶ 23

Tamagawa University

24

学生ポートフォリオの活用 (科目自己評価)

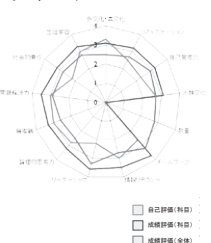
▶ 24

Tamagawa University

25

学修成果（成績評価レーダーチャート）

文文学部レーダーチャート



学士力	授業を通して修得できる力	自己評価(科目)	成績評価(科目)	成績評価(全体)
知識・理解	多文化・異文化に関する知識の理解	3.3	3.1	2.5
	人間の文化、社会と自然に関する知識の理解	2.7	3.1	2.7
	コミュニケーション・スキル	2.5	3.2	2.7
	創造的スキル	0.0	0.0	2.8
汎用的技能	情報リテラシー	3.0	3.5	2.7
	論理的思考力	2.8	3.2	2.5
	問題解決力	3.0	3.5	2.9
	自己管理能力	2.3	3.2	2.9
	チームワーク	2.6	3.7	3.2
態度・志向性	リーダーシップ	2.2	3.6	3.3
	倫理観	3.0	3.3	2.6
	市民としての社会的責任	2.2	3.2	2.8
	生涯学習力	3.0	3.3	2.8

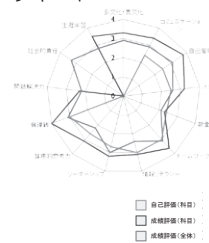
▶ 25

Tamagawa University

26

学修成果（成績評価レーダーチャート）

理文学部レーダーチャート



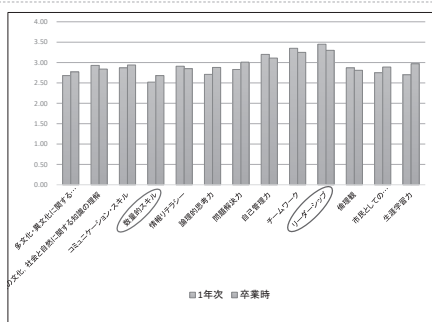
学士力	授業を通して修得できる力	自己評価(科目)	成績評価(科目)	成績評価(全体)
知識・理解	多文化・異文化に関する知識の理解	0.0	3.3	2.9
	人間の文化、社会と自然に関する知識の理解	2.5	3.2	2.6
	コミュニケーション・スキル	2.4	3.4	2.9
	創造的スキル	2.4	2.3	2.1
汎用的技能	情報リテラシー	3.0	3.1	2.4
	論理的思考力	2.6	3.1	2.2
	問題解決力	0.0	2.3	2.2
	自己管理能力	2.5	3.8	3.1
	チームワーク	3.0	3.6	3.1
態度・志向性	リーダーシップ	2.7	3.2	3.0
	倫理観	3.0	4.0	3.1
	市民としての社会的責任	0.0	0.0	3.3
	生涯学習力	3.0	3.5	2.8

▶ 26

Tamagawa University

27

2015年度入学生の学士力獲得状況

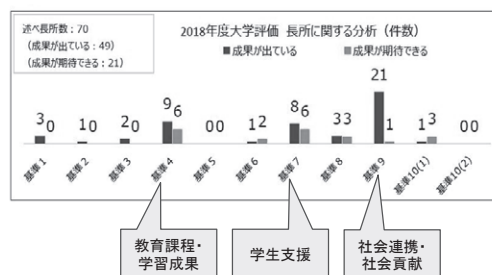


▶ 27

Tamagawa University

28

2018年度大学評価結果（27大学）

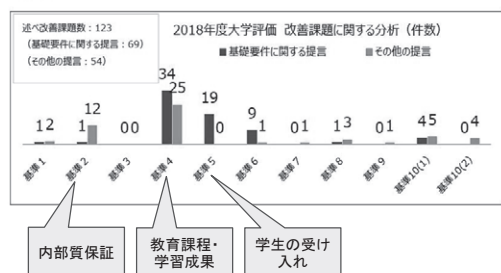


▶ 28

大学基準協会HP
Tamagawa University

29

2018年度大学評価結果（27大学）



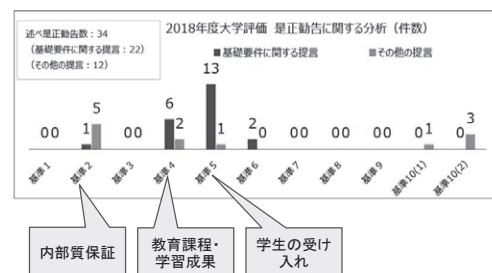
▶ 29

Tamagawa University

大学基準協会HP

30

2018年度大学評価結果（27大学）



▶ 30

Tamagawa University

大学基準協会HP

31

本学の大学評価結果

▶「適合」の認定

<提言>

- 長所: 7 (理念・目的、教育課程・学習成果、教員・教員組織、学生支援、教育研究等環境、社会連携・社会貢献、大学運営・財務)
- 改善課題: 3 (内部質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ)
- 是正勧告: 1 (学生の受け入れ)

▶ 31

Tamagawa University

32

苦労した点 (受審前年度)

1. 基準ごとの書き分け
(プログラム等の目的は何か、文脈としてどちらが適切か)

例1) 外部試験を活用している場合

- ・成績評価の客観性の担保を目的としている場合は、
基準4-⑤ (成績評価の適切性)
- ・学修成果の指標としている場合は、
基準4-⑥ (学習成果の把握)



観光学部の TOEIC®活用は 成績評価の適切性担保、学修成果の指標、両方を目的としていたため、両基準に記載。
(但し、ページ数削減のため、後出の4-⑥では簡単な記載にとどめた。)

▶ 32

Tamagawa University

33

苦労した点 (受審前年度)

例2) 地域交流、国際交流等のプログラム

- ・正課 (DP、CPと関連) の場合は基準4 (教育課程・学習成果)
- ・正課外の場合は基準7 (学生支援)
- ・正課・正課外に限らず、目的がキャリア形成の場合は基準4
社会貢献の場合は基準9 (社会連携・社会貢献)

芸術学部プロジェクト型授業は
基準4-③ (教育課程の適切性) 「学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な…」に記載

経営学部の企業との連携 (PBL) は
基準4-④ (学習の活性化、効果的な教育) 「学生の主体的参加を促す…」に記載

工学部の企業との連携 (調査・研究) は
基準9-② (社会連携) に記載

など

▶ 33

Tamagawa University

34

苦労した点 (受審前年度)

2. 「自己点検・評価報告書」を110ページ以内に収めること
- ・限られたページ数の中で、いかに8学部6研究科の事例を万遍なく記載するか。
記載されない学部・研究科のモチベーションが下がることへの懸念から、本学では全学部・研究科の事例を全基準を通して1か所以上は記載することにした。

- ・結果として、特に「問題点」「長所」は記述内容を絞らざるを得なかった。

▶ 34

Tamagawa University

35

苦労した点 (受審年度)

3. 評価者の「議事録」へのこだわり

PDCAをまわしている記録 (毎年の点検・評価結果等の記録と改善策の実行記録) があっても、「議事録」がないため「改善課題」として指摘



1. 2. 3. により、認証評価は作文が8割という感想

▶ 35

Tamagawa University

36

次年度以降に受審する大学へのアドバイス

PDCAが機能しているか証明するには
改善指示系統、最終決定者を明らかにすることが重要

⇒改善フローのあらゆる場面において
議事録等の記録を証拠として残すこと

▶ 36

Tamagawa University

第1回新任教員FD研修会実施報告

令和元年12月6日（金）、天白キャンパスタワー75 T1002教室において、名古屋大学高等教育センターの中島英博准教授を講師に迎え、主に新任教員を対象に「大学の授業を設計する」と題した新任教員FD研修会を実施しました。

当日は、授業設計のポイントとして、目標の明確化、評価方法、学習経験と指導方法等について学び、グループワーク等を通じて理解を深めました。

研修後のアンケートにおいて、受講者全員の方から「満足した」との回答をいただきました。



教育功労賞表彰報告

教育功労賞制度とは、学校法人名城大学職員規則第47条に基づき、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的として表彰するものです。

表彰の種類は、各学部及び研究科等における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者及びグループ（事務職員を含む）を表彰する教育功労賞と、その対象者の中で、特に全学的な取組として波及できる可能性のあるものを表彰する特別教育功労賞から成っており、いずれも各学部及び研究科等からの推薦された対象者について大学教育開発センター委員会で候補者として相応しいか否かを選考し、大学協議会での審議を経て学長が決定するものです。

令和元年度の候補者は1件の推薦があり、大学教育開発センター委員会（令和2年1月9日開催）で慎重に審査した結果、推薦のあった1件を教育功労賞候補者として相応しいと認め、大学協議会（令和2年1月24日開催）において、承認されました。

記

教育功労賞表彰者について

氏 名	所属学部	表彰対象となった活動・テーマ
海外プログラム実施・運営 コアメンバーズ	外国語学部	学部ベースの海外プログラムの実施・運営と 国際共修経験による教育効果

※審査の結果、特別教育功労賞については、該当者なしと決定しました。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

外国語学部

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等 外国語学部 候補者氏名 津村 文彦教授 他 1 名

組タイトル 学部ベースの海外プログラムの実施・運営と国際共修経験による教育効果

グループ名 海外プログラム実施・運営コアメンバーズ

外国語学部・津村文彦教授（代表）

ナゴヤドーム前キャンパス事務室（外国語学部事務室併任）・菱田圭祐（事務職員）

1. 推薦理由

この度、本学部では津村文彦教授および菱田圭祐主査両者から成る海外プログラム実施・運営コアメンバーズ（以下、コアメンバーズ）を推薦したい。本大学にも国際化推進センターというセンター組織があることから推察されるように、留学プログラムの運営業務は驚くほど多岐にわたる。これらの業務に学部設立から 4 年間にわたって携わり、外国語学部のセメスター留学や各海外研修を全般的に実施運営してきたのが、教員と職員 2 名の連携から成るコアメンバーズである。これより、推薦の根拠として、3 ヶ年で約 8 割の参加率を誇る本学部の海外プログラムについて（図 1）、①「海外プログラム準備・企画段階」とそれ以後の②「運営業務」とに分け、それぞれの段階においてコアメンバーズが担当してきた業務内容を網羅的に示す。

①海外プログラム準備・企画段階

海外プログラムの実施運営に向け、外国語学部開設（2016年）以前より、海外プログラムの目的・内容・期間・留学先国など大枠の決定、留学先大学・旅行会社・留学エージェントなどとの交渉、単位認定などの仕組み検討、受験生向け広報物への留学プログラムの落とし込みなどを行った。

また、学部開設年度には、次年度からの海外プログラム実施に向け、申込手続方法や、関連スケジュール、学部内危機管理体制なども整えた。

②運営業務

長期留学、セメスター留学、海外フィールドワークなど多岐に及ぶ海外プログラムの実施に際し、常に「安全・確実」を意識した上で、留学先大学・旅行会社・留学エージェントなどと常に連携しながら、次のような業務を主に行なっている。海外プログラムに対し、高い期待値を抱き入学している学生も多いため、その点についても留意し、業務に取り組んでいる。

【留学前】

- ・留学／海外プログラム参加希望者に向けた情報発信
- ・旅程の決定、留学／海外プログラム実施に向けた学内外各種手続き等
- ・準備／危機管理オリエンテーション（複数回）
- ・留学個別面談のスケジュール調整と実施
- ・保護者対象留学相談会

【留学中】

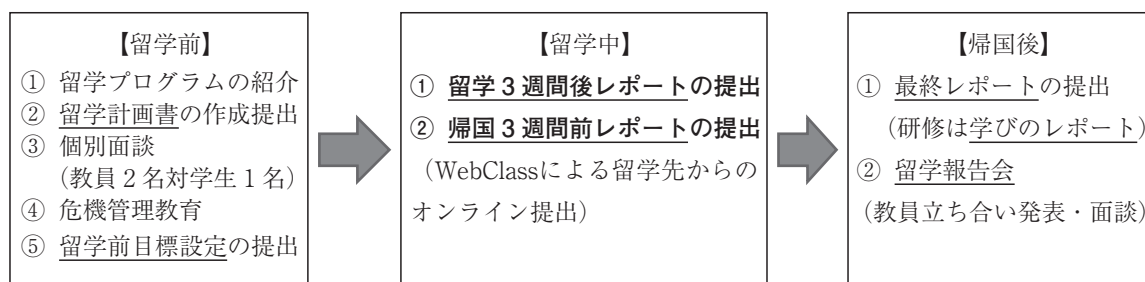
- ・問題発生時の学生／保護者対応（ホームステイ・寮におけるトラブル、自然災害、体調不良など）
- ・留学レポートのチェック

【帰国後】

- ・留学報告会の調整・開催

2. 取組の発展性について

留学プログラムを軸とした本取組の発展性は、学生による留学の学びを最大限に引き出すために入念に練られた体系的アセスメントにある。その体系は【留学前】、【留学中】、【帰国後】から成り、下記のように構成されている。



この体系的アセスメントは、留学を単なる語学力向上のための機会に終わらせないように工夫されている。例えば、留学前に行われる個別面談は、提出された各学生の留学計画書を資料にさまざまな質問をすることによって、学生自身の主体的な学びを引き出すことを目的にしている。また、複数回にわたって実施されるレポートは、その折々の学生の留学状況を我々がつぶさに把握するためだけでなく、留学中の学生たちが自身の学びを客観的に内省できるよう計算されている。

この体系的アセスメントは、既存の学内LMS（Learning Management System）であるWebClassを用いて実施されるので、国際化推進センターでのプログラムをはじめ、他学部での海外留学及びフィールドワークでの活用も可能である。

3. その他教育活動に係る特記事項

プログラム参加学生の学びと成長

本申請の主たる理由はコアメンバーズの労苦はもちろんのこと、プログラムの高い教育効果によって示される彼らの功績にある（添付資料参照）。その教育効果は、まず、プログラム参加者に顕著な（１）TOEIC スコアのより高い伸び率に現れている（図 2-1, 2-2）。また、留学前後の CEFR 型アンケートの分析による（２）英語力上達実感度の向上がある。学生の英語力自己認識は留学前の A2・B1（初級及び中級）から帰国後の B2・C1（より熟達した英語使用者）へと変化している（図 3）。さらに、（３）異文化感受性 6 段階における成長実感において、留学前の第 3 段階「文化の共通点や相違点を否定せず理解する」から第 5 段階の「異なる文化を理解し行動できる」へと引き上げられている（図 4-1）。加えて、留学レポートのテキストマイニングによる客観的分析結果でも 6 段階中 4 段階への引き上げが認められる（図 4-2）。時間の経過とともに「文化の違い」のみを着目する第 2 段階から第 3 段階の「国が違えば考え方も違うがみな同じ」という「違いを最小化する」段階を経て、第 4 段階の「文化の共通点や相違点を否定せず理解する」という「受容」まで達していることが分かる。図 4-1 と図 4-2 には指標の違いから少しずれがみられるが、異文化に関する感受性は大きく伸びている。以上のように、留学の効果を多くの客観的指標を使って分析した結果、留学においては、英語力の向上だけでなく、異文化に対する感受性も高まっていることが証明されている。大学及び本学の目指すグローバル人材養成の目標にかなった教育効果を生み出しているといえる。（テキストマイニングとは、大量の文章データ（テキストデータ）から、有益な情報を取り出す自然言語解析の手法であり、単語の出現頻度や共起関係を分析することができる。）

2019年度 教育功労賞 申請資料（外国語学部）

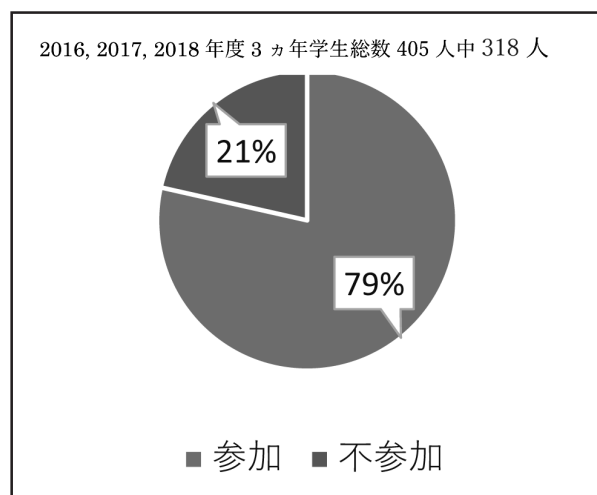


図 1 セメスター留学参加率

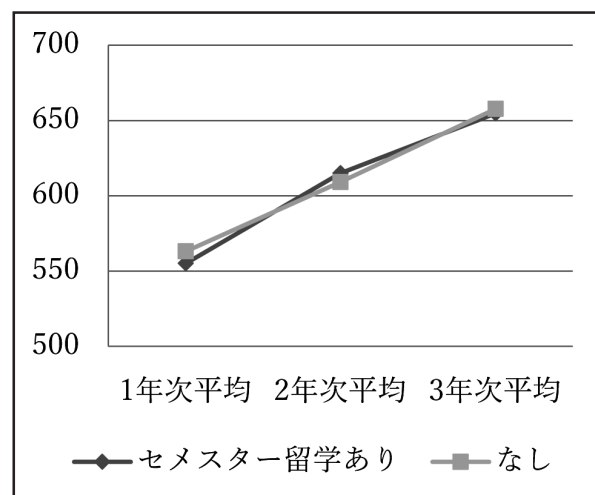


図 2-1 TOEIC スコアの伸び（2016年度生）

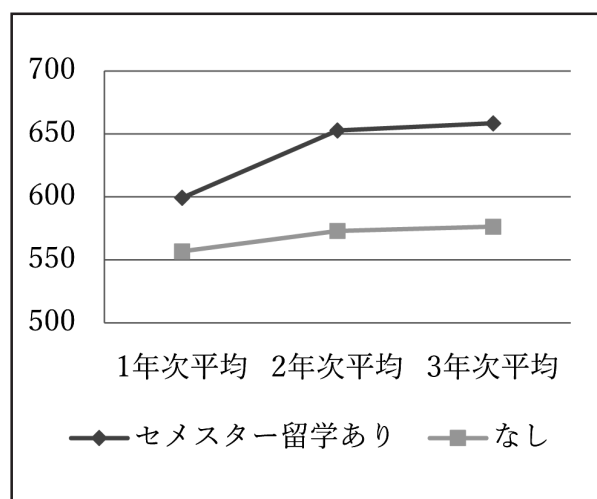


図 2-2 TOEIC スコアの伸び（2017年度生）

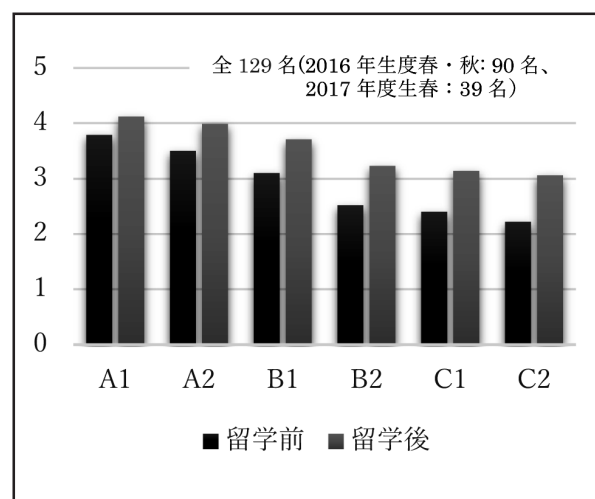


図 3 英語力向上認識度（CEFR）

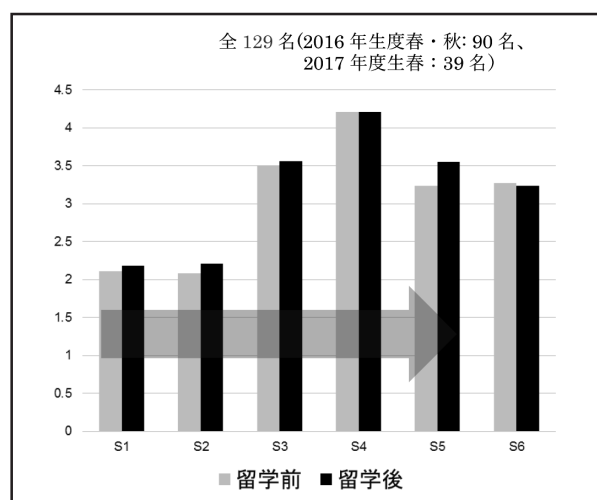


図 4-1 異文化感受性発達尺度（自己申告）

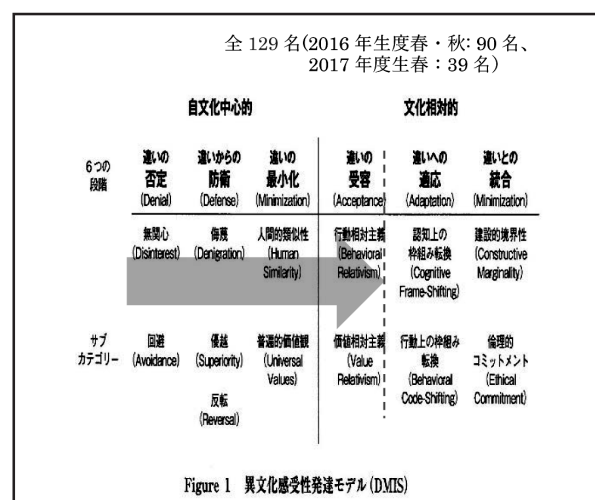


図 4-2 異文化感受性発達尺度（テキストマイニング分析）

7. 資 料

大学教育開発センター要項

（目的）

第1条 大学教育開発センター（以下「本センター」という。）は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動の実施及び各学部、研究科へのFD活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

（業務）

第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
- (2) 教員の教育力向上に関すること
- (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
- (4) 高大連携及び接続教育に関すること
- (5) その他必要な事項に関すること

（センター長）

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

（委員会）

第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学教育開発センター長
- (2) 学務センター長のうち1名
- (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
- (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
- (5) 教職センターから選出された教育職員1名
- (6) 大学教育開発センター事務部長
- (7) 学務センター事務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。

④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附 則

① この要項は、平成29年4月1日から施行する。

② 従前の「FD委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

令和元年度 所属別 FD 活動参加状況

所属		所属人数 (※1)	R1前期 授業改善 アンケート	R1後期 授業改善 アンケート	FD フォーラム	第1回 新任教員 FD 研修会	教育 功労賞 (※2)	教育年報 (※3)		学外セミナー・ 研究集会等 への派遣 (※4)
								教育 実践報告 寄稿	教育功労賞 受賞者による 特別寄稿	
教 員	学長・副学長	5	2	3	4	0	0	0	0	0
	法学部	法学科	32	30	27	4	1	0	0	0
		応用実務法学科	13	10	12	3	0	0	0	1
	経営学部	計	45	40	39	7	1	0	0	1
		経営学科	17	15	15	4	0	0	0	0
		国際経営学科	15	13	13	4	1	0	0	0
		計	32	28	28	8	1	0	1	0
	経済学部	経済学科	17	16	15	11	0	0	0	0
		産業社会学科	12	11	10	9	1	0	0	0
		計	29	27	25	20	1	0	0	0
	理工学部	理工学部	0	0	0	0	0	0	0	0
		数学科	18	18	18	5	0	0	0	0
		情報工学科	19	16	17	10	1	0	1	0
		電気電子工学科	18	14	11	3	1	0	0	0
		材料機能工学科	12	10	9	0	0	0	0	0
		応用化学科	10	10	9	2	0	0	0	0
		機械工学科	15	14	14	7	0	0	0	0
		交通機械工学科	15	11	13	8	3	0	0	0
		メカトロニクス工学科	12	11	10	1	3	0	0	1
		社会基盤デザイン工学科	13	7	9	3	0	0	0	0
		環境創造学科	12	11	10	1	0	0	0	0
		建築学科	17	12	12	2	0	0	0	0
		教養教育	17	14	14	9	0	0	0	0
		計	178	148	146	51	8	0	1	0
	農学部	農学部	1	1	0	0	0	0	0	0
		生物資源学科	13	12	13	7	0	0	0	1
		応用生物化学科	12	11	12	3	1	0	0	0
		生物環境科学科	13	11	12	4	0	0	0	0
		教養教育等	2	1	0	0	0	0	0	0
		附属農場	5	1	0	0	0	0	0	0
		計	46	37	37	14	1	0	0	1
	薬学部	薬学科	66	20	23	11	2	0	3	0
		教養教育等	3	0	0	0	0	0	0	0
		計	69	20	23	11	2	0	3	0
	都市情報学部	都市情報学科	27	25	23	7	0	0	0	1
	人間学部	人間学科	22	21	22	10	0	0	0	1
	外国語学部	国際英語学科	26	24	24	5	1	1	0	4
	大学院法務研究科		7	0	0	0	0	0	0	0
	教職センター		8	8	8	8	0	0	0	0
	小計	494	380	378	145	15	1	5	5	4
職 員	監査室	2	0	0	1	0	0	0	0	0
	学長室	2	0	0	2	0	0	0	0	0
	秘書室	2	0	0	1	0	0	0	0	0
	経営本部	11	0	0	3	0	0	0	0	0
	総合政策部	6	0	0	2	0	0	0	0	0
	総務部	18	0	0	1	1	0	0	0	0
	渉外部	13	0	0	0	0	0	0	0	0
	財政部	15	0	0	3	0	0	0	0	0
	施設部	12	0	0	2	0	0	0	0	0
	スポーツマネジメント室	2	0	0	1	0	0	0	0	0
	入学センター	18	0	0	3	0	0	0	0	0
	学務センター	25	0	0	8	1	0	0	0	0
	保健センター	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	教職センター	4	0	0	1	0	0	0	0	0
	大学教育開発センター	5	0	0	4	4	0	0	0	12
	学術研究支援センター	14	0	0	1	0	0	0	0	0
	キャリアセンター	16	0	0	1	0	0	0	0	0
	国際化推進センター	11	0	0	1	0	0	0	0	0
	情報センター	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会連携センター	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	障がい学生支援センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	附属図書館	9	0	0	1	0	0	0	0	0
	法学部	6	0	0	1	0	0	0	0	0
	経営学部	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	経済学部	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	理工学部	16	0	0	2	0	0	0	0	0
	農学部	17	0	0	2	0	0	0	0	0
	薬学部	10	0	0	2	0	0	0	0	0
	都市情報学部	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	人間学部	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	外国語学部	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	ナゴヤドーム前キャンパス事務室	12	0	0	0	0	0	0	0	0
	愛知総合工科高等学校専攻科	3	0	0	0	1	0	0	0	0
	附属高校	9	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	288	0	0	43	7	1	0	0	12
	計	782	380	378	188	22	2	5	5	16

- ※1 令和元年10月1日現在。
(教員：助手を含む。終身教授、特任教授(1・2・3号)は含まない。副学長は学部から除く。／事務職員：業務職・契約職員を含む。派遣職員は含まない。)
- ※2 延べ人数。グループでの申請の場合は構成員もそれぞれ1とカウントする。
- ※3 延べ人数。共同執筆者もそれぞれ1とカウントする。なお、所属は受賞当時のものとする。
- ※4 延べ人数。

8. おわりに

あ　と　が　き

大学教育開発センター

本報告書は、本学における FD 活動や正課外教育活動についてまとめたものであり、大学教育開発センター委員会や各学部・研究科・センターの FD・SD 活動状況及びその内容について詳細を示しております。

本学の FD 活動は、各学部・研究科・センターが主体となって FD を推進するとともに、大学教育開発センター委員会がその活動をサポートする形で企画運営や各種取組を行っています。平成12年度から始まった本学の FD はこのようにして、教育改善についての堅実な土台が形成されております。

大学教育開発センターでは、「大学教育開発センター委員会」の下、国の文教政策の動向を踏まえつつ、本学がますます発展するよう、引き続き、教育改善に取り組むとともに、SD も意識して活動してまいります。本報告書で、今年度の本学の FD 活動や正課外教育の現状をご確認いただくことで、皆様の教育改善の一助となりますことを願っております。

最後に、本報告書の企画・編集、各 FD・SD 活動の企画・運営にご協力いただいた皆様方に、心より御礼申し上げます。

令和2年3月

発 行：名城大学 大学教育開発センター委員会

編 集：名城大学 大学教育開発センター

住 所：〒468-8502
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電 話：(052)838-2033

FAX：(052)833-5230

